Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

メモ： 操作上、知っておくと便利な情報が記載されています。

注意： ハードウェアの破損またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その問題を回避するための方法も示されています。

警告： 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示します。

略語およびその定義の一覧は、「用語集」を参照してください。

Dell™ n Series コンピュータをご購入いただいた場合、このマニュアルの Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

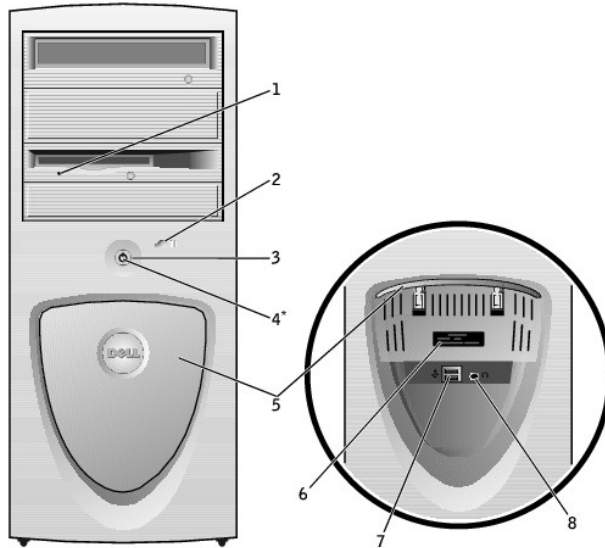
Model DHM

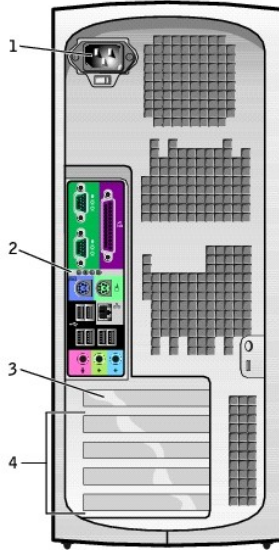
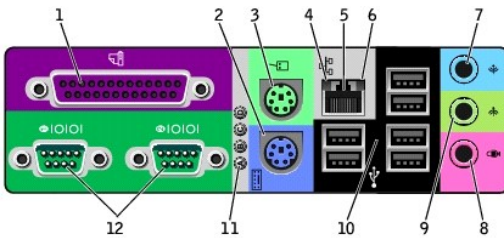
2003 年 1 月　P/N 3T439　Rev. A02

[目次ページに戻る]

お使いのコンピュータ

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

コンピュータの正面

1	フロッピードライブライト*	フロッピードライブライトは、コンピュータがフロッピードライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトが消えてから、フロッピーディスクをドライブから取り出します。
2	ハードドライブライト	ハードドライブライトは、コンピュータがハードドライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CDプレイヤーなどのデバイスが動作中も点灯します。
3	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意：** データの消失を防ぐため、電源ボタンを使ってコンピュータの電源を切らないでください。Microsoft® Windows®のシャットダウンを実行してください。
4	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 消灯 — コンピュータは、電源が切れた状態です。 緑色の点灯 — コンピュータは、通常の動作状態です。 緑色の点滅 — コンピュータは、省電力状態です。 省電力状態から復帰するには、電源ボタンを押すか、マウスをクリックまたは動かします。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、「診断ライト」を参照してください。
5	正面パネルドア	正面パネルコネクタを使用する際に、このドアを開きます
6	サービスタグ	このタグは、Dell Supportウェブサイトにアクセスする際やテクニカルサポートに問い合わせる際に、コンピュータを識別するために使用します。
7	USB 2.0コネクタ(2)	ジョイスティックやカメラなど、ときどき接続するデバイスには、正面USBコネクタを使用します。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面USBコネクタを使用することをお勧めします。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンを接続します。
*オプションのフロッピードライブを搭載したコンピュータの場合		

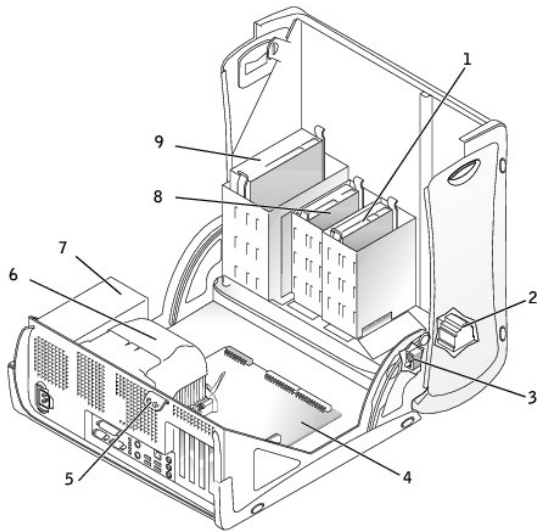
コンピュータの背面

1	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
2	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスのプラグを対応するコネクタに差し込みます。
3	AGPカードスロット	取り付けられたすべてのAGPカード用のアクセスコネクタです。
4	PCIカードスロット（4）	取り付けられたすべてのPCIカード用のアクセスコネクタです。

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USBプリンタをお使いの場合、USBコネクタに差し込みます。 **メモ：** 同じアドレスに設定されたパラレルコネクタを持つカードをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細については、「セットアップユーティリティ」を参照してください。
2	キーボードコネクタ	標準のキーボードをお使いの場合、紫のキーボードコネクタに差し込みます。USBキーボードをお使いの場合、USBコネクタに差し込みます。
3	マウスコネクタ	標準のマウスは、緑のマウスコネクタに差し込みます。コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスの電源を切ってから、マウスをコンピュータに接続します。USBマウスをお使いの場合、USBコネクタに差し込みます。 お使いのコンピュータでMicrosoft® Windows® 2000を実行中の場合、Dellではハードドライブに必要なマウスドライバをインストール済みです。
4	リンク保全ライト	• 緑 — 10 Mbpsネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 • オレンジ — 100 Mbpsネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。また、1 GB（または100 Mbps）接続を示します。 • オフ — コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
5	ネットワークアダプタ	UTPケーブルをUTP集線デバイスまたはハブにあるRJ45ジャックの側面あるいはRJ45ポートに接続し、UTPケーブルのもう一方の端をケーブルが所定の位置にカチッと収まるまでネットワークアダプタコネクタに押し込みます。 お客様のネットワーク用には、カテゴリ5のケーブルとコネクタのご使用をお勧めします。
6	ネットワーク動作ライト	コンピュータがネットワークデータを送信または受信している際に、黄色のライトが点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
7	ライン入力コネクタ	青色のライン入力コネクタ（内蔵サウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、カセットプレーヤー、CDプレーヤー、VCRなどの録音／再生デバイスを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのライン入力コネクタを使用します。
8	マイクコネクタ	ピンクのマイクコネクタ（内蔵サウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、音声または音楽入力用のパソコンマイクをサウンドあるいはテレフォニープログラムに接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのマイクコネクタを使用します。
9	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（内蔵サウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。

		サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのライン出力コネクタを使用します。
10	USB 2.0コネクタ(6)	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面USBコネクタを使用します。 ジョイスティックやカメラなど、ときどき接続するデバイスには、正面USBコネクタを使用することをお勧めします。
11	診断ライト(4)	診断ライトは、診断コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、「診断ライト」を参照してください。
12	シリアルコネクタ(2)	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ1がCOM1でシリアルコネクタ2がCOM2です。 詳細については、「セットアップユーティリティ」を参照してください。

コンピュータの内部

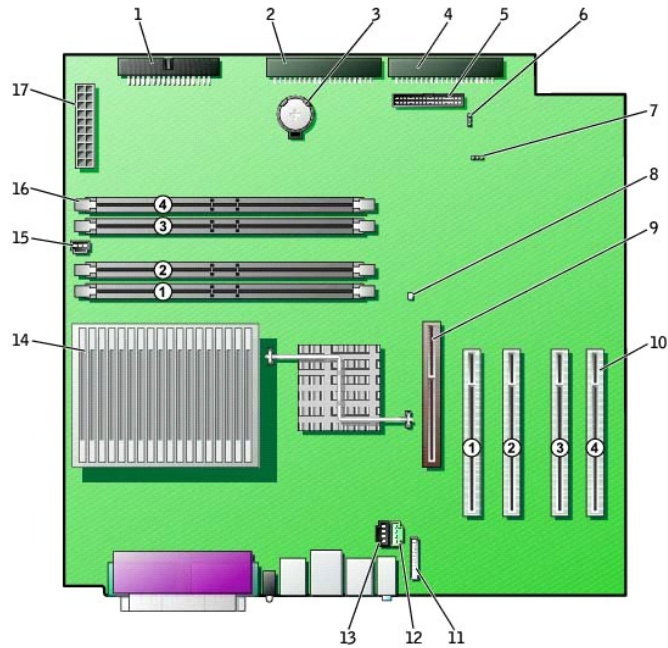
警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

警告：感電を防ぐため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータカバーを開く際は、間違ってシステム基板からケーブルを外さないように注意してください。

1	ハードドライブ	6	ヒートシンクと送風装置アセンブリ
2	内蔵スピーカー	7	電源装置
3	シャーシイントルージョンスイッチ	8	フロッピードライブ
4	システム基板	9	CD/DVDドライブ
5	パドロックリング		

ケーブルの色

デバイス	色
ハードドライブ	青色のプルタブ
フロッピードライブ	黒のプルタブ
CD/DVDドライブ	オレンジのプルタブ

システム基板のコンポーネント

コンピュータの背面

1	フロッピードライブコネクタ（DSKT）	10	PCIカードコネクタ（PCI1、PCI2、PCI3、PCI4）
2	CD/DVDドライブコネクタ（SEC _IDE）	11	正面パネルオーディオケーブルコネクタ（FRONTAUDIO）
3	バッテリソケット（BATTERY）	12	テレフォニーコネクタ（MODEM）
4	ハードドライブコネクタ（PRI_IDE）	13	CDドライブオーディオケーブルコネクタ（CD_IN）
5	正面パネルコネクタ（FRONTPANEL）	14	マイクロプロセッサおよびヒートシンクコネクタ（CPU）
6	パスワードジャンパ（PSWD）	15	マイクロプロセッサファンコネクタ（FAN2）
7	CMOSジャンパクリア（CLR_CMOS）	16	メモリモジュールコネクタ（RIMM 1、RIMM 2、RIMM 3、およびRIMM 4）
8	スタンバイ電源ライト(AUX_PWR)	17	電源コネクタ（POWER）
9	AGPカードコネクタ（AGP）		

目次ページに戻る

目次ページに戻る

アドバンストラブルシューティング

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

診断ライト

問題のトラブルシューティングを容易にするため、お使いのコンピュータには背面パネルに「A」、「B」、「C」、および「D」とラベルされた4つのライトが装備されています。これらのライトは、黄色または緑色です。コンピュータが正常に起動すると、ライトが点灯します。コンピュータが起動した後、ライトは緑色に点灯したままです。コンピュータが誤動作している場合、ライトの色や組み合わせ順によって問題を識別できます。

警告：この項の手順を実行する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
A B C D	通常のオフの状態、または電源障害が起こる可能性があります。	コンピュータの電源ケーブルのプラグがコンピュータおよびコンセントに挿入されているか確認します。電源ボタンを押します。
YYYG A B C D	BIOS障害の可能性があります。コンピュータは修復モードです。	BIOS修復ユーティリティを実行し、BIOSの修復処理が完了するのを待って、コンピュータを再起動します。
YYGY A B C D	マイクロプロセッサが不良の可能性があります。	マイクロプロセッサを取り付けなおし、コンピュータ再起動します。
YYGG A B C D	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しています。	メモリモジュールおよびCRIMMをすべて取り外し、再度取り付けます。コネクタタブがすべてロックされているか確認します。コンピュータを再起動します。 メモリモジュールをメモリコネクタのRIMM 1（マイクロプロセッサに最も近い位置）およびRIMM 2に取り付け、追加のメモリが使用されていないこと、CRIMMがメモリコネクタのRIMM 3およびRIMM 4に取り付けられていることを確認します。 メモリコネクタのRIMM 3およびRIMM 4に取り付けたメモリモジュールがDellから購入されたものでない場合、モジュールを取り外し、最初にコンピュータに取り付けられていたCRIMMと交換します。 同じ種類のDell製のメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
YGYY A B C D	拡張カード障害の可能性があります。	1. 拡張カード（ビデオカードではない）を取り外し、コンピュータを再起動してコンフリクトが起きているか調べます。 2. 問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 3. 各カードでこの手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合、コンピュータから取り外した最後のカードのリソースコンフリクトのトラブルシューティングをおこないます（「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照）。 4. 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
YGYG A B C D	ビデオカード障害、または内蔵ビデオが不良の可能性があります。	コンピュータにビデオカードが取り付けられている場合、カードを取り外し、取り付けなおします。 問題が解決しない場合、またはビデオがコンピュータに内蔵されている場合、Dellにお問い合わせください。
YGGY A B C D	フロッピードライブまたはハードドライブ障害の可能性があります。	すべての電源ケーブルおよびデータケーブルの接続を確認し、コンピュータを再起動します。
YGGG A B C D	USB障害の可能性があります。	すべてのUSBデバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。

GYYY A B C D	メモリモジュールが取り付けられていません。	すべてのメモリモジュールを取り付けなおし、コンピュータ再起動します。 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
GYYG A B C D	システム基板に不具合の可能性があります。	「システム基板の問題」の手順を実行します。 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
GYGY A B C D	メモリモジュールは検出されましたが、メモリの設定または互換性エラーが存在します。	特別なメモリモジュール／メモリコネクタ設置要件がないか確認します（「メモリ」を参照）。 取り付けようとしているメモリモジュールがコンピュータと互換性があるか確認します（「メモリ」を参照）。 メモリモジュールを取り付けなおし、コンピュータ再起動します。 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
GYGG A B C D	システム基板リソースおよびハードウェアのどちらかまたは両方に不具合の可能性があります。	「システム基板の問題」および「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」の手順を実行します。 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
GGYY A B C D	拡張カード障害の可能性があります。	1. 拡張カード（ビデオカードではない）を取り外し、コンピュータを再起動してコンフリクトが起きているか調べます。 2. 問題が解決しない場合、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外してコンピュータを再起動します。 3. 各カードでこの手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合、コンピュータから取り外した最後のカードのリソースコンフリクトのトラブルシューティングをおこないます（「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照）。 4. 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
GGGY A B C D	その他の障害が発生しました。	ハードドライブ、CDドライブ、およびDVDドライブからシステム基板へケーブルが正しく接続されているか確認します。 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
GGGG A B C D	POST後の通常の動作状態を示します。	特にありません。

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニタにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音が連続して鳴ることがあります。このビープ音はビープコードと呼ばれ、問題を特定します。ビープコードには、ビープ音がまず1回鳴り、次に連続して3回鳴ってから、1回鳴るものがあります（コード1-3-1）。このビープコードは、コンピュータにメモリの問題が発生していることを示します。

起動時にコンピュータがビープ音を発する場合、次の手順を実行します。

1. 診断チェックリストにビープコードを書き込み、次の表で推奨される処理を実行します。
2. Dell診断プログラムを実行し、その原因をつきとめます。
3. Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

コード	原 因
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM
1-1-4	ROM BIOSチェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマ
1-2-2	DMA初期化障害
1-2-3	DMAページレジスタ読み書き障害
1-3	ビデオメモリテスト障害
1-3-1 ～ 2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブDMAレジスタ障害
3-1-2	マスタDMAレジスタ障害
3-1-3	マスタ割り込みマスクレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクタロード障害
3-2-4	キーボードコントローラテスト障害
3-3-1	NVRAM電力損失
3-3-2	NVRAM構成

3-3-4	ビデオメモリテスト障害
3-4-1	画面初期化障害
3-4-2	画面リトレース障害
3-4-3	ビデオROMの検索障害
4-2-1	タイムチックなし
4-2-2	シャットダウン障害
4-2-3	ゲートA20の障害
4-2-4	保護モードで予測外の中断が発生
4-3-1	アドレス0FFFFh以上のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップカウンタ2の障害
4-3-4	刻時機構が停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルポートテスト障害
4-4-2	シャドウメモリにコードを解凍できない
4-4-3	数値演算コプロセッサテスト障害
4-4-4	キャッシュテスト障害

Dell診断プログラム

Dell診断プログラムを使用するとき

コンピュータに問題が発生した場合、Dellテクニカルサポートに問い合わせる前に、「問題の解決」のチェック事項を実行してから、Dell診断プログラムを実行してください。Dell診断プログラムを実行することによって、Dellに問い合わせなくても問題を解決できる場合があります。Dellに問い合わせる場合、テストの結果はDellのサポート担当者に重要な情報を提供します。

Dell診断プログラムでは、以下のことが可能です。

- 1つまたはすべてのデバイスのクイックテスト、全体テスト、またはカスタムテストの実行
- 起きている問題の症状に基づいたテストの選択
- テストが実行される回数の選択
- テスト結果の表示
- エラーが検出された場合のテストの中断
- テストとデバイスについて説明したオンラインヘルプ情報へのアクセス
- テストが正常に終了したかどうかを知らせるステータスメッセージの受信
- 問題が検出された場合のエラーメッセージの受信

Dell診断プログラムの起動

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意： Dell診断プログラムは、Dell™コンピュータ専用です。このプログラムを別のコンピュータで使用すると、エラーメッセージが表示されます。

セットアップユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

ハードドライブまたは『Drivers and Utilities CD』（『ResourceCD』とも呼ばれます）からDell診断プログラムを起動します。

ハードドライブからのDell診断プログラムの起動

1. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。
2. DELL™ロゴが表示されたらすぐに、<F12>を押します。

メモ： 診断プログラムユーティリティパーティションが検出されませんというメッセージを受信した場合、手順に従って『Drivers and Utilities CD』から Dell診断プログラムを実行します。

ここで時間をおきすぎてMicrosoft® Windows®ロゴが表示されてしまったら、Windowsデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition**をハイライト表示して、<Enter>を押します。
4. Dell Diagnostics Main Menuが表示されたら、実行するテストを選びます。

『Drivers and Utilities CD』からのDell診断プログラムの起動

1. CDドライブに『Drivers and Utilities CD』を挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

DELL™ロゴが表示されたらすぐに、<F12>を押します。

ここで時間をおきすぎてWindowsのロゴが表示されてしまったら、Windowsデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

メモ： この機能は、起動順序を1回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3. 起動デバイスの一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device**をハイライト表示して、<Enter>を押します。
4. CDの起動メニューから**IDE CD-ROM Device**オプションを選びます。
5. 表示されたメニューから**Boot from CD-ROM**オプションを選びます。
6. 1と入力してResourceCDメニューを起動します。
7. 2と入力してDell診断プログラムを起動します。
8. 番号の付いた一覧から**Run the 32 Bit Dell Diagnostics**を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのプラットフォームに該当するバージョンを選びます。
9. Dell Diagnostics Main Menuが表示されたら、実行するテストを選びます。

Dell診断プログラムのメインメニュー

1. Dell診断プログラムがロードされ**Main Menu**画面が表示されたら、希望のオプション用のボタンをクリックします。

 メモ： お使いのコンピュータのサービスタグナンバーは、各テスト画面の一番上にあります。

オプション	機 能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは10～20分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初にExpress Testを実行すると、問題をすばやく特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは1時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

2. テスト中に問題を検出すると、エラーコードと問題の説明を示すメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

   エラーが解決できない場合、Dellにお問い合わせください。

3. **Custom Test**または**Symptom Tree**オプションからテストを実行する場合、以下の表で詳細について説明したタブをクリックします。

タブ	機 能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	発生したエラーの状態、エラーコード、および問題の説明を表示します。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell診断プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手し、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとはかぎりません。
Parameters	テストの設定を変更してテストをカスタマイズすることができます。

4. 『Drivers and Utilities CD』からDell診断プログラムを実行している場合、テストが終了したらCDを取り出します。
5. テスト画面を閉じ、**Main Menu**画面に戻ります。Dell診断プログラムを終了してコンピュータを再起動するには、**Main Menu**画面を閉じます。

ドライバ

ドライバとは？

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

キーボードドライバなど、ドライバの多くはMicrosoft® Windows®オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムをアップグレードした場合
- オペレーティングシステムを再インストールした場合
- 新しいデバイスを接続または設置した場合

デバイスに問題が起こった場合、次項にある手順を実行して問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要な場合にはドライバをアップデートしてください。

ドライバの識別

Windows XP

1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **コントロールパネル**ウィンドウの**作業する分野を選びます**で、**パフォーマンスとメンテナンス**をクリックします。
3. **パフォーマンスとメンテナンス**ウィンドウで、**システム**をクリックします。

4. **システムのプロパティ**ウィンドウで、**ハードウェア**タブをクリックします。
5. **デバイスマネージャ**をクリックします。
6. **デバイスマネージャ**ウィンドウで一覧をスクロールダウンし、デバイスアイコン上の感嘆符（[!]の付いた黄色の円）の付いたデバイスを探します。

   デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

Windows 2000

1. **スタート**ボタンをクリックし、**設定**をポイントして、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **コントロールパネル**ウィンドウで、**システム**をダブルクリックします。
3. **システムのプロパティ**ウィンドウで、**ハードウェア**タブをクリックします。
4. **デバイスマネージャ**をクリックします。
5. **デバイスマネージャ**ウィンドウで一覧をスクロールダウンし、デバイスアイコン上の感嘆符（[!]の付いた黄色の円）の付いたデバイスを探します。

   デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

ドライバの再インストール

メモ： デバイスドライバとユーザーマニュアルにアクセスするには、Windowsを実行中に『ResourceCD』を使用する必要があります。

1. CDドライブに『Drivers and Utilities CD』を挿入します。

   初めて『Drivers and Utilities CD』をご使用になる場合、インストールウィンドウが開きCDがインストールを開始することを知らせます。**OK**をクリックし、インストールプログラムプロンプトに従って、インストールを完了します。

2. **Dell ResourceCD用のInstallShieldウィザードへようこそ**画面で、**次へ**をクリックします。
3. **システムモデル**、オペレーティングシステム、および**トピック**の適切な選択をおこないます。
4. **トピック**ドロップダウンメニューで**マイドライバ**をクリックします。

   『Drivers and Utilities CD』はコンピュータのハードウェアとオペレーティングシステムをスキャンし、次にシステム設定用のデバイスドライバの一覧を表示します。

5. 該当するドライバをクリックし、指示に従ってお使いのコンピュータ用のドライバをダウンロードします。

お使いのコンピュータに利用できるすべてのドライバの一覧を表示させるには、**トピック**ドロップダウンメニューの**ドライバ**をクリックします。

Dellの「Drivers and Utilities CD ガイド」にアクセスするには、**トピック**ドロップダウンメニューで**ユーザーズガイド**をクリックして、**Dell Precision ResourceCD**をクリックします。

システムの復元の使い方

Microsoft® Windows® XPオペレーティングシステムは、システムの復元を提供しています。システムの復元を使って、ハードウェア、ソフトウェア、または他のシステム設定への変更が原因でコンピュータの動作に不具合が生じた場合、（データファイルに影響を与えずに）以前の動作状態に戻すことができます。システムの復元の使い方については、Windowsのヘルプを参照してください。

注意： データファイルは定期的にバックアップをおこなってください。システムの復元は、データファイルを監視したり、データファイルを復元しません。

復元ポイントの作成

1. **スタート**ボタンをクリックします。
2. **ヘルプとサポート**をクリックします。
3. **システムの復元**をクリックします。
4. 画面の指示に従います。

コンピュータの以前の動作状態への復元

注意： お使いのコンピュータを以前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、開いているプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまでは、ファイルやプログラムを変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。
2. **コンピュータを以前の状態に復元する**が選択されているか確認して、**次へ**をクリックします。
3. コンピュータを以前の状態に復元する時点の日付をクリックします。

   復元ポイントの選択画面に、復元ポイントが選べるカレンダーが表示されます。すべての利用可能な復元ポイントのある日付が太字で表示されます。

4. 復元ポイントを選んで、**次へ**をクリックします。

   日付に復元ポイントが1つだけある場合、その復元ポイントが自動的に選ばれます。2つ以上の復元ポイントが利用可能な場合、希望の復元ポイントをクリックします。

5. **次へ**をクリックします。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、**復元は完了しました**画面が表示され、コンピュータが自動的に再起動します。

6. コンピュータが再起動したら、**OK**をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

最後のシステムの復元の取り消し

注意： 最後におこなったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、開いているプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまでは、ファイルやプログラムを変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。
2. **以前の復元を取り消す**をクリックし、**次へ**をクリックします。
3. **次へ**をクリックします。

   システムの復元画面が表示され、コンピュータは自動的に再起動します。

4. コンピュータが再起動したら、**OK**をクリックします。

システムの復元の有効化

200 MBしか空容量のないハードディスクにWindows XPを再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されています。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス**をクリックします。
3. **システム**をクリックします。
4. **システムの復元**タブをクリックします。
5. **すべてのドライブでシステムの復元を無効にする**にチェックマークが外されているか確認します。

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

Microsoft® Windows® XP

Windows XP IRQコンフリクトは、デバイスがオペレーティングシステムのセットアップ中に検出されない、または検出されても正しく設定されていない場合に発生します。

Windows XPを実行しているコンピュータでコンフリクトを調べるには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス**をクリックして、**システム**をクリックします。
3. **ハードウェア**タブをクリックして、**デバイスマネージャ**をクリックします。
4. **デバイスマネージャ**一覧で、その他のデバイスとのコンフリクトをチェックします。

   コンフリクトは、コンフリクトを起こしているデバイスの横の黄色の感嘆符（!）、またはデバイスが無効な場合は赤のXで示されます。

5. コンフリクトをダブルクリックして、**プロパティ**ウィンドウを表示します。

   IRQコンフリクトが存在する場合、**プロパティ**ウィンドウの**デバイスの状態**領域にデバイスのIRQを共有するカードまたはデバイスが表示されます。

6. デバイスを再設定するか、デバイスを**デバイスマネージャ**から取り外してコンフリクトを解消します。

Windows 2000

Windows 2000を実行しているコンピュータでコンフリクトを調べるには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**設定**をポイントして、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **コントロールパネル**ウィンドウで、**システム**をダブルクリックします。
3. **ハードウェア**タブをクリックします。
4. **デバイスマネージャ**をクリックします。
5. **表示**をクリックし、次に**リソース（接続別）**をクリックします。
6. **割り込み要求（IRQ）**をダブルクリックして、IRQの割り当てを表示します。

   コンフリクトは、コンフリクトを起こしているデバイスの横の黄色の感嘆符（!）、またはデバイスが無効な場合は赤のXで示されます。

7. コンフリクトをダブルクリックして、**プロパティ**ウィンドウを表示します。

   IRQコンフリクトが存在する場合、**プロパティ**ウィンドウの**デバイスの状態**領域にデバイスのIRQを共有するカードまたはデバイスが表示されます。

8. デバイスを再設定するか、デバイスをデバイスマネージャから取り外してコンフリクトを解消します。

Windows 2000のハードウェアに関するトラブルシューティングを使用するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**ヘルプ**をクリックします。
2. **目次**で**トラブルシューティングと保守**をクリックし、**Windows 2000に関するトラブルシューティング**をクリックして、**ハードウェア**をクリックします。
3. **ハードウェアに関するトラブルシューティング**一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決する必要があります**をクリックして、**次へ**をクリックします。

目次ページに戻る

アドバンス機能

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

LegacySelectテクノロジコントロール

LegacySelect（レガシーセレクト）テクノロジコントロールは、共通プラットフォーム、ハードドライブイメージ、およびヘルプデスク手続きを基本としたレガシーフル、レガシー限定、またはレガシーフリーのソリューションを提供します。管理者は、セットアップユーティリティ、Dell OpenManage™ IT Assistant、またはDell™ カスタムファクトリー統合を介してコントロールを利用できます。

LegacySelectを使うことによって、管理者はシリアル／USBコネクタ、パラレルコネクタ、フロッピードライブ、PS/2 マウスなどのコネクタおよびメディアデバイスを電子的に活動化または非活動化することができます。非活動化されたコネクタおよびメディアデバイスによって、リソースが使用可能になります。変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

管理機能

ASF（Alert Standard Format）

ASFは、「プレオペレーティングシステム」または「オペレーティングシステム不在」警告技術を指定するDMTF管理標準です。オペレーティングシステムがスリープ状態にあるとき、またはコンピュータの電源が切れているときに、セキュリティの問題および障害が発生している可能性があるという警告を発するよう設計されています。ASFは、以前のオペレーティングシステムの不在警告テクノロジに優先するよう設計されています。

お使いのコンピュータは、次のASF警告およびリモート機能をサポートします。

警告	説明
Chassis Intrusion/Chassis Intrusion Cleared	コンピュータが開けられました。シャーシイントリュージョン警告が消去されました。
Corrupt BIOS	BIOSが壊れています。
Failure to Boot to BIOS	BIOSは、開始時にロードを完了できませんでした。
System Password Failure	システムパスワードが無効です（3回の試みが失敗後）。
Entity Presence	コンピュータが存在することを確認する振動が断続的です。
Temperature - Too Low/Low/High/Too High/Fault - Non Critical/Fault - Critical	コンピュータの温度が限界を超えています。
Voltage - Too Low/Too High/Fault	コンピュータの電圧が限界を超えています。
Cooling Device - Speed Low/Speed Too Low/Malfunction/Status Change	コンピュータのファンの速度／rpmが限界を超えています。
Ethernet Connectivity Enabled/ Ethernet Connectivity Disabled	Ethernetの接続が有効です。Ethernetの接続が無効です。

DellのASF導入の詳細については、Dellサポートトウェブサイト**support.jp.dell.com**で入手できる『ASFユーザーズガイド』および『ASF管理者ガイド』を参照してください。

Dell OpenManage IT Assistant

IT Assistantは、企業のネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを設定、管理、監視します。IT Assistantは、業界標準の管理ソフトウェアを装備したコンピュータの資産、設定、イベント（警告）、セキュリティを管理します。また、SNMP、DMI、およびCIMの業界標準に準拠する計装をサポートします。

DMIとCIMを基本にしたDell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアは、お使いのコンピュータで使用できます。IT Assistantの情報は、Dellサポートウェブサイト**support.jp.dell.com**で入手できる『Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェア

Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアは、IT Assistantなどのリモート管理プログラムが、以下のことを実行するのを可能にするソフトウェアです。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス（搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など）
- コンピュータのステータスの監視（温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告を受信することなど）

- お使いのコンピュータのステータスの変更（BIOSのアップデート、またはリモートでのシャットダウンなど）

管理コンピュータは、IT Assistantを使ったネットワーク上でDell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアがセットアップされているコンピュータです。Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェアについては、Dellサポートウェブサイト**support.jp.dell.com**で入手できる、『Dell OpenManage Client／クライアント用ソフトウェア ユーザーズガイド』を参照してください。

セキュリティ機能

シャーシイントルージョンディテクタ

メモ： セットアップパスワードが有効な場合、セットアップパスワードがわからないと**Chassis Intrusion**の設定をリセットできません。

この機能は、シャーシが開けられたことを検出し、ユーザーに警告します。**Chassis Intrusion**設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. 下矢印キーを押して、**System Security**オプションへ移動します。
3. <Enter>を押して、**System Security**オプションのポップアップメニューにアクセスします。
4. 下矢印キーを押して、**Chassis Intrusion**設定へ移動します。
5. スペースバーを押してオプション設定を選びます。
6. セットアップユーティリティを終了します。

オプション設定

- **Enabled** — コンピュータカバーが開けられると、設定が**Detected**に変わり、次回のコンピュータ起動時の起動ルーチン中に次の警告メッセージが表示されます。

  `Alert! Cover was previously removed.`（警告! カバーが取り外されました。）

  Detectedの設定をリセットするには、セットアップユーティリティを起動します。**Chassis Intrusion**オプションで、左右矢印キーを押して**Reset**を選択してから、**Enabled**、**Enabled-Silent**、または**Disabled**を選びます。

- **Enabled-Silent**（デフォルト）— コンピュータカバーが開けられると、設定が**Detected**に変わります。次回のコンピュータ起動時の起動順序中に警告メッセージは表示されません。
- **Disabled** — イントリュージョン監視はおこなわれず、メッセージも表示されません。

パドロックリングとセキュリティケーブルスロット

次の方法の1つを使って、コンピュータのセキュリティをおこないます。

- パドロックリングはパドロックのみ、またはパドロックとループ型セキュリティケーブルをいっしょに使用します。パドロックリングの位置は、「コンピュータの内部」を参照してください。

  パドロックだけでコンピュータが開けられることを防ぐことができます。

  固定されたものにセキュリティケーブルを通し、パドロックを取り付けることで、勝手にコンピュータを移動することを防ぐことができます。

- コンピュータ背面のセキュリティケーブルスロットに市販の盗難防止デバイスを取り付けます。

メモ： 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通常、盗難防止デバイスに、金属ケーブルにロック装置とキーが付いています。ケンジントンロックをお勧めします。ロック用デバイスに付属のマニュアルに、取り付け方法が記載されています。

パスワードによる保護

注意： パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

システムパスワード

注意： システムパスワードを設定せずに操作中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、パスワードを解除することができます。その結果、誰でもハードドライブ内のデータにアクセスすることができるようになります。

オプション設定

次の2つのオプションのいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- **Enabled** — システムパスワードが設定されています。
- **Disabled** — システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。

次のオプションが表示された場合のみシステムパスワードを設定できます。

- **Not Enabled** — システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト）になっています。

システムパスワードの設定

システムパスワードの入力を途中で中止したい場合は、<Tab>または <Shift><Tab>を押して別のフィールドに移動するか、手順 5を終了する前に<Esc>を押します。

1. セットアップユーティリティを起動して、**Password Status**が**Unlocked**に設定されているか確認します。
2. **System Password**をハイライト表示して、左右矢印キーを押します。

   オプション名が**Enter Password**に変わり、その後ろに32文字分の空のフィールドが現れます。

3. 新しいシステムパスワードを入力します。

   32文字まで入力できます。入力した文字を訂正する場合、<Backspace>または左矢印キーを押します。パスワードは、大文字と小文字を区別しません。

   無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、スピーカーからビープ音が鳴ります。

   それぞれの文字キー（または空白としてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。

4. <Enter>を押します。

   新しいシステムパスワードが32文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が**Verify Password**に変わり、その後ろに32文字分の別の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して<Enter>を押します。

   パスワード設定は、**Enabled**に変わります。

6. セットアップユーティリティを終了します。

   コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの入力

コンピュータを起動または再起動すると、以下のプロンプトの1つが画面に表示されます。

Password Statusが**Unlocked**に設定されている場合

```
Type in the password and
- press <ENTER> to leave password security enabled.
- press <CTRL><ENTER> to disable password security.
Enter password:
```

（パスワードを入力して、<Enter>を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。<Ctrl><Enter>を押すと、パスワードセキュリティは無効になります。パスワードを入力してください。）

Password Statusが**Locked**に設定されている場合

```
Type the password and press <Enter>.
```

（パスワードを入力して、<Enter>を押してください。）

セットアップパスワードが設定されている場合、コンピュータはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
```

（誤ったパスワード。）

入力したシステムパスワードが2回目も間違っていると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを3回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.
```

（誤ったパスワード。間違ったパスワード入力の回数：3 システムが停止しました！電源を落としてください。）

コンピュータの電源を入れなおした後でも、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力するたびに、上記のメッセージが表示されます。

メモ： システムパスワードおよびセットアップパスワードと一緒にパスワードステータスを使用すると、無許可の変更に対してコンピュータの保護を強化できます。

システムパスワードの取り消しと変更

1. セットアップユーティリティを起動して、**Password Status**が**Unlocked**に設定されているか確認します。
2. コンピュータを再起動します。
3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Ctrl><Enter>を押して、既存のシステムパスワードを無効にします。
5. **System Password**オプションに**Not Enabled**が表示されているか確認します。

   Not Enabledと表示されたら、システムパスワードは取り消されています。**Not Enabled**が表示されていない場合、<Alt><b>を押してコンピュータを再起動し、手順 3～手順 5を繰り返します。

   「システムパスワードの設定」の手順に従って、新しいパスワードを設定します。

6. セットアップユーティリティを終了します。

セットアップパスワード

オプション設定

- **Enabled** — セットアップパスワードの設定ができません。セットアップユーティリティを変更するには、セットアップパスワードを入力する必要があります。
- **Not Enabled** — セットアップパスワードの設定ができます。パスワード機能は有効ですがパスワードが設定されていません。

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。

メモ： これらのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに入力することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することはできません。

1. セットアップユーティリティを起動して、**Setup Password**が**Not Enabled**に設定されていることを確認します。
2. **Setup Password**をハイライト表示し、左右矢印キーを押します。

   パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字の場合、ビープ音がなります。

3. パスワードを入力して確認します。

   パスワードの確認が終わると、**Setup Password**の設定は、**Enabled**に変わります。これ以降は、セットアップユーティリティを起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。

4. セットアップユーティリティを終了します。

   Setup Passwordの変更は、ただちに有効になります(コンピュータを再起動する必要ありません)。

セットアップパスワードが有効な場合のコンピュータの操作

セットアップユーティリティを起動すると、**Setup Password**オプションがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップユーティリティ画面は表示されますが、セットアップオプションを変更することはできません。

メモ： セットアップパスワードと一緒にパスワードステータスを使用すると、無許可の変更に対してシステムパスワードを保護できます。

セットアップパスワードの取り消しと変更

既存のセットアップパスワードを変更するには、そのパスワードを知っている必要があります。

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. プロンプトでセットアップパスワードを入力します。
3. **Setup Password**をハイライト表示させて、左右矢印キーを押して、既存のセットアップパスワードを取り消します。

   設定は**Not Enabled**に変わります。

   「セットアップパスワードの設定」の手順を実行し、新しいセットアップパスワードを設定します。

4. セットアップユーティリティを終了します。

忘れたパスワードの取り消しと新しいパスワードの設定

注意： この手順をおこなうと、システムパスワードとセットアップパスワードの両方が消去されます。

警告：コンピュータカバーを開く前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

1. コンピュータカバーを開きます。
2. 「PSWD」とラベルされたジャンパプラグをジャンパから取り外します。

   パスワードジャンパの位置は、「ジャンパ設定」を参照してください。

3. コンピュータカバーを閉じます。
4. コンピュータとデバイスをコンセントに接続しなおし、電源を入れます。

   これで、既存のパスワードが取り消されます。

5. セットアップユーティリティを起動して、**Setup Password**が**Disabled**に設定されているか確認します。
6. セットアップユーティリティを終了します。

警告：コンピュータカバーを開く前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

7. コンピュータカバーを開きます。
8. PSWDジャンパプラグを取り付けます。
9. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。

   これで、パスワード機能は有効になります。セットアップユーティリティを起動すると、どちらのパスワードオプションも**Not Enabled**と表示されます(パスワード機能は有効ですが、パスワードが設定されていません)。

10. 新しいシステムパスワード、またはセットアップパスワードを設定します。

セットアップユーティリティ

セットアップユーティリティは次の場合に使用します。

- ユーザー選択可能オプション（たとえば日時またはシステムパスワード）を設定する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合

<Print Screen>を押してセットアップユーティリティ画面を印刷したり、後で参照できるように設定内容を記録しておいてください。

セットアップユーティリティを起動する前に、コンピュータに取り付けられているフロッピードライブとハードドライブの種類を確認する必要があります。この情報を確認するには、コンピュータに付属の製造テストレポートを参照するか、オンラインの**Dellアクセサリ**フォルダにあるこの情報を検索してください。

セットアップユーティリティの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 画面の右上角に`Press <F2> to Enter Setup` と表示されたら、すぐに<F2>を押します。

   ここで時間をおきすぎてMicrosoft® Windows®ロゴが表示されてしまったら、Windowsデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

メモ： コンピュータのシャットダウンを正しくおこなうために、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面には、お使いのコンピュータの現在の設定情報が表示されます。画面の情報は、以下の4つの領域から構成されています。

- Title — 画面の上端にあるボックスにはコンピュータ名が一覧表示されます。
- Computer data — タイトルボックスの下の2つのボックスには、コンピュータプロセッサ、L2キャッシュ、サービスタグ、およびBIOSのバージョンナンバーが表示されます。
- Options — 取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示するスクロール可能なボックスです。

  オプションタイトルの右側のフィールドには、設定状態または値が表示されます。変更できるフィールドは、画面に明るく表示されます。変更できない（コンピュータによって設定されるため）フィールドは薄く表示されます。<Enter>がオプションタイトルの右に表示されたら、<Enter>を押して追加オプションのポップアップメニューにアクセスします。

- Key functions — 画面のいちばん下のボックスには、セットアップユーティリティで使用できるキーとそれらの機能が表示されます。
  - <F1> — セットアップユーティリティのヘルプにアクセス
  - <ESC> — セットアップユーティリティの終了

セットアップユーティリティナビゲーションキー

キー	キーの動き
Tab または ↓	次のフィールドに移動します。
Shift Tab または ↑	前のフィールドに移動します。
← または →	フィールド内のオプションを移動します。多くのフィールドで、数値キーを使用して値を入力することもできます。
Page Down または Page Up	ヘルプ情報をスクロール表示します。
Enter	選択したフィールドのポップアップオプションメニューを起動します。
スペースバーまたは + または –	選択したフィールドのポップアップオプションメニューでフィールド内のオプションを移動します。
Alt X	コンピュータを再起動せずにセットアップユーティリティを終了して、起動ルーチンに戻ります。
Alt B	セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動し、変更した設定を有効にします。
Alt D	選択したオプションをデフォルトにリセットします。

Boot Sequence（起動順序）

この機能を使って、どのデバイスからコンピュータを起動するか、その順番を変更します。

オプション設定

- **Normal** — （現在の起動プロセスのみで使用可能です。）コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスの順番で起動を試みます。
- **Diskette Drive** — コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、あるいはフロッピーディスクがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Hard Drive** — コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **CD Drive** — コンピュータはCDドライブからの起動を試みます。ドライブにCDがない場合、あるいはCDにオペレーティングシステムがない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **MBA** — （将来の起動プロセスでのみ使用可能です。）コンピュータが起動して、<Ctrl><Alt><b>を押すように指示されます。このキーの組み合わせを押すと、ネットワークサーバから起動方法を選択できるメニューが表示されます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。

現在の起動用のコンピュータ起動順序の変更

たとえば、この機能を使って、Dell診断プログラムを実行するためにCDドライブからコンピュータを起動するように設定できます。しかし診断テストが完了したらコンピュータがハードドライブから起動するよう指定します。

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 画面の右上角に`F2 = Setup`と表示されたら、<Ctrl><Alt><F8>を押します。

   ここで時間をおきすぎてMicrosoft Windowsロゴが表示されてしまったら、Windowsデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして、再度試みます。

メモ： コンピュータのシャットダウンを正しくおこなうために、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

使用可能な起動デバイスをすべて一覧表示した、**Boot Device Menu**が表示されます。各デバイスには、横に番号があります。メニューの一番下で、現在の起動のみに使用されているデバイスの数を入力します。

将来の起動用の起動順序の変更

1. セットアップユーティリティを起動します。
2. 矢印キーを使って**Boot Sequence**メニューオプションをハイライト表示し、<Enter>を押してポップアップメニューにアクセスします。

メモ： 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書きとめておきます。

3. デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
4. デバイスを有効または無効にするにはスペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。
5. 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、プラス(+)またはマイナス(-)を押します。

セットアップオプション

AC Power Recovery — コンピュータにAC電源が回復した場合にどうするかを決定します。 ・**Off** — AC電源が回復してもコンピュータの電源は切れたままです。 ・**On** — AC電源が回復するとコンピュータは起動します。 ・**Last** — コンピュータはAC電源が切れたときのAC電源の状態に戻ります。
Asset Tag — 管理タグ番号が割り当てられている場合に、ユーザーがコンピュータに対して指定可能な管理タグ番号を表示します。
Auto Power On — 時間と曜日を設定し、コンピュータに自動的に電源を入れることができます。選べるのは、毎日または月曜から金曜の毎日です。 時間は24時間形式（時間：分）で表示されます。左右矢印キーを押して、数値を増やしたり減らしたりするか、日付と時間のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時間を変更します。 **Disabled**がデフォルトです。 この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合には動作しません。
CPU ID — 取り付けられているマイクロプロセッサの製造元識別コードを示します。
CPU Information ・**CPU Speed** — コンピュータが起動する際の、プロセッサ速度です。 左右矢印キーを押して、常駐マイクロプロセッサの定格速度（デフォルト）とより遅い速度の間で、**CPU Speed**オプションを切り換えます。このオプションへの変更はただちに有効になります（再起動は必要ありません）。 コンピュータがリアルモードで実行中に定格速度と互換速度の間で切り換えをおこなうには、<Ctrl><Alt><\>を押します。（アメリカ英語を使用していないキーボードの場合、<Ctrl><Alt><#>を押します。） ・**Bus Speed** — マイクロプロセッサのシステムバスの速度です。 **メモ：** フロントサイドバスの速度は133 MHzとして表示される場合がありますが、Quadポンプアーキテクチャによると効果的な速度は533 MHzです。 ・**Processor ID** — 取り付けられているマイクロプロセッサの製造元識別コード ・**Clock Speed** — マイクロプロセッサが動作するコア速度 ・**Cache Size** — マイクロプロセッサのL2キャッシュの容量
Diskette Drive A — コンピュータに取り付けられているフロッピードライブの種類です。標準ケーブル設定では、**Diskette Drive A**（起動フロッピードライブ）は、最上部のフ

ロントドライブベイに取り付けられている3.5インチフロッピードライブです。2つのオプションは、**3.5 Inch, 1.44 MB**および**Not Installed**です。

テープドライブは**Diskette Drive A**オプションには反映されません。たとえば、1つのフロッピードライブと1つのテープドライブをフロッピードライブインタフェースケーブルに接続している場合、**Diskette Drive A**は**3.5 Inch, 1.44 MB**に設定します。

Fastboot

- **On**(デフォルト) — コンピュータは、特定の設定およびテストを省略して、10秒以内で起動します。
- **Off** — コンピュータは、起動プロセス中に特定の設定およびテストを省略しません。

Integrated Devices — システム基板に取り付けられた次のデバイスを設定します。

- **Sound** — 設定は、**On**(デフォルト)または**Off**です。
- **USB Controllert** — 設定は、**On**または**Off**です。
- **Network Interface Controller** — 設定は、**On**(デフォルト)、**Off**、または**On w/ MBA**です。**On w/ MBA**用の設定は、アクティブ起動モードとしての**PXE**、**RPL**、**BootP**、または**NetWare**です。
- **Mouse Port** — 設定は、**On**または**Off**です。
- **Serial Port 1 and Serial Port 2** — 設定は、**Off**および**Auto**(デフォルト)です。
  - **Auto**は、コネクタを自動的に特定の指定先に設定します(**COM1**または**COM3**を**Serial Port 1**に、**COM2**または**COM4**を**Serial Port 2**に設定)。

    シリアルコネクタを**Auto**に設定して、同じ値に設定したコネクタを含むカードを追加すると、同じIRQ設定を共有して、次に使用可能なコネクタ値に内蔵ポートの再マッピングが自動的におこなわれます。次の例を参照してください。

    COM3との間でIRQ4を共有する**COM1**(I/Oアドレス3F8h)は、**COM3**(I/Oアドレス3E8h)に再マップされます。

    COM4との間でIRQ3を共有する**COM2**(I/Oアドレス2F8h)は、**COM4**(I/Oアドレス2E8h)に再マップされます。

メモ: 2つのCOMコネクタが1つのIRQの設定値を共に持つ場合、必要に応じていずれかのコネクタを使用できますが、2つのコネクタを同時に使用することはできません。Microsoft Windows 95またはIBM® OS/2®オペレーティングシステムを実行している場合、両方のシリアルコネクタを同時に使用することはできません。2つ目のコネクタ(COM3またはCOM4)も使用中の場合、内蔵コネクタはオフになります。

- **Parallel Port** — 設定は**Mode**、**I/O Address**、および**DMA Channel**です。

  Modeの設定は、**PS/2**、**EPP**、**ECP**、**AT**、または**Off**です。**Mode**オプションは、パラレルコネクタに接続されているデバイスのタイプに合わせて設定します。正しいモードを使用するには、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

  I/O Addressの設定は、**378h**(デフォルト)、**278h**、または**3BCh**です。**Mode**が**Off**に設定されていると、これらの設定は使用できません。

メモ: **Mode**が**EPP**に設定されている場合、パラレルコネクタを**3BCh**に設定することはできません。

  DMA Channelは、**Mode**が**ECP**に設定されている場合にのみ表示されます。設定は**DMA 1**、**DMA 3**、または**Off**です。

- **IDE Drive Interfaced** — 設定は、**Off**および**Auto**(デフォルト)です。

  Autoは、拡張スロットに取り付けられたコントローラカードに適合するために、必要に応じてIDEインタフェースをオフにします。

- **Diskette Interface** — 設定は、**Auto**(デフォルト)、**Read Only**、および**Off**です。

  Autoは、拡張スロットに取り付けられたコントローラカードに適合するために、必要に応じて内蔵フロッピードライブをオフにします。

  Read Onlyは、内蔵フロッピードライブコントローラがフロッピードライブへの書き込みを禁止し、**Auto**をアクティブにします。

- **USB Emulation** — 設定は、**On**および**Off**です。
- **Primary Video Controller —** 設定は、**Auto**および**AGP**(デフォルト)です。

  Auto — AGPカードだけが取り付けられている場合、コンピュータはAGPカードを使用します。PCIカードだけが取り付けられている場合、コンピュータはPCIカードを使用します。AGPカードとPCIカードの両方が取り付けられている場合、コンピュータはPCIカードを使用して起動します。

  AGP(デフォルト) — コンピュータはAGPカードを使用します。

- **Video DAC Snoop** — 設定は、**Off**(デフォルト)および**On**です。

  Onは、特定のビデオカードを使っている場合に起こることがある、不適切な色またはウィンドウに何も表示されないといったビデオの問題を修正します。

Keyboard NumLock — 設定は、**On**および**Off**です(84キーのキーボードには適用されません)。

On — キーの最も右のバンクがアクティブになり、それぞれのキーの上部に表示された数値機能が使用できるようになります。

Off — キーの最も右のバンクがアクティブになり、それぞれのキーの下部に表示されたカーソルコントロール機能が使用できるようになります。

Memory Information — 取り付けられたメモリの容量、メモリの速度、およびAGPのサイズを示します。

PCI IRQ Assignment — どのIRQラインが、コンピュータに取り付けられたPCIデバイスに割り当てられるかを指定します。

<Enter>を押し、次に変更したいIRQラインをもつデバイスを選びます。プラス(+)キー、またはマイナス(-)キーを押して、使用可能なIRQライン内をスクロールします。

Primary Drive n and Secondary Drive n — 設定は**Auto**(この設定はDellからのすべてのIDEデバイスに使用します)および**Off**です。

Primary Drive nは、システム基板のプライマリIDEインタフェースコネクタ(「IDE1」とラベル)に接続されたデバイスを識別します。

Secondary Drive nは、セカンドIDEインタフェースコネクタ(「IDE2」とラベル)に接続されたデバイスを識別します。

メモ: セカンドIDEインタフェースにIDEデバイスを接続する場合、プライマリIDEインタフェースにIDEデバイスが接続されている必要があります。

問題がある場合

IDEドライブを取り付けてから、初めてコンピュータを起動したときに、ドライブエラーメッセージが表示される場合、ドライブが自動ドライブタイプ検出機能を使って動作していない可能性があることを意味します。いずれかのハードドライブフィールドで<Alt><d>を押して、ハードドライブ自動設定機能を設定します。

POST中に、コンピュータはサポートされたデバイスのIDEチャネルをスキャンし、合計メッセージを生成します。たとえば、ハードドライブがプライマリチャネルに接続され、CDドライブがセカンドチャネルに接続されていることをコンピュータが検出すると、次のメッセージが生成されます。

Performing automatic IDE configuration...（自動IDE設定の実行中…）

Primary Master: IDE Disk Drive（プライマリマスター：IDEディスクドライブ）

Secondary Master: CD-ROM Reader（セカンドマスター：CD-ROMリーダー）

スキャン中にコンピュータがデバイスを検出すると、デバイスはセットアップユーティリティで**Auto**に設定されます。 デバイスが一覧にない場合、デバイスはセットアップユーティリティで**Off**に設定されます。

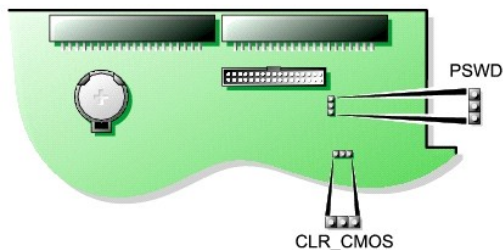
これらの手順を実行してもコンピュータがリセットされない場合、セットアップユーティリティを起動して、コンピュータを出荷時のオリジナル設定にリセットします。

1. コンピュータを再起動します。
2. コンピュータの再起動中に、<F2>を押してセットアップユーティリティを起動します。
3. セットアップユーティリティ画面が表示されたら、<Alt><F>を押してデフォルト設定をロードします。

   設定が復元されると、ビープ音が鳴ります。

4. 時間、日付、年号が正しく、**Secondary Drive 0**オプションが**Auto**に設定されていることを確認します。
5. <Esc>を押し、<Enter>を押して、変更を保存し、セットアップユーティリティを終了します。

   コンピュータは再起動します。

ジャンパ設定

注意：ジャンパの設定を変更する前に、お使いのコンピュータの電源がオフでコンセントから外されているか確認してください。 電源が入ったまま変更しようとすると、コンピュータを損傷したり予期できない結果を招く恐れがあります。

ジャンパの設定を変更するには、ピンから抜いたプラグを、指定のピンに注意深く押し込みます。

ジャンパ	設定	説明
PSWD	(デフォルト)	パスワード機能が有効になっています。 パスワード機能が無効になっています。
CLR_CMOS		CMOS設定をクリアします。
ジャンパあり ジャンパなし		

電源ボタン

注意：コンピュータの電源を切る際は、できるだけ正常なコンピュータのシャットダウンを実行してください。

ACPI機能を使って、Microsoft Windows 2000およびWindows XPオペレーティングシステムの機能を設定できます。

ACPIが有効な場合のWindows 2000およびWindows XPの電源ボタンの機能

処置	結果		
	コンピュータがオンでACPIが有効	**コンピュータがスタンバイモード**	**コンピュータがオフ**
電源ボタンを押す	コンピュータはスタンバイモードに入るか、オフになります（オペレーティングシステムのセットアップに応じて）。	コンピュータがオンになります。	コンピュータが起動してオンになります。
電源ボタンを	コンピュータがオフになり	コンピュータが	コンピュータが起動してオンになります。

6秒以上押し続ける*	ます。	オフになります。	
メモ： 電源ボタンを押したり、押し続けてコンピュータをシャットダウンするとデータが失われる恐れがあります。オペレーティングシステムが応答しない場合にのみ電源ボタンを使ってコンピュータをシャットダウンしてください。			

ACPIが無効な場合のWindows 2000およびWindows XPの電源ボタンの機能

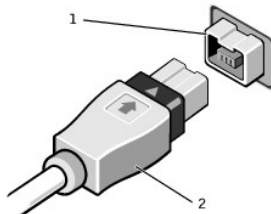
処置	結果		
	コンピュータがオンでACPIが無効	**コンピュータがサスペンドモード**	**コンピュータがオフ**
電源ボタンを押す	コンピュータはすぐにオフになります。	コンピュータはすぐにオフになります。	コンピュータが起動してオンになります。
電源ボタンを6秒以上押し続ける*	コンピュータがオフになります。	コンピュータがオフになります。	コンピュータが起動してオンになります。
メモ： 電源ボタンを押したり、押し続けてコンピュータをシャットダウンするとデータが失われる恐れがあります。オペレーティングシステムが応答しない場合にのみ電源ボタンを使ってコンピュータをシャットダウンしてください。			

ハングアップしたコンピュータ

電源ボタンを押してもコンピュータがオフにならない場合、コンピュータはハングアップしています。コンピュータが完全にオフになるまで、電源ボタンを押し続けます（数秒かかります）。コンピュータがハングアップして電源ボタンが正しく機能しない場合、AC電源ケーブルをコンピュータから抜き、コンピュータの動作が完全に停止してからAC電源ケーブルを接続します。コンピュータが再起動しない場合、電源ボタンを押してコンピュータを再起動します。

IEEE 1394デバイスの接続

IEEE 1394は、コンピュータと周辺機器間で大容量のデータを移動できるデジタルインタフェースです。IEEE 1394はデータおよび大きなファイルの転送速度を増すので、マルチメディアデバイスとの使用に最適です。これにより、コンピュータをデジタルビデオカメラなどのデバイスに直接接続することが可能になります。

お使いのコンピュータにはアドインカードとして標準のIEEE 1394コネクタが搭載されています。アドインカードについては、「カードの取り付け」を参照してください。

1	IEEE 1394コネクタ
2	IEEE 1394ケーブル

TAPI

メモ： TAPIデバイスの詳細、およびお使いのコンピュータでのカードの動作を確認するには、TAPI対応カードに付属のマニュアルを参照してください。

お使いのコンピュータは、標準TAPI コネクタ（MODEMまたはTELEPHONYとラベルされた緑色のコネクタ）を使って、TAPI対応モデムカードをサポートしています。モデムが音声機能をサポートしている場合、モデムをTAPI コネクタに接続し、オーディオスピーカーとマイクを留守番電話またはスピーカーフォンとして使用することができます。マイクが音声をコンピュータに取り入れ、次にTAPIシステム基板コネクタを経由してモデムカードに送られます。相手側の音声はモデムカードを経由してTAPIシステム基板コネクタに入り、次にスピーカーから出力されます。また、この構成を使うことによって、サードパーティのソフトウェアを使用した電話でのオーディオファイルの録音と再生も可能です。

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

TAPI対応モデムカードの取り付け

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
5. コンピュータカバーを開きます。
6. TAPI対応モデムカードを取り付けます。
   a. 4ピンのTAPIケーブルをTAPIシステム基板コネクタに接続します。

      システム基板上のTAPIコネクタの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

   b. もう一方のケーブルの端をモデムカードのTAPIコネクタに接続します。

      カード上のTAPIコネクタの位置は、カードのマニュアルを参照してください。

7. コンピュータカバーを閉じます。
8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
9. 適切なモデムドライバと音声プログラムをインストールします。

   詳細については、製造元のマニュアルとMicrosoft® Windows®のマニュアルを参照してください。

TAPIサウンドカードの取り付け

モデムをTAPI対応サウンドカードコネクタ(通常TADとラベル)に接続して、オーディオ機能をスピーカーフォンとして使用できます。

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
5. コンピュータカバーを開きます。
6. TAPI対応サウンドカードを取り付けます。
7. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、システムの正面パネルまたは背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー／ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
8. 4ピンのTAPIケーブルをTAPIサウンドカードコネクタに接続します。

   サウンドカード上のTAPIコネクタの位置は、カードのマニュアルを参照してください。

9. もう一方のケーブルの端をモデムカードのTAPIコネクタに接続します。

   カード上のTAPIコネクタの位置は、カードのマニュアルを参照してください。

10. コンピュータカバーを閉じます。
11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
12. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**をクリックして、**Sound**の設定を**Off**に変更します。
13. 新しいデバイス用の適切なドライバをインストールします。

    詳細については、製造元のマニュアルとWindowsのマニュアルを参照してください。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

バッテリ

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

コイン型バッテリは、コンピュータの設定、日付、時間の情報を保持します。バッテリの寿命は数年間です。

コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時刻と日付情報をリセットしたり、以下のメッセージのいずれかが表示される場合、バッテリを交換する必要がある場合があります。

```
Time-of-day not set - please run SETUP program
```

（日時が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください。）

または

```
Invalid configuration information -
please run SETUP program
```

（無効な設定情報 ― セットアップユーティリティを実行してください。）

または

```
Strike the F1 key to continue,
F2 to run the setup utility
```

（続けるにはF1キーを、セットアップユーティリティを起動するにはF2キーを押してください。）

バッテリの交換が必要かどうか確認するには、セットアップユーティリティで日付と時刻を再入力し、プログラムを終了してその情報を保存します。コンピュータの電源を切り、コンセントから2、3時間外して置きます。それからコンピュータをコンセントに接続しなおし、電源を入れてセットアップユーティリティを起動します。セットアップユーティリティに表示される日付と時刻が間違っている場合、バッテリを交換します。

バッテリがなくてもコンピュータは動作しますが、電源をオフにしたり、コンセントから電源プラグを抜いた場合、コンピュータ設定情報は消去されます。その場合、セットアップユーティリティを起動して、設定オプションをリセットしなければなりません。

警告：新しいバッテリは、間違って装着すると破裂する恐れがあります。バッテリを交換する場合、同じバッテリ、または製造元が推奨する同等のバッテリのみを使用してください。使用済みのバッテリは、製造元の指示に従って廃棄してください。

バッテリを取り付けるには、次の手順を実行します。

メモ： セットアップユーティリティにある設定情報のコピーを取っていない場合、コピーを取ります。

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

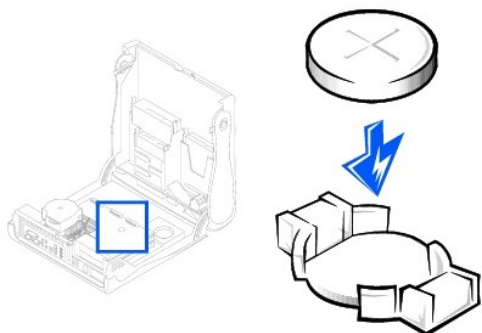
3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
5. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

6. コンピュータカバーを開きます。
7. BATTERYとラベルされたバッテリソケットを探します。

注意： 先端の鋭くない道具を使用してバッテリをソケットから取り出す場合、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリを外してください。これを怠ると、バッテリソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与える恐れがあります。

8. プラスチック製のドライバなどのように先端部の鋭くない非導電性の道具、または指を使ってバッテリをバッテリソケットから取り外します。
9. バッテリの「+」側を上に向けて新しいバッテリをソケットに挿入し、バッテリを所定の場所にカチッとはめ込みます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続します。
11. セットアップユーティリティを起動し、この手順を始める前に記録した設定を復元します。
12. 古いバッテリは適切に廃棄します。詳細については、『システム情報ガイド』を参照してください。

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

コンピュータのクリーニング

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

コンピュータのクリーニングをする前に

警告： この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。

コンピュータ、キーボード、およびモニタ

- ブラシの付いた掃除機を使って、コンピュータのすべてのスロットおよび開口部、それにキーボードのキーとキーの間のほこりを除去します。

注意： モニタ画面を石鹸またはアルコール溶液で拭かないでください。反射防止コーティングが損傷する恐れがあります。

- モニタ画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくてきれいな布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニタの帯電防止コーティング用に適した溶液を使ってください。
- キーボード、コンピュータ、およびモニタのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を3対1で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかなクリーニング布を使って拭きます。頑固な汚れは、イソプロピルアルコールを軽く含ませた布で拭きます。

  この溶液に布を浸さないでください。またコンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

マウス

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。光学式でないマウスをクリーニングするには、次の手順を実行します。

1. マウスの底の保持リングを反時計回りに回し、次にボールを取り外します。
2. きれいで糸くずのでない布でボールを拭きます。
3. ボールケージに慎重に風を送って、ほこりや糸くずを取り除きます。
4. ボールケージ内側のローラーに汚れが堆積している場合、イソプロピルアルコールを軽く含ませた綿棒で取り除きます。
5. ローラーが溝からずれてしまった場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
6. ボールと保持リングを取り付けます。カチッと所定の位置に収まるまで、保持リングを時計回りに回します。

フロッピードライブ

注意： 綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。誤ってヘッドがずれてしまい、ドライブが動作しなくなる場合があります。

市販のクリーニングキットを使ってフロッピードライブをきれいにします。市販のキットには前処理したフロッピーディスクが入っていて、通常の動作中に付着した汚れを取り除きます。

CDおよびDVD

1. ディスクの外側の端を持ちます。中央の穴の内側の端に触れてもかまいません。

注意： ディスク表面への損傷を避けるため、円を描くようにディスクを拭かないでください。

2. 糸くずのでない柔らかな布で、ディスクの裏面（ラベルのない面）をディスクの中央から外側に向けて丁寧にまっすぐ拭きます。

頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹸の希釈溶液で試してください。 ディスクをきれいにし、ほこり、指紋、引っかき傷からある程度ディスクを保護する市販の製品を購入することもできます。 CD用のクリーニング製品は、DVDに使用しても安全です。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

Dellへのお問い合わせ

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

インターネット上でのDellへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- **www.dell.com/jp**
- **support.jp.dell.com**（テクニカルサポート）

Dellへお問い合わせになる場合、次の表の電子アドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。

国（都市） **国際電話アクセスコード** **国番号** **市外局番：**	**部署名またはサービス内容** **ウェブサイトおよび電子メールアドレス**	**市外局番、市内番号、またはフリーダイヤル**
日本（川崎） 国際電話アクセスコード：**001** 国番号：**81** 市外局番：**44**	ウェブサイト：**support.jp.dell.com**	
	テクニカルサポート（Dell Precision™、Optiplex™、Latitude™）	フリーダイヤル：0120-1984-33
	テクニカルサポート（海外から）（Dell Precision、Optiplex、Latitude）	81-44-556-3894
	24時間納期案内電話サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部（従業員数400人未満）	044-556-1465
	法人営業本部（従業員数400人以上）	044-556-3433
	エンタープライズ営業本部（従業員数3500人以上）	044-556-3430
	官公庁／研究・教育機関／医療機関セールス	044-556-1469
	Dellグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
	Fax情報サービス	044-556-3490
	代表	044-556-4300

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

困ったときは

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

テクニカルサポート

技術的な問題で手助けが必要な場合、いつでもDellにお問い合わせください。

警告：コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、初めにすべてのコンセントからコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルを取り外してください。

1. 「問題の解決」の手順を完了します。
2. Dell診断プログラムを実行します。
3. 診断チェックリストを印刷して、それに記入します。
4. インストールとトラブルシューティングの手順については、Dellサポートウェブサイト（**support.jp.dell.com**）をご覧ください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、Dellにお問い合わせください。

メモ：テクニカルサポート担当者が必要な作業をスムーズにお伝えできるよう、テクニカルサポートへはコンピュータの近くから電話してください。

メモ：Dellのエクスプレスサービスコードシステムは、ご利用できない国もあります。

Dellのオートテレフォンシステムの指示に従って、**エクスプレスサービスコード**を入力すると、電話は適切なサポート担当者に転送されます。エクスプレスサービスコード（8桁から11桁までの全桁数字のみの番号）は、コンピュータの前面、背面、または側面に貼られているシールに、サービスタグナンバー（5桁もしくは7桁までの英数字混合の番号）と共に、記載されています。（コンピュータの正面パネル内に貼られている機種もあります。）

テクニカルサポートの詳細については、「テクニカルサポートサービス」を参照してください。

オンラインサービス

Dellサポートへは、**support.jp.dell.com**でアクセスすることができます。**サポートサイトへようこそ**のページから、サポートツール、情報などお選びください。

インターネット上でのDellへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- World Wide Web

  www.dell.com/jp/（日本）

  www.dell.com/（北米）

  www.dell.com/ap/（アジア／太平洋諸国のみ）

  www.euro.dell.com（ヨーロッパのみ）

  www.dell.com/la（ラテンアメリカ諸国のみ）

ファックス情報サービス

ファックス情報サービスは、フリーダイヤルでファクシミリを使用して技術情報を提供するサービスです。

プッシュホン式の電話から必要なトピックを選択します。テクニカル情報が指定したファックス番号宛に送信されます。ファックス情報サービスの電話番号については、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。

24時間納期案内電話サービス

注文したDell製品の状況を確認することができます。電話番号については、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。オンラインでも納期状況をご確認いただけます。

テクニカルサポートサービス

Dell製品に関するお問い合わせは、Dellのテクニカルサポートをご利用ください。

テクニカルサポートに電話をおかけになると、サポートスタッフがお問い合わせ内容の確認のために、お使いのシステムの詳細をお聞きすることがあります。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

Dellテクニカルサポートサービスにお問い合わせになるには、「テクニカルサポート」を参照し、「Dellへのお問い合わせ」に記載の番号に連絡してください。

ご注文に関する問題

欠品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、Dellカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。電話番号は、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。

製品情報

Dellのその他の製品に関する情報や、ご注文に関しては、Dellのウェブサイトの**www.dell.com/jp/**をご覧ください。弊社セールスの電話番号は、「Dellへのお問い合わせ」を参照してください。

お問い合わせになる前に

必ず、下記の診断チェックリストに記入してください。Dellへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コン ピュータの近くの電話から電話をかけてください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータシステム自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

テクニカルサポートをご利用の際は、製品本体のラベルに記載されているエクスプレスサービスコードまたはサービスタグナンバーが必要になります。お電話をおかけいただくと、エクスプレスサービスコードを自動音声でお伺いします。エクスプレスサービスコードをもとにお客様の情報を確認し、弊社担当者に電話をおつなぎ致します。

エクスプレスサービスコードは、サービスタグナンバーを全桁数字に変換した弊社製品の固有の管理番号です。製品本体のラベルに8桁から11桁までの数字のみの番号で記載されています。エクスプレスサービスコードが本体にない製品をお持ちのお客様のために、弊社Webサポートページで＊変換ツールをご用意しております。
＊変換ツール･･･サービスタグナンバーをエクスプレスサービスコードに変換するツール

サービスタグナンバーは、英数字混合の5桁もしくは7桁の弊社製品の固有の管理番号です。サービスタグナンバーでもテクニカルサポートをご利用いただけますが、弊社Webサポートページで変換したエクスプレスサービスコードをご用意の上、お電話いただくことをお勧めします。

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』に安全に関する注意を参照してください。

診断チェックリスト
名前：
日付：
住所：
電話番号：
サービスタグ（コンピュータ背面のバーコード）：
エクスプレスサービスコード：
返品番号（Dellサポート担当者から提供された場合）：
オペレーティングシステムとバージョン：
周辺機器：
拡張カード：
ネットワークに接続されていますか？ はい いいえ
ネットワーク、バージョン、ネットワークアダプタ：
プログラムとバージョン：
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。可能であれば各ファイルを印刷します。そうでない場合は、各ファイルの内容を記録してからDellにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビープコードまたは診断コード：
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順：

目次ページに戻る

目次ページに戻る

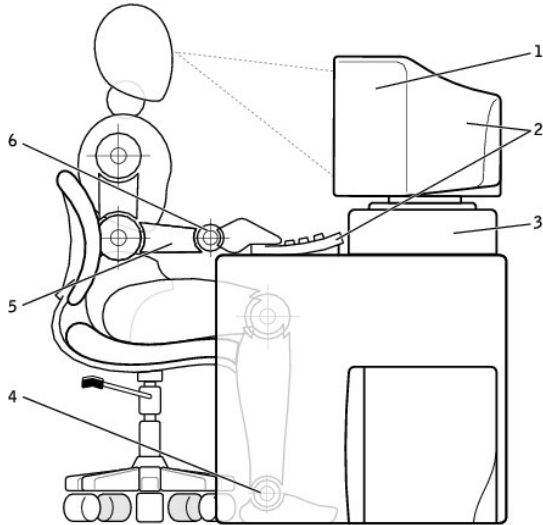
快適な使い方

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

警告：無理な姿勢で長時間キーボードを使用すると、身体に悪影響を及ぼす可能性があります。

警告：モニタ画面を長時間見続けると、眼精疲労の原因となる場合があります。

コンピュータを快適に効率よく使用するために、コンピュータの設置と使用に関しては、以下のガイドラインを守ってください。

- 作業中にモニタとキーボードが身体の正面を向くようにコンピュータを配置します。キーボードの位置を調節できる専用の棚が販売されています。
- モニタを使用する場合、目が疲れないようにモニタとの距離を調整します（通常は 50 ～ 60 センチ）。
- モニタの正面に座ったときに、画面が目の高さかそれよりも少し下になるように設置します。
- モニタの角度、コントラスト、輝度、および周囲の照明（天井の照明、卓上ライト、周囲の窓にかかっているカーテンやブラインド）を調整して、モニタ画面の反射を最小限に抑えます。
- しっかりとした背もたれの付いた椅子を使用します。
- キーボードやマウスを使用する際は、前腕部と手首を水平にして、リラックスした快適な位置に保ちます。
- キーボードやマウスを使用する際に、手を休めることができるスペースを確保します。
- 上腕部は身体の横に自然に下ろします。
- 足の裏を床につけ、太ももを床と平行にして、背筋を伸ばして座ります。
- 椅子に座っているときは、足の重さが椅子のシートではなく足の裏にかかるようにします。必要に応じて椅子の高さを調節したり足台を使用して、正しい姿勢を維持します。
- 作業に変化を持たせるようにします。あまり長時間続けてタイプしないようにします。タイプしていないときはなるべく両手を使う作業をおこなうようにします。

1	モニタは目の高さか、目線より下に設置する	4	足の裏は床にしっかりとつける
2	モニタおよびキーボードは身体の正面に設置する	5	腕は机と同じ高さにする
3	モニタスタンド	6	手首はリラックスさせて水平にする

目次ページに戻る

[目次ページに戻る]

用語集

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

A B C D E F G H I K L M N P R S T U V W Z ア カ サ タ ナ ハ マ ヤ ラ

A

AC — alternating current — コンピュータのACアダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと供給される電気の様式です。

ACPI — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows®オペレーティングシステムの電源管理規格です。コンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続された各デバイスに割り当てられた電力を節約できます。

AGP — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGPを使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Colorのスムーズなビデオイメージを伝送できます。

ASF — ハードウェアおよびソフトウェアの警告を管理コンソールに報告する方式を定義する標準です。ASFは、プラットフォームとして設計されており、オペレーティングシステムから独立しています。

B

BIOS — basic input/output system（基本入出力システム） — コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つプログラム（またはユーティリティ）です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。セットアップユーティリティとも呼ばれます。

bps — bits per second（ビット／秒） — データの転送速度を計測する標準単位です。

BTU — British thermal unit（英国熱量単位） — 熱量の単位です。

C

C — セルシウス（摂氏） — 温度の測定単位。水の氷点を0度、沸点を100度としています。

CD — compact disc（コンパクトディスク）。光学形式のストレージメディア。通常、音楽やソフトウェアプログラムに使用されます。

CDドライブ — 光学技術を使用してデータをCDから読み取るドライブです。

CDプレイヤー — 音楽CDを再生するソフトウェアです。CDプレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用してCDを再生することができます。

CD-R — CD recordable — 書き込み可能なCDです。データは、CD-Rに1回のみ記録されます。一度記録されたデータは削除したり上書きできません。

CD-RW — CD rewritable — 書き換え可能なCDです。データをCD-RWに書き込んだり削除したり上書きできます（再書き込み）。

CD-RWドライブ — CDのデータを読み取ったり、CD-RWディスクやCD-Rディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RWディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-Rディスクには1度だけ書き込むことができます。

COA — Certificate of Authenticity — Windowsの英数文字のコードで、コンピュータのラベルに印刷されています。オペレーティングシステムのセットアップや再インストールを完了するためにCOAが必要な場合があります。プロダクトキーまたはプロダクトIDを参照してください。

CRIMM — continuity rambus in-line memory module — メモリチップのない特別なモジュールで、使用されていないRIMMスロットに取り付けます。

D

DDR SDRAM — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM） — データバーストサイクルを2倍にして、システムの性能を向上させるSDRAMの一種です。

DINコネクタ — DIN標準に準拠した、丸型の6ピンコネクタです。通常、PS/2キーボードケーブルコネクタまたはマウスケーブルコネクタを接続するために使用します。

DMA — direct memory access — DMAチャネルを使うと、RAMとデバイス間でのデータ転送がマイクロプロセッサを介さずにおこなえるようになります。

DMTF — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理標準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM — dynamic random-access memory（ダイナミックランダムアクセスメモリ） — コンデンサが搭載された集積回路に情報を保存するメモリです。

DSL — Digital Subscriber Line — アナログ電話回線を介して高速常時インターネット接続を提供するテクノロジです。

DVD — digital versatile disc — 通常、映画を収録するのに使用するディスクです。CDの場合は片面のみを使用しますが、DVDは両面を使用します。DVDドライブはほとんどのCDメディアを読み取ることができます。

DVDドライブ — DVDおよびCDから、光学技術を使用してデータを読み取るドライブです。

DVDプレーヤー — DVD映画を鑑賞するときに使用するソフトウェアです。DVDプレーヤーのウィンドウに表示されるボタンを使用して映画を鑑賞することができます。

DVD+RWドライブ — DVDとほとんどのCDメディアを読み取ることができるドライブです。DVD+RWディスクに書き込むこともできます。

DVI — digital video interface（デジタルビデオインタフェース） — コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル送信の標準です。DVIアダプタは、システムの内蔵グラフィックを介して動作します。

E

ECC — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正） — メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取ったりするときに、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP — extended capabilities port — 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの拡張仕様の1つです。EPPに似ていて、データ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE — enhanced integrated device electronics — ハードドライブとCDドライブ用のIDEインタフェースの向上したバージョンです。

EMI — electromagnetic interference（電磁波障害） — 電磁放射線によって引き起こされる電気障害です。

Energy Star® — 全体的な消費電力を節減するEPA要件です。

EPP — enhanced parallel port — 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの仕様の1つです。

ESD — electrostatic discharge（静電気障害） — 静電気の急激な放電のことです。ESDは、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

F

F — ファーレンハイト（華氏） — 温度の測定単位。水の氷点を32度、沸点を212度としています。

FCC — Federal Communications Commission（米国連邦通信委員会） — コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB — front side bus — マイクロプロセッサとRAMの間のデータ経路と物理的なインタフェースです。

FTP — file transfer protoco — インターネットに接続されたコンピュータ間でファイルを交換するための、標準インターネットプロトコルです。

G

G — グラビティ — 重力の計測単位です。

GB — ギガバイト — メモリの場合、1ギガバイトは1024 MBと同じです。ストレージの場合、1ギガバイトは16 Mbまたは百万バイトと同じです。

GHz — ギガヘルツ — 周波数の計測単位です。1 GHzは10億 Hzまたは1,000 MHzです。

GUI — graphical user interface — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザと相互にやり取りするソフトウェア。Microsoft Windowオペレーティングシステムで作動するほとんどのプログラムグは、GUIです。

H

HTML — hypertext markup language — インターネットブラウザ上で表示できるよう、インターネットのウェブページに挿入されるコードセットです。

HTTP — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されたコンピュータ間でファイルを交換するためのプロトコルです。

Hz — ヘルツ — 周波数の単位です。1秒間1サイクルで周波数1 Hzです。コンピュータと電子デバイスは、通常、kHz（キロヘルツ）、MHz（メガヘルツ）、GHz（ギガヘルツ）、またはTHz（テラヘルツ）で測定されます。

I

IC — Industry Canada — 米国でのFCCと同様、電子装置からの放射を規制するカナダの規制団体です。

IDE — integrated device electronics — ハードドライブまたはCDドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. — コンピュータにデジタルカメラやDVDプレーヤーなどの、IEEE 1394互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O — input/output（入出力） — コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力する動作、またはデバイスです。キーボードや、プリンタはI/Oデバイスです。

I/Oアドレス — 特定のデバイス（シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど）に関連するRAMのアドレスで、マイクロプロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IRQ — interrupt request （割り込み要求） — 特定のデバイスがマイクロプロセッサと通信できるように、デバイスに割り当てられた電子経路です。デバイスコネクタには、IRQを割り当てる必要があります。2つのデバイスに同じIRQを割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP — Internet service provider（インターネット接続業者） — インターネットへの接続、電子メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスをおこなうためにホストサーバへのアクセスを提供する会社です。ISPは通常、ソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有償で提供します。

K

Kb — キロビット — 1024バイトに相当するデータの単位です。メモリ集積回路の容量の測定単位です。

KB — キロバイト — データの単位です。1 KBは1024バイトです。または1000バイトとすることもあります。

kHz — キロヘルツ — 1000 Hzに相当する周波数の単位です。

L

LAN — local area network（ローカルエリアネットワーク） — 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LANは通常、1棟の建物内や隣接する2、3棟の建物内に限定されます。LANは電話回線や電波を使って他の離れたLANと接続し、WAN（ワイドエリアネットワーク）を構成できます。

LED — light-emitting diode（発光ダイオード） — コンピュータの状態を示す光を発する電子部品です。

LPT — Line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続の通常の指定先です。

M

Mb — メガビット — 1024 KBに相当するメモリチップの容量の単位です。

Mbps — メガビット／秒 — 1,000,000ビット／秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB — メガバイト — 1,048,576 バイトに相当するデータストレージの単位です。1 MBは1024 KBです。ハードドライブストレージに関して使用する場合、1 MBを通常1,000,000バイトに丸めます。

MB/sec — メガバイト／秒 — 1,000,000バイト／秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz — メガヘルツ — 周波数の単位です。1秒間に1,000,000サイクルで1 MHzです。通常、コンピュータのマイクロプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度はMHz単位で計測されます。

ms — ミリ秒 — 1秒の1000分の1に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC — ネットワークアダプタを参照してください。

ns — ナノ秒 — 1秒の10億分の1に相当する時間の単位です。

NVRAM — nonvolatile random access memory（不揮発性ランダムアクセスメモリ） — コンピュータの電源が切られたり、外部電源が停止した場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAMは、日付、時刻、およびお客様が設定できる他のシステムセットアップオプションなどのシステム設定情報を維持するのに使用されます。

P

PCI — peripheral component interconnect — PCIは、32ビットおよび64ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、マイクロプロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

PIO — programmed input/output — データパスの一部にマイクロプロセッサを経由した2つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST — power-on self-test（電源投入時の自己診断） — BIOSが自動的にロードする診断プログラム。メモリ、ハードドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POSTで問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 — personal system/2 — PS/2互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタです。

PXE — WfM（Wired for Management）の規格で、オペレーティングシステムを持たないネットワークコンピュータを設定しリモートで起動できます。

R

RAID — redundant array of independent disks — 2つまたはそれ以上のドライブが一緒に動作して、性能を向上したり耐故障性を提供します。RAIDドライブは通常はサーバや高性能PCで使用されます。

もっともよく使用されるRAIDレベルは、0、3、および5です。

- レベル0: データストライピングを提供しますが、冗長性はありません。レベル0によって性能は向上しますが、耐故障性は提供されません。
- レベル3: レベル0と同じですが、エラー修正データ用に専用ドライブを予約して、高性能とある程度の耐故障性を提供します。
- レベル5: バイトレベルでのデータストライピングとストライプエラー修正情報を提供します。その結果、性能および耐故障性が大きく向上します。

RAM — random-access memory（ランダムアクセスメモリ） **—** プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAMに保存されている情報は、コンピュータの電源が切れると失われます。

readmeファイル — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readmeファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI — radio frequency interference（無線電波障害） — 10 kHzから100,000 MHzまでの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM — read-only memory（読み取り専用メモリ） — コンピュータが削除したり書き込んだりできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAMと異なり、ROMはコンピュータの電源が切れた後内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムでROMに常駐しているものがいくつかあります。

RPM — revolutions per minute — 1分間に発生する回転の数です。

RTC — real time clock — システム基板上にあるバッテリで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCRST — real time clock reset — システム基板のジャンパで、トラブルシューティングに使用することができます。

S

ScanDisk — Microsoftのユーティリティで、ファイル、フォルダ、およびハードドライブの表面のエラーをチェックします。ロックアップ発生後にScanDiskを実行します。

SDRAM — synchronous dynamic random-access memory（同期ダイナミックランダムアクセスメモリ） — マイクロプロセッサの最適クロック速度と同期されたDRAMの一種です。

T

TAPI — telephony application programming interface — Microsoft Windowsのアプリケーションで音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが使用できます。

U

UPS — uninterruptible power supply（無停電電源装置） — 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPSを設置していると、電源が切れた場合でもコンピュータは限られた時間稼動します。通常、UPSシステムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型のUPSシステムで数分間電源を供給するので、コンピュータを正しくシャットダウンすることが可能です。

USB — universal serial bus（ユニバーサルシリアルバス） — USB互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、スピーカー、およびプリンタなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの4ピンソケットかコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USBデバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりできます。また、デージーチェーン型に接続もできます。

V

V — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1ボルトは、1アンペアの電流を通ずる抵抗1オームの導線の両端の電位の差です。

W

W — ワット — 電力の計測単位です。1 Wは1ボルトで流れる1アンペアの電流を指します。

WHr — ワット時 — バッテリの充電容量を表すのに通常使われる単位です。たとえば、66 WHrバッテリ は66 Wの電力を1時間、または33 Wの電力を2時間供給できます。

Z

ZIF — zero insertion force — コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを装着したり取り外したりできる、ソケットやコネクタの種類です。

Zip — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zipフォーマットで圧縮されているファイルをZipファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が**.zip**となります。特別なZipファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は**.exe**となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zipドライブ — Iomega Corporationによって開発された大容量のフロッピードライブで、Zipディスクと呼ばれる3.5インチのリムーバルディスクを使用します。Zipディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約二倍の厚みがあり、100 MBのデータを保持できます。

ア

アンチウイルスソフトウェア — コンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス — ユーザーにダメージを与えたり、コンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスクやインターネットからダウンロードしたソフトウェアや電子メールの添付ファイルを経由してコンピュータからまた別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスには、フロッピーディスクのブートセクタに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクをドライブに挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次に起動したときコンピュータはオペレーティングシステムを探すためフロッピーディスクのブートセクタにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされる全てのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード — Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコードです。サポートを受けるためにDellに連絡する際にエクスプレスサービスコードを使用します。

カ

カーソル — キーボードまたはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 — プリンタで印刷される画像や、モニタに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合いです。解像度は高い数値に設定しているほど鮮明です。

書き込み保護 — ファイルやメディアに、データの内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更されたり破壊されることのないようにデータを保護します。3.5インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定するときは、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を拡張します。拡張カードの例には、ビデオ、モデム、およびサウンドカードなどがあります。

拡張型PCカード — 拡張型PCカードは、取り付けた際にPCカードスロットからカードの端が突き出しています。

拡張スロット — 拡張カードを挿入するコンピュータのシステム基板のコネクタで、システムバスに接続します。

拡張ディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。デュアルディスプレイモードとも呼ばれます。

壁紙 — Windowsデスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには、コントロールパネルを開いて画面のプロパティにアクセスします。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙にすることができます。

起動CD — コンピュータを起動するために使用するCDです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合などに備え、起動CDまたは起動ディスクを常備しておきます。お使いの『Drivers and Utilities CD』は、起動CDです。

起動順序 — コンピュータが起動を試みるデバイスの順番を指定します。

起動ディスク — コンピュータを起動するために使用するディスクです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合などに備え、起動ディスクまたは起動CDを常備しておきます。

キャッシュ — 特別な高速記憶領域です。メインメモリのリザーブセクションまたは独立した高速記憶デバイスです。キャッシュは、マイクロプロセッサのオペレーションスピードを高めます。

L1キャッシュ — マイクロプロセッサ内にある高速のプライマリキャッシュ。

L2キャッシュ — マイクロプロセッサに外付け、またはマイクロプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンドキャシュ。

休止状態モード — メモリ内のすべてをハードドライブ上の特別な予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

グラフィックモード — *x* 水平画素数、*y* 垂直画素数および*z* 色数で表されるビデオモードです。グラフィックモードは、どんな形やフォントも表現できます。

クロック速度 — システムバスに接続しているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作しているかを示す速度で、MHzで表されます。

コントローラ — マイクロプロセッサとメモリ間、またはマイクロプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル — 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するためのユーティリティです。

サ

サージプロテクタ — 雷雨などの時に発生する電圧スパイクがコンセントを通してコンピュータに送られるのを防ぎます。ただし、サージプロテクタでは、ブラウンアウト（電圧が通常のACライン電圧レベルよりも20％以上低下）からはシステムを保護できません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護されません。雷が近いときには、常にネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、Dell Supportの**support.jp.dell.com**にアクセスしたり、Dellのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話でお問い合わせになる場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 — コンピュータに搭載されている主要回路基板です。マザーボードとも呼ばれます。

システムトレイ — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されているWindowsタスクバーの領域です。通知領域とも呼ばれます。

シャットダウン — ウィンドウやプログラムを閉じ、オペレーティングシステムを終了して、コンピュータの電源を切るプロセスです。シャットダウンが完了する前にコンピュータの電源を切ると、データを消失する恐れがあります。

ショートカット — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブにすばやくアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットをWindowsデスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ — I/Oポートは、コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用されます。

スタンバイモード — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンし電力を節約する、省電力モードです。

セットアッププログラム — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定するのに使うプログラムです。**setup.exe**または**install.exe**というプログラムがWindows用ソフトウェアに付属しています。セットアッププログラムはセットアップユーティリティとは異なります。

セットアップユーティリティ — コンピュータハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つプログラム（またはユーティリティ）です。セットアップユーティリティを使って、BIOSのユーザー選択可能オプション（時刻、日付、またはシステムパスワードなど）を設定できます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。

ソフトウェア — コンピュータファイルやプログラムなど、電子的に保存できるすべてのものです。

タ

通知領域 — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されているWindowsタスクバーの領域です。システムトレイとも呼ばれます。

ディスクストライピング — 複数のディスクドライブにデータを分散する技術です。ディスクストライピングによって、ディスクストレージからデータをより早く読み出すことができます。ディスクストライピングを使用しているコンピュータでは、ユーザーはデータのユニットサイズまたはストライプ幅を選択できます。

テキストエディタ — Windowsのメモ帳など、テキストのみを含むファイルを作成したり編集するためのプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプシ

ョンやフォントの変換など）の機能はありません。

デバイス — ディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどコンピュータに内蔵または外付けされたハードウェアです。

デバイスドライバ — ドライバを参照してください。

デュアルディスプレイモード — お使いのディスプレイの拡張として、2台目のモニタを使えるようにするディスプレイの設定です。拡張ディスプレイモードとも呼ばれます。

ドライバ — プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされてない場合、正常に動作しません。

ナ

内蔵 — 通常、コンピュータのシステム基板に搭載されているコンポーネントを指します。また、ビルトインともいいます。

ネットワークアダプタ — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されているPCカードもあります。ネットワークアダプタは、NIC（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

ハ

パーティション — ハードディスク上の物理ストレージ領域です。1つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

ハードドライブ — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードドライブとハードディスクは、同じ意味としてどちらかが使われています。

バイト — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1バイトは、通常8ビットです。

バス — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHzで示される速度です。

バックアップ — フロッピーディスクドライブ、CDドライブ、またはハードドライブなどにプログラムやデータファイルをコピーすることです。不測の事態に備えて、定期的にハードドライブのバックアップを取ってください。

パラレルコネクタ — I/Oポートは、コンピュータにパラレルプリンタを接続する場合などに使用されます。LPTポートとも呼ばれます。

ヒートシンク — 放熱の役目をするマイクロプロセッサに付属する金属板です。

ピクセル — ディスプレイ画面のシングルポイントです。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオの解像度（800 ×600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

ビット — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

ビデオ解像度 — 解像度を参照してください。

ビデオコントローラ — お使いのコンピュータに（モニタの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供する、ビデオカードまたは（内蔵ビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード — テキストやグラフィックをモニタに表示する際のモードです。グラフィックをベースにしたソフトウェア（Windowsオペレーティングシステムなど）は、*x* 水平ピクセル数、*y* 垂直ピクセル数、*z* 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、*x* 列 × *y* 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

フォーマット — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備することです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ — ディスクやドライブ上のファイルを整頓したりグループ化したりする入れ物です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ — デバイスを自動的に設定するコンピュータの機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイを使うと、自動的なインストール、設定、および既存ハードウェアとの互換性が可能になります。

プログラム — 表計算ソフト、ワープロソフト、データベースソフト、ゲームソフトなどデータ処理をするソフトウェアです。これらのプログラムは、オペレーティングシステムの実行を必要とします。

フロッピードライブ — フロッピーディスクにデータを読み書きできるディスクドライブです。

マ

マイクロプロセッサ — プログラム命令を解析して実行する、コンピュータチップです。マイクロプロセッサは、プロセッサやCPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

マウス — 画面上のカーソルを移動させるポインティングデバイスです。通常は、マウスを硬くて平らな面で動かし、画面上のカーソルやポインタを移動します。

メモリ — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけですので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンする時もファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROMおよびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというとRAMを指します。

メモリアドレス — データを一時的にRAMに保存する特定の場所です。

メモリマッピング — コンピュータがスタートアップ時にメモリアドレスを物理的な場所に割り当てる処理です。デバイスとソフトウェアが、マイクロプロセッサがアクセスできる情報を識別できるようになります。

モデム — アナログ電話回線を通じて他のコンピュータとコミュニケーションをとるためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PCカードモデム、および内蔵モデムの3種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や電子メールの交換に使用されます。

モニタ — 高解像度のテレビのようなデバイスで、コンピュータの出力を表示します。

ヤ

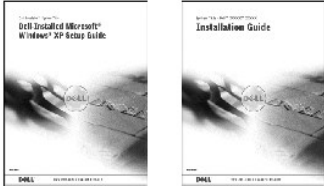
読み取り専用 — 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合にファイルが読み取り専用に設定されます。

- 物理的に書き込み保護にされたフロッピーディスクにファイルが存在する場合
- ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者が特定の個人にのみ権限を割り当てている場合

ラ

リフレッシュレート — 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位はHzで、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線（垂直周波数）が再描画されます。人の目には、リフレッシュレートが高ければ、ビデオのちらつきが少なくなります。

ローカルバス — デバイスにマイクロプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

お使いのコンピュータについて

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

お使いのコンピュータに関する情報の検索

何をお探しですか？	ここに記載されています
コンピュータの診断プログラム コンピュータのドライバ コンピュータのマニュアル デバイスのマニュアル	**『Drivers and Utilities CD』（『ResourceCD』とも呼ばれます）** このCDは、マニュアルへのアクセス、ドライバの再インストール、診断ツールの実行に使用します。
コンピュータのセットアップ方法 トラブルシューティングの情報 ツールとユーティリティ	**『セットアップおよびクイックリファレンスガイド』**
エクスプレスサービスコードとサービスタグナンバー Microsoft® Windows® ライセンスラベル	**エクスプレスサービスコードとプロダクトキー** ラベルはお使いのコンピュータに貼られています。
オペレーティングシステムの再インストール方法	**『オペレーティングシステムCD』および『インストールガイド』** オペレーティングシステムを再インストールする場合、『ResourceCD』を使用してコンピュータに付属しているデバイス用のドライバを再インストールします。
部品の取り外しおよび取り付け方	**ユーザーズガイドアイコン**

法 ・仕様 ・システムの設定方法 ・トラブルシューティングおよび問題解決の方法	オペレーティングシステムに応じて、デスクトップの**ユーザーズガイド**アイコンをダブルクリックするか、あるいは**スタート**ボタンをクリックし、次に**ヘルプとサポート**をクリックして、ハードドライブの電子マニュアルにアクセスします。
・コンピュータ用の最新のドライバ ・テクニカルサービスおよびサポートに関する質問の回答 ・コンピュータのマニュアル	**Dellサポートウェブサイト** Dellサポートウェブサイトには、以下のツールを含むいくつかのオンラインツールがあります。 ・技術情報 — Q&A集、トラブル解決ナビ、Diagnostics（診断プログラム）、インストールガイド、OSアップグレード情報、システムマニュアル ・ダウンロード — ファイルライブラリ（ドライバ、ソフトウェアのアップデート） ・テクニカルサポート へのお問い合わせ — Eメールサポート、電話テクニカルサポート、引き取り修理状況確認 ・各種サービスのご案内 — サービスプラン、登録内容変更申し込み、FAX情報サービス ・その他
・Windows XPの使い方 ・コンピュータとデバイスのマニュアル	**Windows XPのヘルプとサポートセンター** 1. **スタート**ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート**をクリックします。 2. 問題に関連する用語やフレーズを**検索**ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。 3. 表示されているトピックをクリックします。 4. 画面で示されている手順に従います。

仕様

- マイクロプロセッサ
- メモリ
- コンピュータ情報
- ビデオ
- オーディオ
- 拡張バス
- ドライブ
- コネクタ
- キーの組み合わせ
- ボタンとライト
- 電源
- サイズと重量
- 環境

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	Intel® Pentium® 4
L1（レベル1）キャッシュ	64 KB
L2（レベル2）キャッシュ	512 KB
メモリ	
種類	RDRAM
メモリのコネクタ	4
対応するメモリモジュール	PC800-40：64、128、256、512 MB、非ECCまたはECC PC1066-32P：128、256、512 MB、ECCおよび64、128、256、512 MB、非ECC
最小メモリ	PC800-40：128 MB非ECCおよびECC PC1066-32P：128 MB非ECCおよび256 MB ECC
最大メモリ	PC800-40：2 GB非ECCおよびECC PC1066-32P：1.5 GB非ECCおよびECC
BIOSアドレス	F0000h
コンピュータ情報	
チップセット	Intel 850E
データバス幅	64ビット
アドレスバス幅	32ビット
DMAチャネル	8

割り込みレベル	23
BIOSチップ	4 Mb
メモリ速度	400 MHz FSB搭載の1.5 GHz～2.2 GHzのプロセッサは45 ns以上が必要です。 533 MHz FSB搭載の2.26 GHz以上のプロセッサは40 ns以上が必要です。
NIC	DMTFによって定義されているASFサポートを組み込んだ内蔵PCIネットワークインタフェース
SCSI コントローラ	オプションのアドインU320 SCSI
システムクロック	400または533 MHzデータ転送率
ビデオ	
種類	AGP 4倍速（1.5 Vのみ）
オーディオ	
種類	AC97、Sound Blasterエミュレーション
ステレオ変換	16ビットAD変換および20ビットDA変換
拡張バス	
バスの種類	PCIおよびAGP
バス速度	PCI：33 MHz AGP：66 MHz
拡張カードコネクタ	PCIスロットが4つ、およびAGPスロットが1つ
ドライブ	
外部アクセス用：	3.5インチベイが2つ 5.25インチベイが2つ
内部アクセス用：	1インチ幅ハードドライブ用ベイが2つ
コネクタ	
外付けコネクタ：	
シリアル	16550C互換 9ピンコネクタが2つ
パラレル	双方向25ピンコネクタ（メス）
ネットワークアダプタ	RJ45コネクタ
PS/2（キーボード／マウス）	6ピンミニDIN
USB	USB 2.0互換コネクタが、正面パネルに2つと背面パネルに6つ
オーディオ	ライン入力、ライン出力、マイク用のコネクタが3つ、およびヘッドフォン用の正面パネルコネクタが1つ
システム基板コネクタ：	
プライマリIDE	PCIローカルバスに40ピンコネクタ
セカンドIDE	PCIローカルバスに40ピンコネクタ
フロッピー	34ピンコネクタ
CDドライブオーディオインタフェース	4ピンコネクタ
テレフォニー(TAPI)	4ピンコネクタ
ファン	3ピンコネクタ
キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	コンピュータを再起動
<F2>	内蔵のセットアップユーティリティを起動（起動時のみ）
<F12>	ネットワークからの起動（起動時のみ）
<Ctrl><Alt><F10>	コンピュータ起動時に、ユーティリティパーティションを始動（インストールされている場合）
<Ctrl><Alt><F8>	起動順序の変更（起動時のみ）
<Ctrl><Enter>	起動時にコンピュータパスワードを無効化（正しいパスワードが入力された後）
ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	電源ボタンの緑色のライト — スリープ状態のとき緑色に点滅；電源がオンのとき緑色に点灯
ハードドライブライト	緑色

リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	10 Mb伝送時は緑色のライト；100 Mb伝送時はオレンジのライト；1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	背面パネルにライトが4つ
電 源	
DC電源装置：	
ワット数	250 W
熱散逸	910 BTU／時
電圧	90 V～135 V（50/60 Hz）；180 V～265 V（50/60 Hz）
バックアップバッテリ	3 V CR2032リチウムコインセル
サイズと重量	
高さ	42.5 cm
幅	18.1 cm
奥行	44.7 cm
重量	12.7 kg
環 境	
温度：	
動作時	10° ～ 35° C*
保管時	-40° ～ 65° C
相対湿度	20 %～80 %（結露しないこと）
最大振動：	
動作時	0.25 G (3 Hz～200 Hz、0.5オクターブ／分)
保管時	0.5 G (3 Hz～200 Hz、1オクターブ／分)
最大衝撃：	
動作時	50.8 cm／秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm／秒の速度変化で27 Gフェアードスクエアウェーブ
高度：	
動作時	- 15.2 m ～ 3,048 m*
保管時	- 15.2 m ～ 10,668 m
*35℃で、最大操作高度は914 mです。	

目次ページに戻る

目次ページに戻る

メモリ

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

 警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

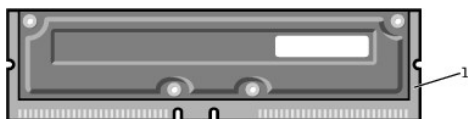
システム基板にメモリモジュールを取り付けることによって、コンピュータのメモリを増やすことができます。お使いのコンピュータでサポートされているメモリの種類については、「仕様」の「メモリ」を参照してください。

メモリの取り付けガイドライン

- 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の最新のBIOSをDellサポートウェブサイト**support.jp.dell.com**からダウンロードしてください。

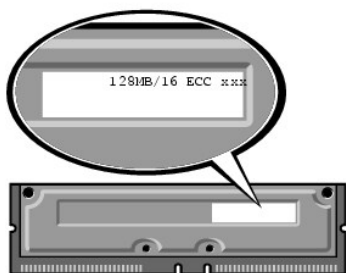
注意： CRIMMは、メモリモジュールコネクタ 3および 4にのみ装着可能です。コネクタの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

- 各メモリソケットは、RIMMまたはCRIMMのどちらかによって占有されている必要があります。

メモリモジュール

1	RIMM
2	CRIMM

注意： メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリモジュールを取り外した場合、新しいモジュールがDellから購入されたものであっても、お持ちの新しいモジュールとは区別して保管してください。元のメモリモジュールは、RIMM1 と RIMM2 コネクタまたは RIMM3 と RIMM4 コネクタのどちらかにそれぞれペアで取り付ける必要があります。元のメモリモジュールと新しいメモリモジュールをペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。

- メモリソケットは、同じものを2枚1組で必ずアップグレードします。いいかえれば、2つ1組のソケットには、容量、コンポーネントの数、および速度が同一のモジュールを取り付ける必要があります。システム基板のメモリソケットの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

メモリモジュールのラベル

- ECCと非ECCモジュールを組み合わせたペアは、常に非ECCモジュールとして機能します。
- PC1066とPC800モジュールを組み合わせたペアは、常にPC800として機能します。
- モジュールを別のソケットに装着する前に、必ず最初にRIMMをソケット1（プロセッサに最も近い）に取り付けてください。

メモリモジュールを取り外したり取り付ける前に

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。

4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。

5. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意：コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

6. コンピュータカバーを開きます。

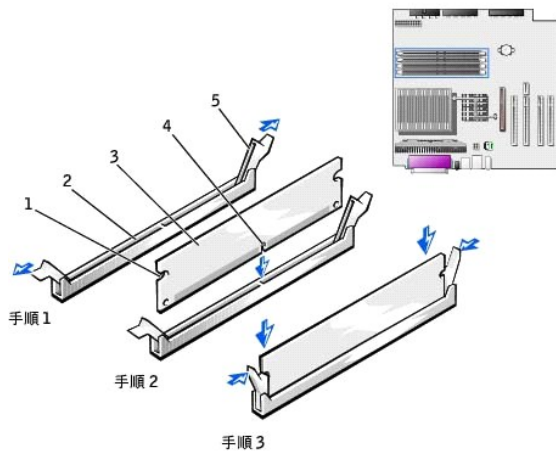
メモリモジュールの取り外し

1. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

2. モジュールをつかんで引き上げます。

モジュールが取り外しにくい場合、モジュールを前後に慎重に動かしてゆるめ、コネクタから取り外します。

メモリモジュールの取り付け

1. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

1	切り欠き（2）
2	コネクタ
3	メモリモジュール
4	切り込み
5	固定クリップ（2）

2. モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

注意：メモリモジュールへの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力をかけてソケットにまっすぐ差し込むようにしてください。

3. モジュールがコネクタ両端の垂直ガイドに収まっていることを確認しながら、モジュールをコネクタにまっすぐ差し込みます。モジュールがカチッと所定の位置に収まるまで、モジュールの両端をしっかり押します。

モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。

4. コンピュータカバーを閉じます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

5. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

6. <F2>を押してセットアップユーティリティを起動し、**System Memory**の値を確認します。

コンピュータは新しく取り付けたメモリを認識して、**System Memory**の値を変更しているはずです。メモリの新しい値を確認します。値が正しければ、手順 8へ進みます。

7. メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。コンピュータカバーを開き、取り付けられたメモリモジュールを確認して、メモリモジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。次に、手順 4、5、および 6を繰り返します。

8. **System Memory**の総メモリ容量が正しい場合、<Esc>を押してセットアップユーティリティを終了します。

9. Dell診断プログラムを実行し、メモリモジュールが正しく動作しているか確認します。

[目次ページに戻る]

AGPカード

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

⚠ **警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。**

お使いのコンピュータには、AGPカード用のコネクタが搭載されています。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
3. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

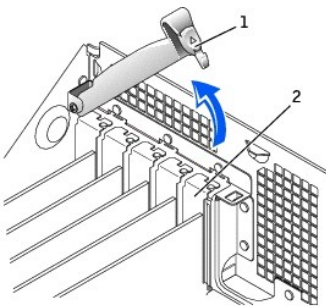
4. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
5. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
6. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

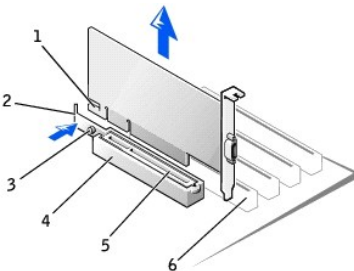
⚠ **警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**

注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

7. [コンピュータカバーを開きます]。

AGPカードの取り外し

1. ヒンジレバーを持ち上げてからフィラーブラケットを引き上げて、フィラーブラケットを取り外します。

1	ヒンジレバー
2	フィラーブラケット

2. カードレバーをPCIコネクタの方へ押します。
3. カードを引き上げてカードクリップから取り出します。

1	切り込み	4	カードクリップ
2	レバー	5	AGPコネクタ
3	タブ	6	PCIコネクタ

AGPカードの取り付け

1. カードを追加したり交換するには、カードレバーをPCIコネクタの方へ押し、カードが所定の位置にカチッと収まるまで、慎重にカードをAGPコネクタに押し込みます。
2. カードレバーのタブがカードの正面角の切り込みとかみ合っているか確認しながら、カードレバーを放します。
3. 背面パネルのヒンジレバーを下げて、カードを固定します。
4. コンピュータカバーを閉じます。
5. モニタケーブルをカードのビデオコネクタに接続します。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

6. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

PCIカード

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

 警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

お使いのコンピュータには、32ビット／33 MHzカード用のスロットが4つ搭載されています。詳細については、「仕様」または「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

メモ： PC99要件を満たすため、DellコンピュータはPCIスロットのみを使用しています。ISAカードはサポートされていません。

カードを取り付けるか交換する場合、次項の手順に従ってください。カードを取り外して取り付けなおさない場合、「カードの取り外し」を参照してください。

カードの取り付け

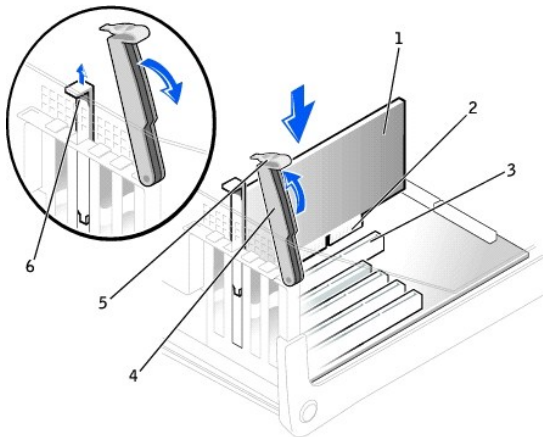
1. カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。
2. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
3. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
4. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

5. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
6. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
7. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

8. コンピュータカバーを開きます。
9. カードの保持アームのレバーを押し、保持アームを持ち上げます。

1	カード
2	エッジコネクタ
3	カードコネクタ
4	保持アーム
5	レバー
6	フィラーブラケット

10. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 12に進みます。
11. 既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

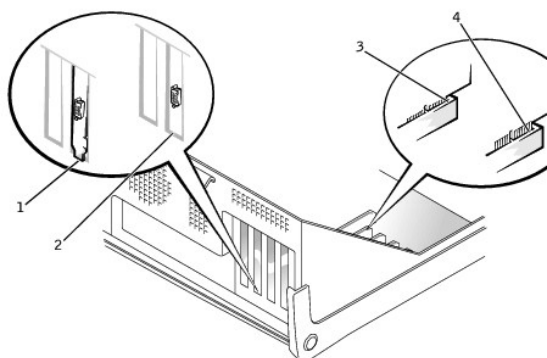
必要に応じて、カードに接続されているすべてのケーブルを外します。次にカードの上端をつかんで、コネクタから取り外します。

12. カードを取り付ける準備をします。

カードの設定、内部の接続、またはコンピュータに合わせたカスタマイズの情報については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

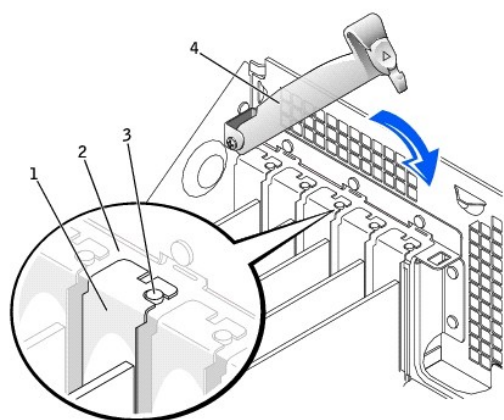
警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。システム基板のスタンバイ電源ライトが消灯しているか確認します。このライトの位置は、「システム基板のコンポーネント」を参照してください。

13. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

カードがフルレングスの場合、カードをシステム基板のコネクタの方へ下げながら、カードの端をカードガイドブラケットに差し込みます。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	スロットの外側にはみ出したブラケット
2	スロット内のブラケット
3	完全に装着されたカード
4	完全に装着されていないカード

14. 保持アームを下げる前に、以下のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が位置合わせバーとぴったり揃っている。
- カードまたはフィラーブラケット上端の切り込みが、位置合わせガイドとかみ合っている。

アームを所定の位置に押し、カードをコンピュータに固定します。

1	フィラーブラケット
2	位置合わせバー
3	位置合わせガイド
4	保持アーム

注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上に配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

15. 必要なケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

16. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。
17. サウンドカードを取り付けた場合
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**に進み、**Sound**の設定を**Off**に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー／ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
18. アドインネットワークアダプタを取り付けた場合
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**に進んで、**Network Interface Card**の設定を**Off**に変更します。
    b. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
19. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

カードの取り外し

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、以下の手順を開始します。
2. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
3. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

4. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
5. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
6. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

7. コンピュータカバーを開きます。
8. カード保持アームを押して、保持アームを持ち上げます（「カードの取り付け」を参照）。
9. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。
10. カードの上端を持って、コネクタから取り外します。
11. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

    フィラーブラケットが必要な場合、Dellにお問い合わせください。

メモ： コンピュータのFCC認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

12. 保持アームを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

13. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。
14. カードのドライバをオペレーティングシステムから削除します。
15. サウンドカードを取り外した場合
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**に進み、**Sound**の設定を**On**に変更します。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続ます。
16. アドインネットワークアダプタを取り外した場合
    a. セットアップユーティリティを起動し、Integrated Devicesに進んで、**Network Interface Card**の設定を**On**に変更します。
17. ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

目次ページに戻る

コンピュータカバーの閉じ方

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

1. すべてのケーブルがしっかり接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。

   電源ケーブルがドライブの下に挟まらないように、電源ケーブルを慎重に手前に引きます。

2. コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないか確認します。
3. コンピュータカバーを閉じます。
   a. カバーを下に動かします。
   b. カバーが閉じるまでカバーの右側を押し下げます。
   c. カバーが閉じるまでカバーの左側を押し下げます。
   d. カバーの両側がロックされているか確認します。ロックされていない場合、手順 3を繰り返します。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

4. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

コンピュータカバーの開き方

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

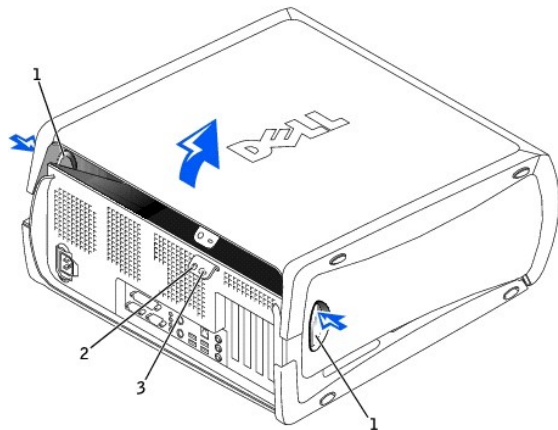
注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外して、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
5. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

6. 次の図に示すように、側面を下にしてコンピュータを置きます。

注意： カバーを開いておくために十分なスペース（机の上に30 cm以上）があることを確認します。

7. カバーを開きます。
   a. コンピュータの背面を手前に向け、片方の手でカバー上端を引き上げながら、もう片方の手でコンピュータの右側にあるリリースボタンを押します。
   b. 片方の手でカバー上端を引き上げながら、もう片方の手でコンピュータの左側にあるリリースボタンを押します。
   c. 片方の手でコンピュータの低部を押さえ、もう片方の手でカバーを開きます。

1	リリースボタン
2	セキュリティケーブルスロット
3	パドロックリング

目次ページに戻る

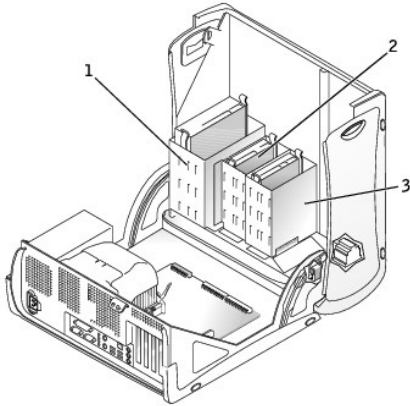
[目次ページに戻る]

ドライブ

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

概要

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

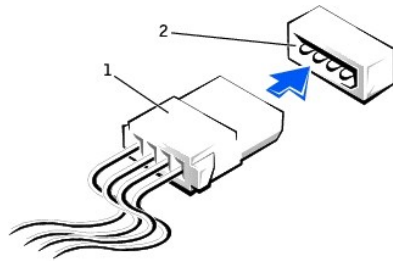
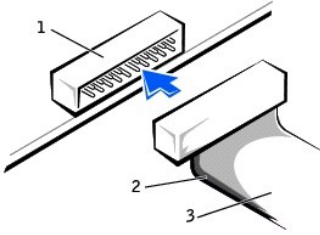
- 2台のハードドライブ
- 2台のフロッピードライブ
- 2台のCDまたはDVDドライブ

1	CD/DVDドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

IDEドライブのアドレス指定

1本のIDEインタフェースケーブルに2台のIDEデバイスを接続し、ケーブル選択設定をおこなう場合、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、マスタまたは起動デバイス(ドライブ0)となり、インタフェースケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイス(ドライブ1)となります。デバイスのケーブル選択設定の方法については、アップグレードキットに付属しているドライブのマニュアルを参照してください。

お使いのコンピュータは、IDEデバイスを2台までサポートします。ハードドライブは「IDE1」とラベルされたコネクタに接続され、CD/DVDドライブは「IDE2」とラベルされたコネクタに接続されているはずです。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2本のケーブル(DC電源ケーブルとインタフェースケーブル)をドライブの背面に接続します。

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

1	インタフェースコネクタ
2	ケーブルの色帯
3	インタフェースケーブル

インタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの1番ピンワイヤ（ケーブルの片側に色帯が付いています）が、コネクタの1番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの1番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に｢1｣と直接シルクスクリーン印刷されています。

注意： インタフェースケーブルを接続する際は、色帯をコネクタの1番ピンから離れた位置に置かないでください。インタフェースケーブルを裏返しにするとドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

ハードドライブ

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

注意： ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
3. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

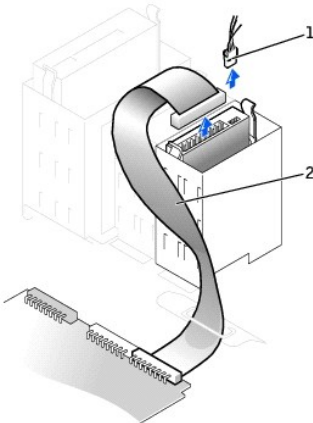
4. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
5. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
6. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

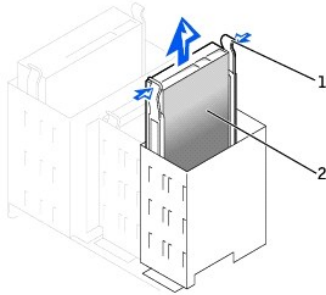
警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

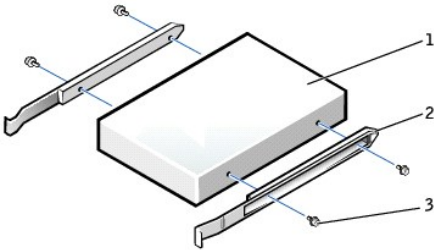
7. コンピュータカバーを開きます。

ハードドライブの取り外し

1. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブから取り外します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

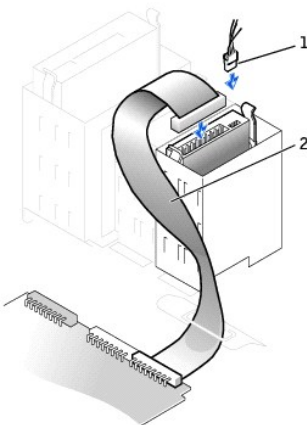
2. ドライブの両側のタブを押し込んでから、ドライブを上にスライドして取り外します。

1	タブ（2）
2	ハードドライブ

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。
2. ドライブのマニュアルを参照し、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 交換するハードドライブにブラケットレールが付いていない場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に4本のネジ（各レールに2本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。

注意： ケーブルの色帯をドライブの1番ピン（「1」と印されています）と合わせます。

5. 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	ハードドライブケーブル

6. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと固定されているか確認します。
7. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、起動フロッピーディスクをドライブAに挿入します。
10. コンピュータの電源を入れます。
11. セットアップユーティリティを起動し、適切な**Primary Drive**オプション（**0**または**1**）をアップデートします。
12. セットアップユーティリティを終了し、コンピュータを再起動します。
13. 次の手順に進む前に、ご使用のドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

14. Dell診断プログラムを実行して、ハードドライブをテストします。
15. 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、そのハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。
16. **Chassis Intrusion**を**Enabled**または**Enabled-Silent**に変更して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ： セットアップパスワードが他の人によって割り当てられている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法をネットワーク管理者にお問い合わせください。

2台目のハードドライブの追加

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

注意： ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

1. ドライブのマニュアルを参照し、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
2. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
3. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

4. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
5. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
6. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

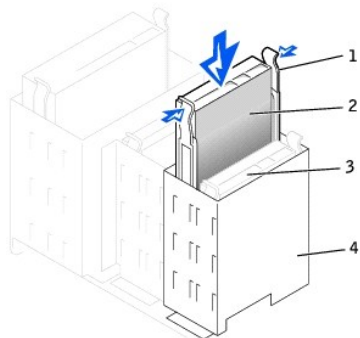
警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

7. コンピュータカバーを開きます。
8. ハードドライブベイの内側から、2本の緑色のプラスチック製のレールを慎重に持ち上げて取り外します。
9. レールに付いている2本のネジを使って、レールをハードドライブに取り付けます。

   レールのタブがハードドライブの背面に位置しているか確認します。

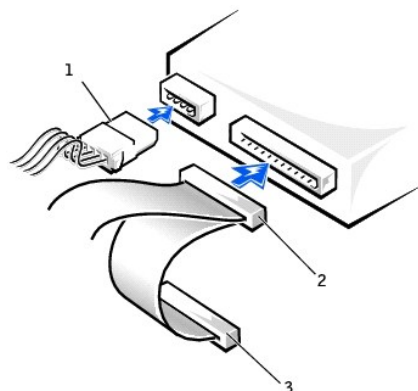
注意： 緑色のドライブレールをハードドライブベイの内側から取り外すまで、ドライブを下段のハードドライブベイに取り付けないでください。

10. 1台目のハードドライブを上段のベイから取り外し、それを下段のベイに取り付けます。
    a. 電源ケーブルおよびハードドライブケーブルを1台目のハードドライブの背面から取り外します。
    b. 2つの緑色のレールタブを押し、1台目のハードドライブを上段のベイから引き出します。
    c. カチッという音がするまで、慎重に1台目のハードドライブを下段のベイに押し込みます。
    d. 電源ケーブルおよびハードドライブケーブルを1台目のハードドライブの背面に取り付けます。
11. カチッという音がするまで、慎重に新しいハードドライブを上段のベイに押し込みます。

1	レールタブ(2)
2	上段のベイの2台目のハードドライブ
3	下段のベイの1台目のハードドライブ
4	ハードドライブベイ

12. 電源ケーブルをドライブに接続します。

注意： ケーブルの色帯をドライブの1番ピンに合わせます。

13. 1台目のハードドライブに接続されているドライブケーブルの予備のコネクタを探し、そのコネクタを2台目のハードドライブに接続します。

    お使いのコンピュータには、ケーブルセレクトドライブケーブルが使われています。これは、デバイスケーブルの端のコネクタに接続されたデバイスがマスタデバイスで、中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイスであることを意味します。新しいデバイスのジャンパ設定が「ケーブルセレクト」に設定されているか確認します（ドライブに付属のマニュアルを参照）。

1	電源ケーブル
2	2台目のハードドライブケーブル（セカンドドライブ）
3	1台目のハードドライブケーブル（プライマリ起動ドライブ）

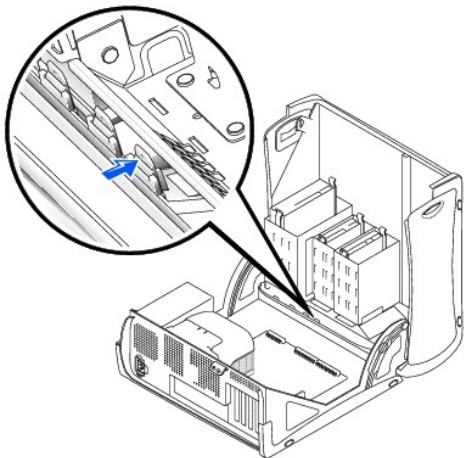
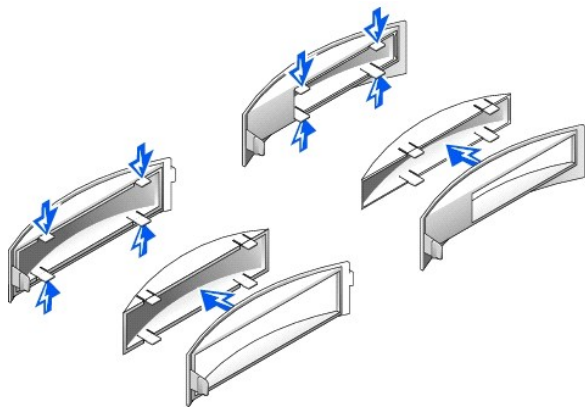
14. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

15. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
16. ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

ドライブベイカバー

新しいフロッピードライブまたはCD/DVDドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。

1. コンピュータカバーを90度の角度まで開き、コンピュータの内側から挿入タブを外します。

2. ドライブベイカバーがポンと音がして外れようになるまでカバーを押します。

フロッピードライブ

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意：ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

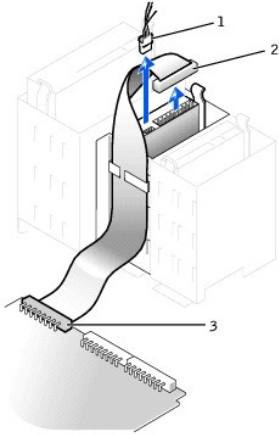
3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
5. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

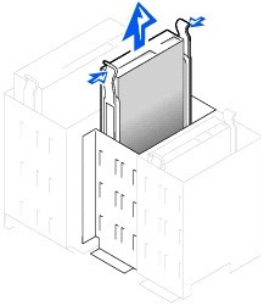
警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

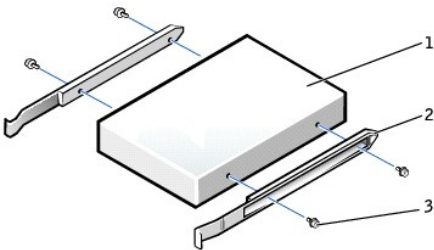
注意：コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

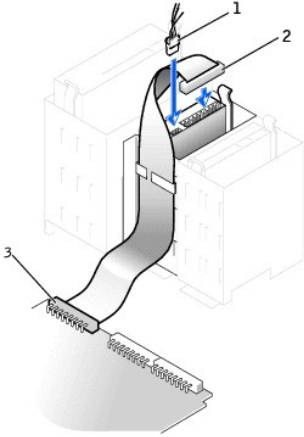
6. コンピュータカバーを開きます。

フロッピードライブの取り外し

1. 電源ケーブルおよびフロッピードライブケーブルをフロッピードライブの背面から取り外します。
2. フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板コネクタ（DSKTとラベル）から取り外します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

3. ドライブの両側にある2個のタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドしてフロッピードライブベイから取り外します。

フロッピードライブの取り付け

1. ブラケットレールが付いていないドライブや新しいドライブを取り付ける場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に4本のネジ（各レールに2本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

2. タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。
3. 電源ケーブルおよびフロッピードライブケーブルをフロッピードライブに取り付けます。
4. フロッピードライブケーブルのもう一方の端をシステム基板の「DSKT」とラベルされたコネクタに接続します。

1	電源ケーブル
2	フロッピードライブケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. 新しいフロッピードライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。
6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。
7. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9. セットアップユーティリティを起動し、対応する**Diskette Drive A**オプションを更新して新しいフロッピードライブのサイズと容量を反映させます。
10. Dell診断プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

CD/DVDドライブ

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

1. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
2. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

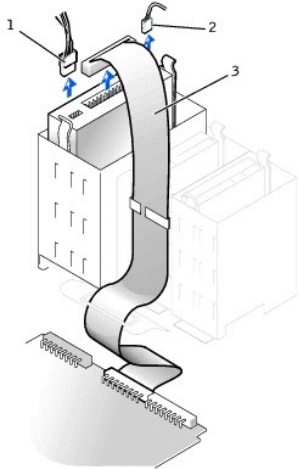
3. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
4. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
5. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

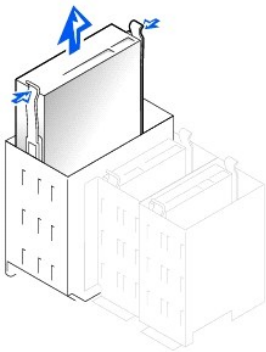
警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

6. コンピュータカバーを開きます。

CD/DVDドライブの取り外し

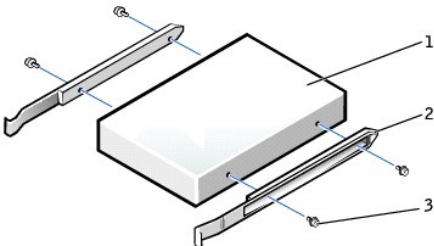
1. 電源ケーブル、オーディオケーブル、およびCD/DVDドライブケーブルをドライブの背面から取り外します。

1	電源ケーブル
2	オーディオケーブル
3	CD/DVDドライブケーブル

2. ドライブの両側にある2個のタブを内側へ押し込み、ドライブを上へスライドしてドライブベイから取り外します。

CD/DVDドライブの取り付け

1. 新しいドライブを取り付ける場合、ドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

   ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。IDEドライブを取り付ける場合、ドライブをケーブルセレクトに設定します。

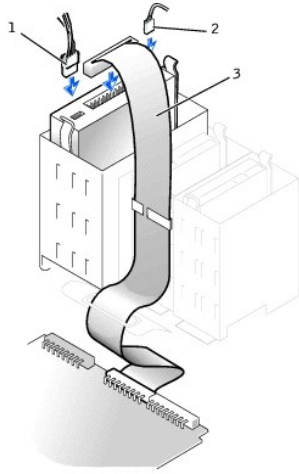
2. 新しいドライブをカバーの内側に取り付けてあるレールに接続します。レールがカバーの内側に取り付けられていない場合、Dellにお問い合わせください。

3. ブラケットレールが付いていない交換用ドライブや新しいドライブを取り付ける場合、各レールをドライブに固定している2本のネジを外して、レールを古いドライブから取り外します。ドライブのネジ穴とブラケットレールのネジ穴を合わせ、次に4本のネジ（各レールに2本）を差し込んでからすべて締めて、ブラケットを新しいドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ブラケットレール（2）
3	ネジ（4）

4. タブが所定の位置にカチッと確実に収まるまで、慎重にドライブを所定の位置にスライドします。

5. 専用のコントローラカードを持つドライブを取り付ける場合、コントローラカードはカードスロットに取り付けます。

   ドライブおよびコントローラカードに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がご使用のコンピュータシステムに合っているか確認します。正しい設定に必要な変更をおこないます。

6. 電源ケーブル、オーディオケーブル、およびCD/DVDドライブケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	オーディオケーブル
3	CD/DVDドライブケーブル

7. 新しいCD/DVDドライブを交換するのではなく取り付ける場合、ドライブベイカバーを取り外します。
8. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。
9. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

   ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

11. **Drives**: **Secondary**の該当する**Drive** オプション（**0** または **1**）を**Auto**に設定して、設定情報を更新します。詳細については、「セットアップオプション」の「Primary Drive n and Secondary Drive n」を参照してください。
12. Dell診断プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

コンピュータの部品の取り外しと取り付け

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

目次ページに戻る

目次ページに戻る

マイクロプロセッサ

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

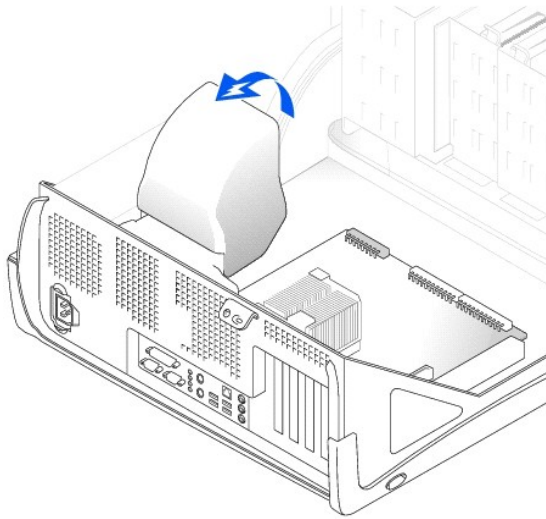
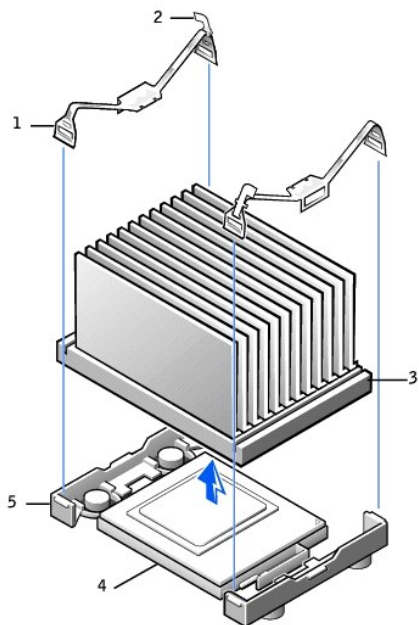
1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. **スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。
3. コンピュータと接続されているデバイスの電源が切れているか確認します。コンピュータをシャットダウンした際にコンピュータと接続されているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合、ここでそれらの電源を切ります。

注意： ネットワークケーブルを取り外すには、まずケーブルのプラグをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

4. 電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。
5. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、次に電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
6. 背面パネルのパドロックリングを通してパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。

警告：感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

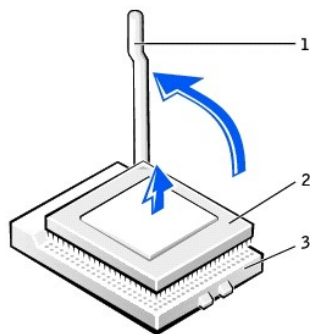
注意： コンピュータ背面の金属部など、塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を取り扱ってください。作業中も、定期的に塗装されていない金属部分に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

7. コンピュータカバーを開きます。
8. 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板のFANコネクタから取り外します。
9. 電源ケーブルをシステム基板上のPOWERコネクタから外します。
10. エアフローカバーを持ち上げます。

11. マイクロプロセッサヒートシンクを取り外します。
    a. ヒートシンクをマイクロプロセッサに固定しているそれぞれの金属製の固定クリップは、クリップのラッチを押し下げてヒートシンク保持基板から外れるようにします。それからクリップをヒートシンクから持ち上げて外します。
    b. ヒートシンクを持ち上げてマイクロプロセッサから取り外します。

1	固定クリップ（2）
2	ラッチ（2）
3	ヒートシンク
4	マイクロプロセッサソケット
5	保持基盤

注意： サーマルグリースが付いた面を上に向けてヒートシンクを置きます。

注意： Dellのマイクロプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。Dellのものでないマイクロプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいマイクロプロセッサを取り付ける際には、元のヒートシンクおよび送風装置を再利用してください。

12. マイクロプロセッサが外れるまで、リリースレバーをまっすぐ引き上げます。

注意： マイクロプロセッサをZIFソケットから取り外す際は、ピンを曲げないように気をつけてください。ピンが曲がると、マイクロプロセッサに修復できない損傷を与える恐れがあります。

1	リリースレバー
2	マイクロプロセッサ
3	ソケット

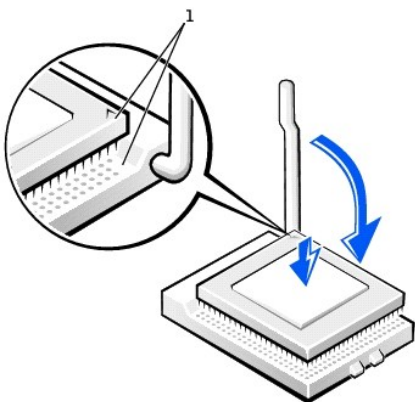
13. マイクロプロセッサをソケットから取り外します。

新しいマイクロプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

マイクロプロセッサの取り付け

注意： マイクロプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないために、マイクロプロセッサをソケットに正しく装着してください。

1. リリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

2. マイクロプロセッサの1番ピン（印のある角）とソケットの1番ピンを合わせます。

1	位置を合わせたマイクロプロセッサとソケットの1番ピンの角

注意： マイクロプロセッサのピンは壊れやすいものです。マイクロプロセッサへの損傷を避けるため、マイクロプロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

3. 慎重にマイクロプロセッサをソケットに置き、軽く押さえて装着します。
4. カチッと所定の位置に収まるまで、リリースレバーをシステム基板の方へ動かし、マイクロプロセッサを固定します。
5. ヒートシンク保持を基盤の上に置きます。
6. 固定クリップを取り付けるには、次の手順を実行します。
   a. 保持基盤のタブに、ラッチが被さっていないほうの固定クリップの端をはめ込みます。
   b. クリップの中央を、保持基盤の中央のタブにはめ込みます。
   c. クリップのラッチを押し下げて、タブにはめ込み、クリップを保持基盤に固定します。
7. エアフローカバーをヒートシンクアセンブリに被せます。

   Dellのマイクロプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとマイクロプロセッサを、交換キットが送られてきたパッケージを使用してDellに返却してください。

8. 冷却ファン電源ケーブルをシステム基板のFANコネクタに取り付けます。
9. 電源ケーブルをシステム基板の12VPOWERコネクタに取り付けます。
10. コンピュータカバーを閉じます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルのプラグを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

認可機関の情報

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

- VCCI 規定（情報処理装置等電波障害自主規制協議会規定）
- ENERGY STAR® への準拠

空間に放射されたり、電源コードやケーブルを経由して伝導されたりする、あらゆる電波や放射物を EMI（電磁干渉）といいます。この電波や放射物が、無線操縦や他の安全業務の機能を危険にさらしたり、機能低下を招いたり、妨害したり、または無線通信業務を繰り返し中断させたりすることがあります。無線通信サービスには、AM/FM の商業放送、テレビ、携帯電話の各種サービス、レーダー、航空交通管制、ポケットベル、PCS（Personal Communication Services）などがありますが、これらに限定されません。これらの認可サービスは、コンピュータシステムを含むデジタル装置などの意図的には電磁波を放射しない装置とともに、電磁環境に影響を与えます。

EMC（電磁的両立性）とは、多数の電子機器が同一の環境で共に正常に動作する能力のことです。本コンピュータシステムは、認可機関の EMI に関する制限に準拠する設計がなされており、適合していますが、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。この装置が無線通信サービスに対して干渉するかどうかは、その装置の電源をオン / オフすることによって判定できるので、以下の方法を 1 つ以上は実施して干渉の問題を解決してください。

- 受信アンテナの方向を変えてください。
- 受信機に対してコンピュータを再配置してください。
- 受信機からコンピュータを遠ざけてください。
- コンピュータを別の電源コンセントにつないで、コンピュータと受信機を別々の分岐回路上に置いてください。

さらに詳しいことは、デルのテクニカルサポート担当者またはラジオ / テレビの技術者にご相談ください。

デルのコンピュータシステムは、システムが置かれる電磁環境に合わせた設計、テスト、分類がなされています。一般に、電磁環境は、以下のように分類されます。

- クラス A — 主として商工業環境用
- クラス B — 主として住宅環境用

情報技術装置（ITE; Information Technology Equipment）は、周辺機器、拡張カード、プリンタ、入出力（I/O）装置、モニタなどを含み、システムに統合または接続されるもので、コンピュータシステムの電磁環境の分類に適合しなければなりません。

シールド付き信号ケーブルに関する注意：周辺機器を DELL 製の周辺機器に接続するにはシールド付きケーブルのみを使用して、無線通信サービスとの干渉の可能性を減らしてください。シールド付きケーブルの使用により、目的とする環境に適した EMC 分類基準を満たします。

大半の Dell コンピュータシステムは、クラス B 環境に分類されています。しかし、コンピュータシステムに特定のオプションを付加することにより、一部の構成はクラス A に類別されることもあります。お使いのシステムまたは周辺機器の電磁的類別を確認するには、次項を参照してください。次項には、EMC/EMI または製品の安全に関する情報が記載されています。

VCCI 規定（情報処理装置等電波障害自主規制協議会規定）

大半の Dell コンピュータシステムは、VCCI でクラス B 情報技術装置（ITE）として類別されています。しかし、コンピュータシステムに特定のオプションを付加することにより、一部の構成はクラス A 情報技術装置に類別されることもあります。情報技術装置は、周辺機器、拡張カード、プリンタ、入出力（I/O）装置、モニタなどを含み、システムに統合または接続されるもので、コンピュータシステムの電磁環境の類別（クラス A またはクラス B）に適合しなければなりません。

お使いのコンピュータシステムにどちらの類別が適用されているかを確認するには、コンピュータの底部や背面パネルに添付されている VCCI 表示ラベル（「VCCI クラス A 情報技術装置基準」および「VCCI クラス B 情報技術装置基準」のラベルを参照）を調べてください。VCCI の類別を確認できたら、以下の該当する部分をご覧ください。

クラス A 情報技術装置

VCCI クラス A 情報技術装置基準のマーク

VCCI 表示ラベルに次のマークが含まれる場合、お使いのコンピュータはクラス A 製品です。

クラス B 情報技術装置

VCCI クラス B 情報技術装置基準のマーク

VCCI 表示ラベルに次のマークが含まれる場合、お使いのコンピュータはクラス B 製品です。

ENERGY STAR® への準拠

特定の構成の Dell コンピュータは、省エネコンピュータを目指した EPA (米国環境保護局)が規定する要件を満たしています。お使いのコンピュータの正面パネルに ENERGY STAR® エンブレムが付いている場合、このコンピュータの出荷時の構成はこの規格に準拠しており、コンピュータの ENERGY STAR® 電力管理機能のすべてが使用できます。

メモ: ENERGY STAR® エンブレムの付いた Dell コンピュータは、デルからの出荷時に EPA ENERGY STAR® の要件に従って構成されていることが証明されています。この構成になんらかの変更（拡張カードまたはドライブの増設など）をおこなうと、コンピュータの消費電力は EPA の ENERGY STAR® Computers プログラムで設定されている限界を超える恐れがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の
基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で
使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には
使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

ENERGY STAR® エンブレム

EPA の ENERGY STAR® コンピュータプログラムは、省エネコンピュータ製品を促進することによって大気汚染を減らすために、EPA とコンピュータメーカーが共同で作成したものです。EPA では、ENERGY STAR® コンピュータ製品を使用することによって、コンピュータユーザーの年間電気料が最高で 20 億ドル節約されると予測しています。この電気使用量の節減によって、温室効果の一番の原因となる二酸化炭素の発生、および酸性雨の主要な原因である二酸化硫黄と窒素酸化物の発生を減少させることができます。

また、夜間および週末などコンピュータを長時間使用しないときに電源を切ることによって、電気使用量とそれによる悪影響を減少させることができます。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

問題の解決

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

バッテリの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：新しいバッテリは、正しく装着しないと破裂する恐れがあります。バッテリを交換する場合、同じバッテリ、または製造元が推奨する同等のバッテリのみを使用してください。使用済みのバッテリは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

バッテリを交換します — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合、バッテリを交換します。それでもバッテリが正常に機能しない場合、Dellにお問い合わせください。

カードの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

カードの装着状態およびケーブルを確認します —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。
2. 各カードがコネクタにしっかりと装着されていることを確認します。しっかり装着されていないカードを装着しなおします。
3. カードのコネクタに対応するすべてのケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。ゆるんでいるケーブルは接続しなおします。

   カード上の特定のコネクタにどのケーブルを接続するかについては、カードのマニュアルを参照してください。

4. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。

ビデオカードをテストします —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。
2. ビデオカードを除くすべてのカードを取り外します。

   プライマリハードドライブがドライブコントローラカードに接続されていて、システム基板のIDEコネクタのいずれかに接続されていない場合、コンピュータに取り付けられたドライブコントローラカードはそのままにしておきます。

3. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。
4. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかのテストに失敗する場合、Dellにお問い合わせください。

カードをテストします —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。
2. 前の手順で取り外したカードの1つを取り付けなおします。
3. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。
4. Dell診断プログラムを実行します。

   診断プログラムテストのいずれかに失敗した場合、装着しなおしたカードが不良なので、交換する必要があります。

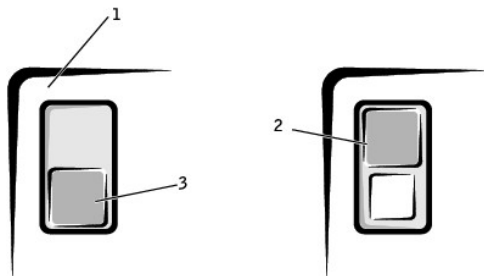
5. すべてのカードの再取り付けが終わるまで、この手順を繰り返します。

   すべてのカードを取り付けなおしても、カードの問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。

ドライブの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

フロッピードライブの問題

Windows®がドライブを認識しているか確認します — **スタート**ボタンをクリックして、**マイコンピュータ**をクリックします。フロッピードライブが表示されていない場合、アンチウイルスソフトでウイルスチェックをおこない、ウイルスのチェックと除去をおこないます。ウイルスが原因でWindowsがドライブを認識できないことがあります。
ドライブをテストします — ・別のディスクを挿入して、元のフロッピーディスクに障害がある可能性を排除します。 ・起動フロッピーディスクを挿入し、コンピュータを再起動します。
ディスクの空き容量が十分か、書き込み禁止になっていないか確認します —ディスクに空き容量があり、書き込み禁止（ロック）になっていないか確認します。次の図を参照してください。

1	フロッピーディスクの裏側
2	書き込み不可
3	書き込み可

フロッピードライブライトをテストします — MS-DOS® フロッピーディスクを挿入し、DOSプロンプトに `dir a:` と入力してから<Enter>を押します。 Microsoft Windows オペレーティングシステム フロッピーディスクを挿入し、**スタート**ボタンをクリックし、**マイコンピュータ**をクリックしてから、フロッピードライブのアイコンをダブルクリックします。
Dell診断プログラムを実行します — いずれかのテストに失敗する場合、Dellにお問い合わせください。

注意： 綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。誤ってヘッドがずれてしまい、ドライブが操作できなくなる場合があります。

ドライブをクリーニングします — 市販のクリーニングキットを使用します。

警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

フロッピードライブを取り外して再度取り付けます — この手順の詳細については、「フロッピードライブの取り外し」を参照してください。 ドライブのエラーメッセージが表示される場合、詳細は「エラーメッセージ」を参照してください。

CDドライブの問題

メモ： 高速CDドライブの振動は標準的なもので、ノイズを引き起こすこともあります。このノイズはドライブやCDの異常ではありません。

Windowsの音量を調整します — 画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックします。 ・スライドバーをクリックし上にドラッグして、音量が上がることを確認します。 ・チェックマークが付いたボックスをクリックしても、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。
他のCDが再生できるか確認します — CDに問題のないことを確認するため、別のCDを挿入します。
スピーカーおよびサブウーハーを確認します — 「サウンドとスピーカーの問題」を参照してください。
Windowsがドライブを認識しているか確認します — **スタート**ボタンをクリックして、**マイコンピュータ**をクリックします。CDドライブが一覧に表示されない場合、アンチウイルスソフトでウイルスチェックをおこない、ウイルスを除去します。ウイルスが原因でWindowsがドライブを認識できないことがあります。
ディスクをクリーニングします — 市販のクリーニングキットを使用してください。

CD-RWに書き込みができない場合

他のプログラムを閉じます — CD-RWドライブはデータを書き込むとき、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD-RWに書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。

DVDドライブの問題

 メモ： 国によってファイル形式が異なるため、お使いのDVDドライブでは再生できないDVDもあります。

他のDVDが再生できるか確認します — DVDに問題のないことを確認するため、別のDVDを挿入します。
Windowsがドライブを認識しているか確認します — スタートボタンをクリックして、**マイコンピュータ**をクリックします。DVDドライブが一覧に表示されない場合、アンチウイルスソフトでウイルスチェックをおこない、ウイルスを除去します。ウイルスが原因でWindowsがドライブを認識できないことがあります。
ディスクをクリーニングします — 市販のクリーニングキットを使用してください。
割り込み要求のコンフリクトがないか確認します —「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

ハードドライブの問題

ハードドライブをテストします —

Windows XP — chkdskユーティリティを実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**終了オプション**を選んで、**再起動**をクリックします。
2. C: promptで`CD\Windows\Command`と入力して、<Enter>を押します。
3. `chkdsk`と入力して、<Enter>を押します。

   ユーティリティは、ステータスレポートを作成および表示し、ディスク上のエラーを一覧表示および訂正します。

Windows 2000 — ScanDiskユーティリティを実行します。

スタートボタンをクリックし、**ファイル名を指定して実行**をポイントしてから、**OK**をクリックします。

MS-DOS

MS-DOSプロンプトで`scandisk`*x*:（*x* はハードドライブ文字）と入力して、<Enter>を押します。

Dell診断プログラムを実行します — テストがドライブまたはドライブコントローラに障害があることを示す場合、Dellにお問い合わせください。

ケーブルの接続を確認します —

1. 電源装置のDC電源ケーブルが、各ドライブのコネクタにしっかり接続されているか確認します。
2. 各ドライブのインタフェースケーブルが、ドライブおよびシステム基板にしっかり接続されているか確認します。
3. コントロールパネルケーブルがシステム基板にしっかり接続されているか確認します。

起動ルーチン中にハードドライブ動作ライトが点滅しない場合、Dellにお問い合わせください。

ドライブのエラーメッセージが表示される場合、詳細については、「エラーメッセージ」を参照してください。

オペレーティングシステムを含んだプライマリハードドライブが起動しない場合、オペレーティングシステム内のファイルが壊れている可能性があります。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

落としたり損傷を与えたコンピュータ

 警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

カードおよびケーブルの接続を確認します —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。
2. コンピュータ内部のすべてのカードの接続を確認し、ゆるんだカードを取り付けなおします。
3. すべてのケーブルが正しく接続されていること、およびすべてのコンポーネントが所定のコネクタやソケットに正しく装着されていることを確認します。
4. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。
5. Dell診断プログラムを実行します。

   いずれかの診断テストに失敗した場合、Dellにお問い合わせください。

電子メール、モデム、およびインターネットの問題

電話線の接続を確認します — 電話線がモデムのコネクタに接続されているか確認します。（コネクタは緑色のラベルかコネクタの絵柄の横にあります。）電話線のコネクタをモデムに接続する際に、カチッと収まったことを確認します。
電話ジャックを確認します — モデムから電話線を取り外し、電話に接続します。電話の発信音を確認します。
モデムを壁の電話ジャックへ直接接続します —留守番電話、ファックス、サージプロテクタ、または電話線分岐タップなどが同じ回線に接続されている場合、それらを介さずにモデムを壁の電話ジャックに直接接続します。
他の電話線を使用してみます — 3メートル以上の電話線を使用している場合、短い電話線を試してみます。
Modem Helper診断プログラムを実行します — スタートボタンをクリックし、**すべてのプログラム**をポイントしてから、**Modem Helper**をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別し、その問題を解決します。（Modem Helperは、すべてのコンピュータで利用できるわけではありません。）

モデムがWindows®と通信しているか確認します —

1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **プリンタとその他のハードウェア**をクリックします。
3. **電話とモデムのオプション**をクリックします。
4. **モデム**タブをクリックします。
5. モデムのCOMポートをクリックします。

6. モデムがWindowsと通信しているか確認するため、**プロパティ**をクリックし、**診断**タブをクリックして、**モデムの照会**をクリックします。

すべてのコマンドと応答が表示されていればモデムに問題はありません。

キャッチホン機能の設定を解除します — キャッチホン機能を解除する番号にチェックマークが付いているか確認します。次に、一覧でコードをクリックするか、または電話会社から提供されたシーケンスを入力します。

1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロールパネル**をクリックします。
2. **プリンタとその他のハードウェア**をクリックして、**電話とモデムのオプション**をクリックします。
3. 表示されたリストで、接続タイプをクリックしてハイライト表示にします。
4. **ダイヤル情報**タブをクリックして、**編集**をクリックします。
5. **キャッチホン機能を解除するための番号**ボックスをクリックして、チェックマークを付けます。
6. ドロップダウンメニューで無効にするコードを選びます（たとえば、*70）。
7. **適用**をクリックして、**OK**をクリックします。

インターネットへの接続を確認します — 電子メールプログラムのOutlook Expressを開き、**ファイル**をクリックします。**オフライン作業**の横にチェックマークが付いている場合、チェックマークをクリックしてマークを外してから、インターネットに接続します。

インターネット接続サービス業者（ISP）との契約が済んでいることを確認します — 契約に付いては、インターネット接続サービス業者（ISP）にお問い合わせください。

インターネット接続サービス業者（ISP）に問い合わせます — 契約しているインターネット接続サービス業者（ISP）にサポートについてお問い合わせください。

エラーメッセージ

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

A filename cannot contain any of the following characters: ¥ / : * ? " < > | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

A required .DLL file was not found — アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。次の操作をおこない、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。

1. **スタート**ボタンをクリックします。
2. **コントロールパネル**をクリックします。
3. **プログラムの追加と削除**をクリックします。
4. 削除したいプログラムを選びます。
5. **削除**または**変更と削除**ボタンをクリックします。
6. インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。

Alert! CPU Fan Not Detected — マイクロプロセッサ冷却ファンが取り付けられていないか、故障しています。または、システム基板に正しく接続されていません。冷却ファンが適切に取り付けられ動作しているか確認します。また、マイクロプロセッサのエアフローカバーが正しく取り付けられているか確認します。「マイクロプロセッサ」を参照してください。

Alert! Previous attempts at booting this system have failed at checkpoint [*nnnn*]. For help in resolving this problem, please note this checkpoint and contact Dell Technical Support — 同じエラーによって、コンピュータは3回連続して起動ルーチンを終了できませんでした。Dellに連絡してテクニカルサポート担当者にチェックポイントコード(*nnnn*)を伝えてください。

Alert! Previous Fan Failures — 前回コンピュータを使用したときに、ファンにエラーが発生しました。換気口がふさがれていないか、またはすべてのファンが正しく取り付けられ動作しているか確認します。

Alert! Previous Processor Thermal Failure — 前回コンピュータを使用したときに、マイクロプロセッサがオーバーヒートしました。換気口がふさがれていないか、またはすべてのファンが正しく取り付けられ動作しているか確認します。また、マイクロプロセッサのヒートシンクが正しく取り付けられているか確認します。

Alert! Previous Reboot Was Due to Voltage Regulator Failure — 前回コンピュータを使用したときに、VRMが故障しました。Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

Alert! Previous Shutdown Due to Thermal Event — 前回コンピュータを使用したときに、マイクロプロセッサまたはハードドライブがオーバーヒートしました。通気孔がふさがれていないか、またはすべてのファンが正常に動作しているか確認します。また、マイクロプロセッサのヒートシンクが正しく取り付けられているか確認します。

Alert! Previous Voltage Failure — コンピュータによって使用される電圧が限界値を越えたか、または必要な最低電圧以下になりました。「電源の問題」または「システム基板の問題」を参照してください。

Alert! System Battery Voltage is Low — コンピュータバッテリからの電圧が適切ではありません。「バッテリ」を参照してください。

Alert! Unable to Initialize all Installed Memory — 1つまたは複数のメモリモジュールが正しく取り付けられていないか不良の可能性があります。「メモリの問題」を参照してください。

Alert! Uncorrectable Memory Error Previously Detected... Address *xxxxxxxx*h, Device RIMM_Y — 1つまたは複数のメモリモジュールが正しく取り付けられていないか、不良の可能性があります。またシステム基板が不良の可能性があります。「メモリの問題」または「システム基板の問題」を参照してください。

Attachment failed to respond — フロッピードライブコントローラまたはハードドライブコントローラは、関連するドライブにデータを送れません。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Bad command or file name — コマンドのスペルが正しいか、スペースを適切な位置に置いたか、正しいパス名を使用したか確認します。

Bad error-correction code (ECC) on disk read — フロッピードライブコントローラまたはハードドライブコントローラが、修正不能な読み取りエラーを検出しました。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Controller has failed — ハードドライブまたはそれに関連するコントローラが不良です。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Data error — フロッピードライブまたはハードドライブがデータを読み取れません。

- Microsoft® Windows®オペレーティングシステムの場合、chkdskユーティリティを実行して、フロッピードライブまたはハードドライブのファイル構造を調べます。
- 別のオペレーティングシステムの場合、該当するユーティリティを実行します。

これらのユーティリティを実行するには、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

Decreasing available memory — 1つまたは複数のメモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り付けなおし、必要に応じて、メモリモジュールを交換します。
- 追加のトラブルシューティングについては、「メモリの問題」を参照してください。

Diskette drive 0 seek failure — ケーブルがゆるんでいるか、コンピュータ設定情報がハードウェア構成と一致していない可能性があります。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」を参照してください。

Diskette read failure — フロッピーディスクが不良か、ケーブルがゆるんでいる可能性があります。

- ドライブライトが点灯する場合、別のディスクを試してみます。
- トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」を参照してください。

Diskette subsystem reset failed — フロッピードライブコントローラが不良の可能性があります。Dell診断プログラムを実行します。

Diskette write protected — フロッピーディスクが書き込み保護になっています。書き込み保護ノッチをオープン位置にスライドします。

Drive not ready — フロッピーディスクがドライブ内にありません。フロッピーディスクをドライブに挿入します。

Gate A20 failure — 1つまたは複数のメモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り付けなおし、必要に応じて、メモリモジュールを交換します。
- 追加のトラブルシューティングについては、「メモリの問題」を参照してください。

General failure — オペレーティングシステムがコマンドを実行できません。通常、このメッセージの後ろには具体的な情報が付きます(たとえば、`Printer out of paper` [プリンタの用紙がありません])。適切な処置をおこなって、問題を解決します。

Hard-disk configuration error —

Hard-disk controller failure —

Hard-disk drive failure —

ハードドライブが初期化をおこなえませんでした。

- Dell診断プログラムを実行します。
- トラブルシューティングについては、「ハードドライブの問題」を参照してください。

Insert bootable media — オペレーティングシステムが起動できないフロッピーディスクまたはCDから起動しようとしています。起動フロッピーディスクまたはCDを挿入します。

Invalid configuration information - please run SETUP program — コンピュータ設定情報がハードウェア構成に合っていません。セットアップユーティリティを起動し、コンピュータ設定情報を修正します。

Keyboard Controller Failure —

KeyBoard Stuck Key Failure —

Keyboard failure —

ケーブルまたはコネクタにゆるみがあるか、キーボードまたはキーボード／マウスコントローラが不良の可能性があります。「キーボードの問題」を参照してください。

Memory address line failure at *address*, read *value* expecting *value* — メモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおし、必要に応じて、メモリモジュールを交換します。追加のトラブルシューティングについては、「メモリの問題」を参照してください。

Memory allocation error — 実行しようとするソフトウェアが、オペレーションシステム、その他のプログラム、またはユーティリティとコンフリクトしています。

1. コンピュータの電源を切り、30秒待ってから再起動します。
2. 再度プログラムを実行してみます。
3. 再度エラーメッセージが表示される場合、追加のトラブルシューティング情報については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

Memory data line failure at *address*, read *value* expecting *value* —

Memory double word logic failure at *address*, read *value* expecting *value* —

Memory odd/even logic failure at *address*, read *value* expecting *value* —

Memory write/read failure at *address*, read *value* expecting *value* —

メモリモジュールが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。メモリモジュールを取り付けなおし、必要に応じて、メモリモジュールを交換します。追加のトラブルシューティングについては、「メモリの問題」を参照してください。

Memory size in CMOS invalid — コンピュータ設定情報に記録されているメモリ量がコンピュータに実際取り付けられているメモリと一致していません。コンピュータを再起動します。エラーメッセエージが再度表示される場合、Dellにお問い合わせください。追加のトラブルシューティングについては、「メモリの問題」を参照してください。

No boot device available — コンピュータがフロッピーディスクまたはハードドライブを検出できません。

- フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動フロッピーディスクがドライブに挿入されているか確認します。
- ハードドライブが起動デバイスの場合、ドライブが適切に装着されており、起動デバイスとして区分(パーティション)されていることを確認します。
- セットアップユーティリティを起動し、起動順序の情報が正しいことを確認します。

No boot sector on hard-disk drive —

- セットアップユーティリティのコンピュータ設定情報が間違っている可能性があります。セットアップユーティリティを起動し、ハードドライブのコンピュータ設定情報が正しいことを確認します。
- セットアップユーティリティの情報が正しいことを確認したあともメッセージが表示される場合、オペレーティングシステムが壊れている可能性があります。オペレーティングシステムを再インストールします。再インストールの情報は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

No timer tick interrupt — システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。Dell診断プログラムを実行します。

Non-system disk or disk error — ドライブAのフロッピーディスクまたはハードドライブに起動オペレーティングシステムがインストールされていません。起動オペレーティングシステムの入ったフロッピーディスクと交換するか、ドライブAからそのフロッピーディスクを取り出してコンピュータを再起動します。

Not a boot diskette — 起動オペレーティングシステムがインストールされていないフロッピーディスクから起動しようとしています。起動フロッピーディスクを挿入してください。

Not enough memory or resources. Close some programs and try again — あまりに多くのプログラムを開いています。すべてのウィンドウを閉じ、使用したいプログラムを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、使用したいプログラムを最初に実行してみます。

Operating system not found — Dellにお問い合わせください。

Please Connect USB Keyboard/Mouse to USB Ports on the Back of the Computer — USBキーボードとマウスの両方またはどちらかを、コンピュータ背面のUSB

コネクタに接続する必要があります。コンピュータの電源を切り、USBキーボードとマウスの両方またはどちらかをコンピュータ背面のUSBコネクタに接続し、コンピュータを再起動します。

Plug and Play Configuration Error — 1枚または複数のカードを設定中に問題が発生しました。

1. コンピュータの電源を切り、コンセントから取り外します。次に、カードを1枚だけ残してすべて取り外します。
2. コンピュータのプラグを差し込み、再起動します。
3. メッセージが表示される場合、取り付けられているカードが誤動作している可能性があります。メッセージが再度表示されない場合、コンピュータの電源を切り、別のカードを1枚挿入します。
4. 誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返します。

Read fault — オペレーティングシステムがフロッピーまたはハードドライブからデータを読み取れません。ディスク上の特定のセクタが見つからなかったか、要求されたセクタが不良です。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Requested sector not found — オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブからデータを読み取れません。ディスク上の特定のセクタが見つからなかったか、要求されたセクタが不良です。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Reset failed — ディスクのリセットに失敗しました。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Sector not found — オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブ上のセクタを検出できません。

- Windowsのエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windowsのヘルプを参照してください。
- 多くのセクタに障害がある場合、可能であればデータをバックアップし、フロッピードディスクまたはハードドライブを再フォーマットします。

Seek error — オペレーティングシステムがフロッピーディスクまたはハードドライブ上の特定のトラックを検出できません。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Shutdown failure — システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。Dell診断プログラムを実行します。

The file being copied is too large for the destination drive — コピーしようとしているファイルは、ディスクに保存するには大きすぎます。ファイルを空のディスクにコピーするか、容量の大きなディスクを使用します。

Time-of-day clock stopped — バッテリが機能していない可能性があります。セットアップユーティリティを起動し、日時を訂正します。問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。トラブルシューティングの詳細については、「バッテリの問題」を参照してください。

Time-of-day not set — セットアップユーティリティに保持されている時間または日付がコンピュータクロックと一致していません。セットアップユーティリティを起動し、**Date**および**Time**オプションを修正します。

Timer chip counter 2 failed — システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。Dell診断プログラムを実行します。

Unexpected interrupt in protected mode — キーボードコントローラが誤動作しているか、メモリモジュールがゆるんでいる可能性があります。Dell診断プログラムを実行します。

WARNING: Dell's Disk Monitoring System has detected that drive [0/1] on the [primary/secondary] EIDE controller is operating outside of normal specifications. It is advisable to immediately back up your data and replace your hard drive by calling your support desk or Dell — 初期起動中に、ドライブがエラー発生の可能性を検出しました。

- コンピュータが起動を終了したら、ただちにデータのバックアップをとり、ハードドライブを交換します。
- すぐに利用できる交換用のドライブがなく、そのドライブが唯一の起動ドライブではない場合、セットアップユーティリティを起動し、該当するドライブの設定を**None**に変更します。次にドライブをコンピュータから取り外します。

Write fault — オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブにデータを書き込めません。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

Write fault on selected drive — オペレーティングシステムがフロッピードライブまたはハードドライブにデータを書き込めません。トラブルシューティングについては、「フロッピードライブの問題」または「ハードドライブの問題」を参照してください。

***x*:¥ is not accessible. The device is not ready —** フロッピードライブがディスクからデータを読み取れません。フロッピーディスクをドライブに挿入し、再度試してみます。

一般的な問題

コンピュータの反応が停止した場合

コンピュータの電源を切ります — コンピュータがロックして、キーボードのキーを押してもマウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを8～10秒以上押し続けます。次に、電源ボタンを再度押して、コンピュータの電源を入れます。オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを消失する恐れがあります。

プログラムが応答しなくなった場合

プログラムを終了します —

Windows® XP、Windows 2000

1. <Ctrl><Shift><Esc>を同時に押します。
2. **アプリケーション**をクリックします。
3. 応答しなくなったプログラムをクリックします。
4. **タスクの終了**をクリックします。

プログラムが繰り返し壊れる場合

メモ： ソフトウェアには、通常マニュアルの中やフロッピーディスクまたはCDにインストール手順が収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 多くのソフトウェア製造元は、問題を解決するための情報をウェブサイトに載せています。プログラムが、適切にインストールされ、正しく設定されているか確認します。必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

以前のWindowsオペレーティングシステム用に設計されているプログラムの場合

Windows XPをお使いの場合、プログラム互換性ウィザードを実行します —

Windows XPには、Windows XPオペレーティングシステムとは異なるオペレーティングシステムに近い環境で、プログラムが動作するよう設定できるプログラム互換性ウィザードがあります。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ**とポイントしてから、**プログラム互換性ウィザード** をクリックします。
2. ようこそ画面で、**次へ**をクリックします。
3. 画面の指示に従います。

面の表示が青一色になった場合

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押してもコンピュータが応答しない場合や正常なシャットダウンができない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを8～10秒以上押し続けます。電源ボタンを再度押して、コンピュータを再起動します。chkdskプログラムは、起動プロセス中に自動的に実行されます。画面の指示に従います。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティング情報について、ソフトウェアのマニュアルを確認するかソフトウェア製造元に問い合わせます

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します — コンピュータにCD-RWドライブまたはzipドライブが搭載されている場合、バックアップ作成の手順については、ドライブのマニュアルを参照してください。

データを入力する際にエラーが起きなかったか確認します — プログラムに付属のマニュアルを参照して、入力する値または文字が有効であるか確認します。

ウイルスをチェックします — ウイルス検出ソフトを使ってフロッピーディスクやCDをチェックします。

コンピュータを再起動します — 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、開いているすべてのプログラムを終了します。次に電源ボタンを押さずに、**スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします。そうしないと、データを消失する恐れがあります。

互換性を確認します —

- プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応していること、およびコンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小要件を満たしていることを確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します — 詳細については、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

Dell診断プログラムを実行します —すべてのテストが正常に終了したら、不具合はソフトウェアの問題に関係しています。

デバイスドライバのコンフリクトを確認します —

- プログラムのデバイスドライバが、プログラムとコンフリクトしていないか確認します。
- ソフトウェア製造元のテクニカルサポートへお問い合わせください。

その他の技術的な問題

Dellサポートウェブサイトへアクセスします —

一般的な使用方法、インストール、およびトラブルシューティングに関するご質問については**support.jp.dell.com**にアクセスします。サポートウェブサイトでは、お客様の役に立つ様々なツールを用意しています。ウェブサイトの詳細については、「お使いのコンピュータに関する情報の検索」を参照してください。

Dellへ電話で問い合わせます — Dellサポートウェブサイトまたは Eメールサポートで問題が解決しない場合、Dellに連絡してテクニカルサポートを受けてください。

ハードウェアの一般的な問題

コンピュータが次の症状の1つまたは複数を示している場合、デバイスのコンフリクトが発生している可能性があります。

- 特定のデバイスを使用している場合、特にコンピュータがハングまたはロックします。
- 最近追加したデバイスが動作しません。
- パリティが有効なコンピュータでメモリパリティエラーが発生します。
- サウンドカードがノイズを発したり、その他の問題を示しています。
- プリンタから意味不明な文字が印刷されます。
- マウスポインタが動かない、または「小刻みに」動きます。
- システムが最大の性能で動作していないことを示すメッセージが表示されます。
- 明確な理由がないのに、エラーが起こったり、プログラムがクラッシュします。
- モニタに何も表示されません。

最近増設したハードウェアを取り外してコンフリクトが解決するか確認します — ハードウェアを取り外すとコンフリクトが解決する場合、設定とトラブルシューティングの手順については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。それでも問題が解決しない場合、ハードウェアの製造元にお問い合わせになり、テクニカルサポートを受けてください。

トラブルシューティングの詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを確認してください

割り込み要求のコンフリクトがないか確認します — 「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

IEEE 1394デバイスの問題

 メモ: Windowsエクスプローラを調べて、デバイスがドライブとして表示されているか確認します。

IEEE 1394デバイスを確認します — IEEE 1394デバイスが適切にコネクタに挿入されているか確認します。
IEEE 1394デバイスがWindows®によって認識されているか確認します — 1. **スタート**ボタンをクリックします。 2. **コントロールパネル**をクリックします。 3. **プリンタとその他のハードウェア**をクリックします。 IEEE 1394デバイスが一覧に表示されている場合、Windowsはデバイスを認識しています。
Dellから購入したIEEE 1394デバイスに問題がある場合 — Dellにお問い合わせください。
Dell以外から購入したIEEE 1394デバイスに問題がある場合 — IEEE 1394デバイスの製造元にお問い合わせください。

キーボードの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

コンピュータを再起動します — l マウスが機能している場合、**スタート**メニューからコンピュータをシャットダウンします コンピュータがシャットダウンしたら、電源ボタンを押してコンピュータを再起動します。 l キーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが反応しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、8～10秒以上電源ボタンを押します。電源ボタンを再度押して、コンピュータを再起動します。
キーボードケーブルを確認します — l キーボードケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。 l キーボードケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。 l ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。 l キーボード延長ケーブルを取り外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。
キーボードをテストします — 正常に機能している他のキーボードをコンピュータに接続し、使用してみます。新しいキーボードが機能する場合、元のキーボードが故障しています。
キーボードのスイッチ設定を確認します — スイッチ設定は、キーボードの裏面またはパネルの裏側にあります。スイッチが**PS/2**、**Enhanced XT/AT**、または**PC/AT**に設定されているか確認します。推奨されている設定については、キーボードのマニュアルを参照してください。
Dell診断プログラム実行します — いずれかの診断テストに失敗した場合、Dellにお問い合わせください。
割り込み要求のコンフリクトがないか確認します — 「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

メモリの問題

 警告: この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 — l 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、使用していない開いているすべてのプログラムを終了して、問題が解決するか調べます。 l プログラムを実行するのに十分なメモリがコンピュータに搭載されているか確認します。メモリの最小要件について、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要な場合、増設メモリを取り付けます（「メモリ」を参照）。 l メモリモジュールを装着しなおし（「メモリ」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。 l コンピュータを再起動します。 l Dell診断プログラムを実行します。いずれかの診断テストに失敗した場合、Dellにお問い合わせください。
その他の問題が発生する場合 — l メモリモジュールを装着しなおし（「メモリ」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。 l コンピュータを再起動します。 l Dell診断プログラムを実行します。いずれかの診断テストに失敗した場合、Dellにお問い合わせください。

マウスの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

コンピュータを再起動します — 1. <Ctrl><Esc>を同時に押して、**スタート**メニューを表示します。 2. uと入力してからキーボードの矢印キーを押して、**シャットダウン**または**電源を切る**を選択し、<Enter>キーを押します。 3. コンピュータの電源が切れた後、電源ボタンを押してコンピュータを再起動します。
マウスケーブルを確認します —

- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。 - ケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。
マウスをテストします — 正常に機能している他のマウスをコンピュータに接続し、使用してみます。新しいマウスが機能する場合、元のマウスが故障しています。
マウスの設定を確認します — Windows® XP 1. **スタート**ボタンをクリックし、**コントロールパネル**をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア**をクリックします。 2. **マウス**をクリックします。 3. 設定を調整します。 Windows 2000 1. **スタート**ボタンをクリックし、**設定**をポイントして、**コントロールパネル**をクリックします。 2. **マウス**アイコンをダブルクリックします。 3. 設定を調整します。 PS/2マウスを使用している場合 1. セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**オプションの**Mouse Port**が**On**に設定されているか確認します。 2. セットアップユーティリティを終了し、コンピュータを再起動します。
マウスドライバを再インストールします — 「ドライバ」を参照してください。
Dell診断プログラムを実行します — いずれかの診断テストに失敗した場合、Dellにお問い合わせください。
割り込み要求のコンフリクトがないか確認します — 「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

ネットワークの問題

ネットワークケーブル接続を確認します — ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかり挿入されているか確認します。
コンピュータ背面のネットワークインジケータを確認します — インジケータが点灯しない場合、ネットワークと通信していないことを示しています。ネットワークケーブルを交換してみます。

1	ライト
2	ライト

コンピュータを再起動して、ネットワークにログインしなおしてみます
ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者またはネットワーク構築者に連絡して、ネットワークの設定が正しいか、またネットワークが正常に機能しているか確認します。
割り込み要求のコンフリクトがないか確認します — 「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

電源の問題

 警告：この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

電源のプロパティを調整します — コンピュータは、スタンバイモードか休止状態モードに入っている可能性があります。省電力モードの情報については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
電源ライトが緑色で、コンピュータが応答しない場合 — 「診断ライト」を参照してください。
電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータは、スタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かして通常の動作に戻します。
電源ライトが点灯していない場合 — コンピュータは、電源が切れているか電力が供給されていません。 - 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。 - コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。 - 電気スタンドなどの別のデバイスを使って、コンセントが機能しているか確認します。 - 電源保護装置、電源タップ、延長電源ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してからコンピュータに電源が入るか確認します。 - メイン電源ケーブルがシステム基板にしっかり接続されているか確認します。 - 正面パネルケーブルがシステム基板にしっかり接続されているか確認します。 - 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
電源ライトが橙色と緑色の場合 — コンピュータに電力は供給されているが、内部電力に問題がある可能性があります。 - 電圧選択スイッチの設定が、ご使用の地域のAC電源に一致しているか確認します。 - マイクロプロセッサの電源ケーブルが、システム基板にしっかり接続されているか確認します。 - 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。

電源ライトが橙色に点灯している場合 — コンピュータに電力は供給されているが、内部電力に問題がある可能性があります。 - マイクロプロセッサの電源ケーブルが、システム基板にしっかり接続されているか確認します。 - 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
電源ライトが橙色に点滅している場合 — デバイスが誤動作しているか、正しく取り付けられていない可能性があります。 - メモリモジュールを取り外してから取り付けます。 - すべてのカードを取り外してから取り付けます。 - ビデオカードがある場合、ビデオカードを取り外してから取り付けます。 - 問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。
干渉を解消します — 同じ回路に接続されている、あるいはコンピュータの近くで動作している電気機器が干渉を起こすことがあります。干渉のその他の原因には、次のものがあります - 電源延長ケーブル - キーボードおよびマウス延長ケーブル - 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている - 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

メモ: Dellでは、プリンタの保証はおこなっていません。プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。正しい電話番号については、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタのマニュアルを確認します — セットアップおよびトラブルシューティングの情報については、プリンタのマニュアルを参照してください。
プリンタの電源が入っているか確認します — 電源ボタンの情報については、プリンタのマニュアルを参照してください。
ケーブルの接続を確認します — - ケーブル接続の情報については、プリンタのマニュアルを参照してください。 - プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかり接続されているか確認します。
コンセントをテストします — 電気スタンドなどの別のデバイスを使って、コンセントが機能しているか確認します。
プリンタがWindows®によって認識されているか確認します — Windows XP 1. **スタート**ボタンをクリックします。 2. **コントロールパネル**をクリックします。 3. **プリンタとその他のハードウェア**をクリックします。 4. **インストールされているプリンタまたはFaxプリンタを表示する**をクリックします。 プリンタが一覧表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。 5. **プロパティ**をクリックし、**ポート**タブを選びます。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート**が **LPT1 :プリンタポート**に設定されているか確認します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート**が**USB**に設定されていることを確認します。 Windows 2000 1. **スタート**ボタンをクリックし、**設定**をポイントして、**プリンタ**をクリックします。 プリンタが一覧表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。 2. **プロパティ**をクリックして、**ポート**タブを選びます。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート**が **LPT1: (プリンタポート)** に、設定されているか確認します。USBプリンタの場合、**印刷先のポート**が**USB**に設定されているか確認します。
プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

メモ: プリンタに問題がある場合、「プリンタの問題」を参照してください。

デバイスのマニュアルを確認します — トラブルシューティングの手順については、デバイスのマニュアルを参照してください。
デバイスの電源が入っているか確認します — デバイスの電源ボタンをしっかり押します。
デバイスケーブルの接続を確認します — コネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。(ほとんどデバイスのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。) デバイスケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。
デバイスケーブルをテストします — デバイスのケーブルを正常に機能しているケーブルと交換します。
コンセントをテストします — 電気スタンドなどの別のデバイスを使って、コンセントが機能しているか確認します。
干渉を解消します — 同じ回路に接続されている、あるいはコンピュータの近くで動作している干渉の原因と考えられる電気機器を探します。干渉のその他の原因を取り除きます。 - 電源延長ケーブル

- キーボードおよびマウス延長ケーブル
- 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

オプション設定を確認します — 推奨されている設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。次に、セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**オプションの設定に進みます。**Serial Port**設定(シリアルデバイスの場合)または**Parallel Port**設定(パラレルデバイスの場合)が、推奨されている設定と一致しているか確認します。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 特定のソフトウェアで問題が発生する場合、推奨されているシリアルポートまたはパラレルポート設定について、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。ポートの設定が、推奨されている設定と一致しているか確認します。

Dell診断プログラムを実行します — テストが完了しない場合、Dellにお問い合わせください。

デバイスをテストします — デバイスを正常に機能している比較可能デバイスと交換します。

サウンドとスピーカーの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

スピーカーから音がしない場合

メモ: MP3プレイヤーの音量調節は、Windows®の音量調節より優先されることがあります。MP3の音楽を聴いていた場合、プレイヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーに付属のセットアップ図に示すように、スピーカーが接続されているか確認します。

サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属のセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音のひずみを解消します。

Windowsのボリュームコントロールを調整します — 画面の右下隅のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — ヘッドフォンがコンピュータの正面パネルヘッドフォンコネクタに接続されている場合、スピーカーからのサウンドは自動的に無効になります。

コンセントをテストします — 電気スタンドなどの別のデバイスを使って、コンセントが機能しているか確認します。

起こりうる干渉を解消します — 近くのファン、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切り、干渉を調べます。

スピーカーの診断プログラムを実行します — いくつかのスピーカーシステムには自己診断プログラムがあります。診断プログラムの手順については、スピーカーのマニュアルを参照してください。

オーディオ(サウンド)ドライバを再インストールします — 「ドライバ」を参照してください。

デバイスのオプション設定を確認します — セットアップユーティリティ を起動し、**Integrated Devices**オプションの**Sound** が**On**に設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了し、コンピュータを再起動します。

Dell診断プログラムを実行します—

- テストが正常に終了した場合、コントローラは正常に機能しています。
- 問題が解決しない場合、またはテストが正常に完了しない場合、Dellにお問い合わせください。

割り込み要求のコンフリクトがないか確認します — 「ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決」を参照してください。

ヘッドフォンから音がしない

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかり接続されているか確認します。

Windowsのボリュームコントロールを調整します — 画面の右下隅のスピーカーアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

デジタルモードを無効にします — CDドライブがデジタルモードで動作している場合、お使いのヘッドフォンを機能しません。デジタルモードを無効にするには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**コントロールパネル**をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス**をクリックします。
2. **サウンドとオーディオデバイス**をクリックします。
3. **ハードウェア**タブをクリックします。
4. CDドライブの名前をダブルクリックします。
5. **プロパティ**タブをクリックします。
6. **このCD-ROMデバイス用のデジタルCDオーディオを有効にする**ボックスのチェックを外します。

システム基板の問題

次のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

Dell診断プログラムを実行します — コンピュータを再起動し、Dell診断プログラムを実行します。いずれかのテストに失敗した場合、Dellにお問い合わせください。

警告: この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

電源装置ケーブルの接続を確認します —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。
2. 電源装置の電源ケーブルが、システム基板上のコネクタにしっかり接続されているか確認します。
3. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。

「カードの問題」のすべてのチェック事項を実行します

「キーボードの問題」のすべてのチェック事項を実行します

警告: この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

バッテリを取り付けなおします — 1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータを開きます。 2. バッテリを取り外し、5秒待ってからバッテリを取り付けます。 3. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。 それでも問題が解決しない場合、Dellにお問い合わせください。

警告: この項の手順を開始する前に、『システム情報ガイド』の安全上の注意を参照してください。

メモリモジュールを取り付けなおします — 1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから外します。10～20秒待ってコンピュータカバーを開きます。 2. システム基板から離れるように電源装置を動かします。 3. メモリモジュールを取り付けます。 4. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続してから電源を入れます。 表示されたRAMの数値がコンピュータに実際に取り付けられたメモリ容量と一致していない場合、Dellにお問い合わせください。

ビデオとモニタの問題

以下のチェックを完了し、診断チェックリストに必要事項を記入してください。

画面に何も表示されない場合

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニタのマニュアルを参照してください。

モニタの電源ライトを確認します — 電源ライトが消えている場合、ボタンをしっかり押して、モニタに電源が入っているか確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニタには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。
モニタケーブルの接続を確認します — コネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します。（モニタのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。）
コンセントをテストします — 電気スタンドなどの別のデバイスを使って、コンセントが機能しているか確認します。
電源ケーブルを交換します — コンピュータおよびモニタの電源ケーブルを交換し、電源ケーブルに障害があるかどうか確認します。
ビデオ延長ケーブルをテストします（使用している場合） — 使用しているビデオ延長ケーブルを取り外すことによって問題が解決する場合、ケーブルの不良です。
別のモニタをテストします — 別のモニタが利用できる場合、それをコンピュータに接続します。
診断ライトを確認します — 「診断ライト」を参照してください。
カードの設定を確認します — セットアップユーティリティを起動し、**Integrated Devices**オプションの**Primary Video Controller**が正しく設定されているか確認します。AGPカードの場合、**Primary Video Controller**を**AGP**に設定します。PCIカードの場合、**Primary Video Controller**を**Auto**に設定します。セットアップユーティリティを終了し、コンピュータを再起動します。
Dell診断プログラムを実行します — いずれかのテストに失敗する場合、Dellにお問い合わせください。

画面が読みにくい場合

モニタの設定を確認します — コントラストや明るさを調整したり、モニタから磁気を除いたり、モニタの自己テストを実行したりする手順については、モニタのマニュアルを参照してください。 **メモ:** 解像度が正しく設定されていないと、フラットパネル画面はぼやける場合があります。画面解像度を設定する手順については、モニタのマニュアルを参照してください。
モニタからサブウーハーを遠ざけます — スピーカーシステムにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーがモニタから60 cm以上離れているか確認します。
モニタを外部電源から遠ざけます — ファン、蛍光灯、ハロゲンライト、およびその他の電気製品によって画面が「ぶれる」ことがあります。近くのデバイスの電源を切って干渉を調べます。
Windows®の画面設定を調整します — Windows XP 1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロールパネル**をクリックします。 2. **デスクトップの表示とテーマ**をクリックします。 3. **画面解像度を変更する**をクリックして、**設定**タブをクリックします。 4. **画面の解像度**および**画面の色**で別の設定にしてみます。 Windows 2000 1. **スタート**ボタンをクリックし、**設定**をポイントして、**コントロールパネル**をクリックします。 2. **画面**アイコンをダブルクリックして、**設定**タブをクリックします。 3. **画面の領域**または**デスクトップ領域**で別の設定にしてみます。
推奨された設定に復元します — 元の解像度およびリフレッシュレート設定に復元します。

目次ページに戻る

Dell Precision™ Workstation 350 User's Guide

Notes, Notices, and Cautions

NOTE: A NOTE indicates important information that helps you make better use of your computer.

NOTICE: A NOTICE indicates either potential damage to hardware or loss of data and tells you how to avoid the problem.

CAUTION: A CAUTION indicates a potential for property damage, personal injury, or death.

Abbreviations and Acronyms

For a complete list of abbreviations and acronyms, see the Glossary.

Model DHM

January 2003 P/N 3T439 Rev. A02

目次ページに戻る

保証に関する情報

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

Dell Computer Corporation（「Dell」）は、ハードウェア製品を業界標準慣習に従い、新品、またはそれと同等の部品からコンピュータを製造しています。コンピュータの保証に関するご案内の詳細については、『サービス＆サポートのご案内』を参照してください。

目次ページに戻る

目次ページに戻る

Microsoft® Windows® XPについて

Dell Precision™ Workstation 350 ユーザーズガイド

概要

Windows 2000オペレーティングシステムがより強化されたWindows XPには、一般ユーザー用のWindows XP Home Editionおよびビジネス用のWindows XP Professionalがあります。このマニュアルで述べる特徴は両方のエディションで利用可能ですが、Professionalバージョンはビジネス環境に対応しており、ビジネス環境において重要となる生産性、セキュリティ、ネットワーキング、および管理機能がより充実しています。

一般ユーザーの方には、Windows XPはWindows 2000/Windows NT®オペレーティングシステムで固有に備わっていた安定性とセキュリティを一層高めて提供します。ノートブックコンピュータへのサポートも向上しています。Windows XPの主な新しい機能には、以下のものがあります。

- 改良されたデスクトップとユーザーインタフェース
- ファイルと設定の転送ウィザード
- アプリケーションプログラムの互換性の強化
- システムの復元
- ユーザーの簡易切り替え*
- 拡張された家庭用および小企業用ネットワーク機能*
- インターネット常時接続用パーソナルファイアウォール*

  *家庭用および小企業用の機能

ヘルプとサポートセンター

ヘルプとサポートセンターは、Microsoft Windows Millennium Edition（Me）で導入された、以前のオペレーティングシステムのWindowsヘルプに代わるものです。ヘルプとサポートセンターでは、コンピュータおよび搭載されているハードウェアデバイスとインストールされたソフトウェアの使用、設定、およびトラブルシューティングの情報提供と支援をする統合リソースセンターを提供しています。Windows XPの場合、ヘルプとサポートセンターはフルテキスト検索を含む充実した検索機能、およびハードドライブ上のファイルに加えて複数のリモートサイトでの検索機能を備えています。プリントコマンドを1回使用するだけで、章全体のヘルプの内容を印刷できます。

ヘルプとサポートセンターを開くには、**スタート**ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート**をクリックします。ホームページから検索したり、情報のカテゴリを選んで、コンピュータの使用についての作業や情報トピックに進むことができます。インストールされているハードウェアデバイスとソフトウェアを含む、お使いのDell™コンピュータの使用方法についての情報は、**ユーザーガイドおよびシステムガイド**をクリックしてください。

新しいユーザーインタフェース

Windows XPでは、ユーザーインタフェースは新しいスタイルになり、すっきりしたデスクトップと組み込みのデスクトップクリーンアップ機能が提供されています。Windows XPでは**コントロールパネル**などでウィンドウレイアウトも変更され、タスクがわかりやすくなっています。**スタート**メニューも新しくなりました。新しい**スタート**メニューの左側には、よく使われるアイコンが含まれています。コンピュータを使っていくと、この領域のアイコンが変わり、ご使用パターンに基づいて配置されます。アイコンの1つを常に所定の位置に置きたい場合、そのアイコンを右クリックして、**[スタート]メニューにアイコンを追加**をクリックします。

コンピュータにインストールされたすべてのプログラムにアクセスするには、**スタート**メニューにある**すべてのプログラム**をクリックします。新しい**スタート**メニューの右側には、ファイルへのアクセス、コンピュータの設定、および情報の検索に便利なアイコンが含まれています。**Dell Solution Center**アイコンは、お使いのDellコンピュータにインストールされたサービスやアプリケーションプログラムへの入り口です。

クラシック表示への切り替え

スタートメニュー、デスクトップ、およびウィンドウの外観、または**コントロールパネル**のレイアウトを以前のWindowsオペレーティングシステムと同じに変更することができます。これらのクラシック表示オプションはお互いに独立しています。

コントロールパネルウィンドウの左上の部分で**クラシック表示に切り替える**または**カテゴリの表示に切り替える**をクリックして、新しい**コントロールパネル**のカテゴリの表示とクラシックアイコンの表示を簡単に切り替えることができます。新しい表示は、Windows XP**コントロールパネル**の新しいタスク重視機能を十分に利用するのに便利ですが、タスクによっては、今までのアイコンを使って**コントロールパネル**で実行する方が慣れていてよいかもしれません。

スタートメニューを以前と同じように表示するには、次の手順を実行します。

1. タスクバーの何も表示されていない部分を右クリックします。
2. **プロパティ**をクリックします。
3. **[スタート]メニュー**タブをクリックします。
4. **クラシック[スタート]メニュー**を選んで**OK**をクリックします。

ウィンドウとボタンを以前と同じように表示するには、次の手順を実行します。

1. メインデスクトップ画面上で右クリックして、**プロパティ**をクリックします。

2. **デザイン**タブをクリックします。

3. **ウィンドウとボタン**ドロップダウンボックスから、**Windowsクラシックスタイル**を選びます。

4. 色、フォント、および他のデスクトップオプションをカスタマイズするには、**詳細設定**をクリックします。

5. 外観の選択が終了したら、**OK**をクリックします。

デスクトップクリーンアップウィザード

Windows XPの他の特徴として、デスクトップクリーンアップウィザードがあります。このウィザードは、コンピュータを最初に起動してから7日後に実行され、その後は60日おきに実行されます。デスクトップクリーンアップウィザードは最初にダイアログボックスを開いて、デスクトップに使用されていないアイコンがあることを知らせ、ウィザードを実行するかどうか聞いてきます。ウィザードを実行するよう選んだ場合、未使用のアイコンが**C:\Desktop Icons**フォルダに入れられます。

デフォルトでデスクトップクリーンアップウィザードはオンになっています。ウィザードをオフにするには、次の手順を実行します。

1. メインデスクトップ画面上で右クリックして、**プロパティ**をクリックします。

2. **デスクトップ**タブを選び、**デスクトップのカスタマイズ**をクリックします。

3. **デスクトップのクリーンアップ**オプションで、**60日ごとにデスクトップクリーンアップウィザードを実行する**ボックスにチェックマークが付いていないことを確認します。

次の手順を実行して、いつでもデスクトップクリーンアップウィザードを実行することができます。

1. メインデスクトップ画面上で右クリックして、**プロパティ**を選びます。

2. **デスクトップ**タブをクリックして、**デスクトップのカスタマイズ**をクリックします。

3. **デスクトップをクリーンアップする**をクリックします。

4. **デスクトップクリーンアップウィザード**のようこそ画面が表示されたら、**次へ**をクリックします。

5. **ショートカット**の一覧で、デスクトップに残しておくショートカットの選択を解除してから、**次へ**をクリックします。

6. **完了**をクリックし、ショートカットを削除して、ウィザードを閉じます。

   ショートカットは**C:\Desktop Icons**フォルダに移動します。

Windows XPが削除したデスクトップアイコンにアクセスするには、**スタート**ボタンをクリックしてから、**Dellソリューションセンター**をクリックします。

タスクバーのグループ化

Windowsタスクバーは通常は画面の下部に位置し、ボタンが一列に並んでいます。タスクバーには、**スタート**メニューボタンや各アプリケーションを開くボタンがあります。（タスクバーにはクイック起動アイコンと通知領域もあります。）Windows XPは、タスクバーの同じアプリケーションの複数のインスタンスをグループ化します。たとえば、Internet Explorerのインスタンスが6つ開いていて、それぞれがタスクバーにボタンを表示している場合、Windows XPは、タスクバーのボタンをグループにします。タスクバーのスペースが無くなってきたら、Windows XPはすべてのInternet Explorerボタンを1つのボタンにまとめます。ボタンをクリックすると、Internet Explorerの6つのアクティブなセッションのメニューに広がります。

通知領域のクリーンアップ

コンピュータを使っていると、Windowsデスクトップの右下角の通知領域にソフトウェアのアイコンが増えてきます。Windows XPは、通知領域にあるアクセスされていないアイコンを検出し非表示にします。キャレット（∧）またはシェブロン（>）ボタンは、そのボタンを選ぶと表示できる非表示のアイコンがあることを示しています。タスクバーを右クリックし、**プロパティ**を選び、**タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ**ウィンドウで**カスタマイズ**をクリックして、手動で通知領域を設定することもできます。たとえば、アクセス回数が少ないウイルス検出ソフトアイコンを選んで非表示にし、よく使用するオーディオの音量アイコンを表示することができます。通知領域のクリーンアップ機能は、オペレーティングシステムのインストール時に自動的に有効になっていますが、**タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ**ウィンドウの**アクティブでないインジケータを隠す**のチェックマークを外すと無効になります。

ファイルと設定の転送ウィザード

ファイルと設定の転送ウィザードは、個人的なファイルと設定をコンピュータ間で移動するのに使用します（たとえば、新しいコンピュータに買い換えた場合など）。個人ファイルには、コンピュータ上の文書、イメージ、表計算、プレゼンテーション、電子メールメッセージなどが含まれます。ユーザー設定には、コンピュータのディスプレイのプロパティ、ウィンドウのサイズ、ツールバーの設定、ダイヤルアップ接続、インターネットのブックマークなどが含まれます。ファイルと設定の転送ウィザードは、元の（古い）コンピュータ上で実行してデータを集め、移行先（新しい）コンピュータでもう一度実行してデータをインポートします。古いコンピュータが以前のオペレーティングシステムを使用している場合、ウィザードはWindows XPのCD、または新しいWindows XPコンピュータで作成したディスケットから起動できます。新しいコンピュータにネットワークまたは直接シリアル接続を介してデータを移行するか、フロッピーディスク、Zipディスク、または書き込み可能CDなどのリムーバブルメディアに保存します。

ファイルと設定の転送ウィザードを使用するには、次の手順を実行します。

1. 新しいWindows XPコンピュータで、**スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ→ システムツール**とポイントして、**ファイルと設定の転送ウィザード**をクリックします。

2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始**画面で、**次へ**をクリックします。

3. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ**を選んでから、**次へ**をクリックします。

4. **Windows XP CDがありますか?** 画面が表示されます。

ファイルと設定の転送ウィザードは、ユーザー設定、個人ファイル、またはその両方を新しいコンピュータに移行するのに必要な手順を案内します。CDドライブが利用できない場合、ウィザードを使って、古いコンピュータ上で実行するウィザードディスケットを作成することができます。

 メモ: データの収集と移行にかかる時間は、収集するデータ量によって異なります。これには数分間から数時間かかることがあります。

アプリケーションとデバイスの互換性

Windows XPは広範囲なアプリケーションプログラムやハードウェアデバイスに対応するよう設計されていますが、古いプログラムやデバイスの中には使用できないものもあります。**www.microsoft.com/japan**のMicrosoftウェブサイトで、アプリケーションプログラムとハードウェアデバイスについての互換性情報をお読みください。新しいソフトウェアやデバイスをご購入になる際は、Windows XP対応のラベルがあるか確認してください。以前のWindowsオペレーティングシステム用に設計されているアプリケーションプログラムを使用していて問題が発生した場合、Windows XPが互換性モード機能を提供します（「プログラム互換性ウィザード」を参照）。以前のWindowsオペレーティングシステムで動作するよう設計されているアプリケーションプログラムやハードウェアデバイスのインストールがうまくいかなかった場合、Windows XPについての情報やWindows XPへのアップデートについては、製品の製造元にお問い合わせください。

Windows XPには、Windows用アプリケーションプログラムを使うと以前のオペレーティングシステムで発生することのあった問題を解決する新しいテクノロジも含まれています。これらのアプリケーションプログラムはインストール時に、特定のWindowsファイルの現在のバージョンを古いバージョンに置き換えます。このことが原因で、置き換えられたファイルに依存する新しいアプリケーションプログラム

に問題が発生することがあります。オペレーティングシステムの安定性の問題を解消し、改善するために、Windows XPは複数のバージョンのファイルを管理して、プログラムに必要な正しいバージョンを使用します。

メモ： インストール後にオペレーティングシステムや他のアプリケーションに問題が発生する場合、システムの復元を使って以前の安定した状態にコンピュータを戻すことができます。

プログラム互換性ウィザード

Windows XPでは、古いアプリケーションプログラムを実行しようとするときに発生する可能性のある問題のうちのいくつかを解決する、プログラム互換性機能が提供されています。プログラム互換性ウィザードを使って、Windows 95、Windows 98/Me、Windows NT® 4.0 with Service Pack 5、またはWindows 2000に近い環境でプログラムを実行するよう設定することができます。

プログラム互換性ウィザードを使用するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ**とポイントして、**プログラム互換性ウィザード** をクリックします。
2. ようこそ画面が表示されたら、**次へ**をクリックします。
3. 互換性設定を実行するプログラムの場所の指定方法を、リストから、CDを利用、または手動で指定の中から選びます。**次へ**をクリックします。
4. プログラムが対応している、または正常に実行したオペレーティングシステムのタイプを選んでから、**次へ**をクリックします。
5. 必要な場合、ゲームについてはプログラムの画面設定を選びます。
6. **次へ**をクリックします。
7. プログラムの設定の互換性をテストするには、**次へ**をクリックします。

   プログラムが正常に実行することを確認したら、**プログラム互換性ウィザード**ウィンドウに戻ります。

8. プログラムが正常に実行されたら**はい**を選び、そうでない場合 **いいえ、別の互換性の設定を試します**、または**いいえ、互換性の設定を完了します**を選んでから、**次へ**をクリックします。
9. **はい**を選んで使用した設定についての情報、および問題が解決したかどうかの情報を送信するか、**いいえ**を選んでから、**次へ**をクリックします。
10. **完了**をクリックしてウィザードを閉じます。

システムの復元

Windows XPのシステムの復元機能は、問題が発生した場合に個人データファイル（ワード文書、画像、電子メールなど）を失わずにオペレーティングシステムを復元する機能を提供します。

システムの復元はシステムファイルの変更やアプリケーションファイルの変更を監視して、変更が起こる前の以前のバージョンを記録または保存します。システムの復元は、復元ポイントのローリング記録を保持します。つまり、使用容量を抑えるために古い復元ポイントを削除して新しいポイント用のスペースを作ります。

オペレーティングシステムに重大な問題が発生した場合、システムの復元はセーフモードまたは通常モードから使用でき、最適なシステム機能を復元して以前のシステム状態に戻すことができます。

メモ： システムの復元は、ユーザーデータまたは文書ファイルを変更しませんので、復元によってファイル、メール、履歴やお気に入りがなくなることはありません。

メモ： Dellは、データファイルを定期的にバックアップすることをお勧めしています。システムの復元は、データファイルの変更を監視したり、データファイルを復元しません。ハードドライブにある元のデータが誤って削除されたり、上書きされた場合、またはハードドライブの誤作動でアクセス不能になった場合、無くなったデータや損傷したデータを復元するにはバックアップファイルが必要です。

システムの復元の使い方

システムの復元は、システムファイルおよびアプリケーションプログラムファイルの主要なセットを監視し、変更される前のこれらのファイルの状態を記録したりコピーします。システムの復元は復元ポイントを自動的に作成するので、ユーザーが介入する必要はありません。また、ご希望の場合、復元ポイントを手動で作成できます。

以前のシステム状態を選ぶことができるように、復元ポイントが作成されます。各復元ポイントは、特定の時点のシステム状態に復元するのに必要な情報を集めます。復元ポイントには3種類あります。

- システム（自動的に作成）復元ポイント（コンピュータでスケジュールされています）
- インストール（イベントが起動）復元ポイント（プログラムがインストールされた時）
- 手動復元ポイント（ユーザーが必要に応じて作成します）

スケジュールされた自動復元ポイント

デフォルトで、システムの復元はコンピュータを実行する日すべてに復元ポイントを作成します。コンピュータの電源が1日以上切られている場合、次にコンピュータの電源を入れた時に新しい復元ポイントが作成されます。

イベントが起動する復元ポイント

イベントが起動する復元ポイントは、システムに重要な変更が加えられる前に作成されます。システムの復元は、以下のイベントの前に復元ポイントを作成します。

- アプリケーションのインストール — システムの復元が、Windows XP対応のアプリケーションプログラムをインストールする前に復元ポイントを作成します。古いプログラムをインストールする場合、インストール前に手動で復元ポイントを作成するとよいでしょう。
- 自動更新のインストール — アップデートをインストールする場合、システムの復元はアップデートの実際のインストールが開始する前に復元ポイントを作成します。
- 復元の操作 — 元に戻せるよう復元操作自体も復元ポイントを作成します。
- Microsoftバックアップユーティリティの回復 — Microsoftバックアップユーティリティ（Windows XP Professionalでのみ利用可能）がバックアップの回復をおこなう前にシステムの復元は復元ポイントを作成します。
- 未署名ドライバのインストール — WindowsのINFインストーラは署名のないデバイスドライバのインストールを検出します。署名のあるドライバ（デバイスの製造元が電子的に認定した）は、復元ポイントを生成しません。

手動復元ポイント

コンピュータ管理者、または管理者権限を持つユーザーとしてコンピュータにログオンする場合、オンデマンドの復元ポイントを作成したり、名前を付けることができます。（ユーザーアカウントのタイプについての情報は、「ユーザーの追加」を参照してください。）これは、特にリスクの大きい変更を加える前、共有システムを別のユーザーに任せる前、または最適だと思われる特定の状態に戻るためのチェックポイントを作成するために役立ちます。

復元ポイントを作成するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。
2. **復元ポイントの作成**を選んで、**次へ**をクリックします。
3. 復元ポイントの説明を入力して **作成**をクリックします。

   日付と時刻が新しい復元ポイントの説明に自動的に追加されます。

復元処理

コンピュータを使用していくと、管理や介入をしなくても復元ポイントが集められます。オペレーティングシステムに問題が発生した場合、システムの復元機能を使ってシステムの復元ウィザードが示す復元ポイントのいずれかを選ぶことができます。

デバイスドライバのインストール後に問題が発生した場合、まずドライバのロールバックを使ってみます。それでも問題が解決しない場合、システムの復元を使用します。

コンピュータを以前の安定した状態に戻すには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。
2. **コンピュータを以前の状態に復元する**を選んで、**次へ**をクリックします。

   復元ポイントの選択画面が表示されます。左側のカレンダーに、復元ポイントが作成された日付が太文字で示されています。

3. 日付をクリックし、その日付の復元ポイントをクリックして、**次へ**をクリックします。
4. **次へ**をクリックして復元ポイントの選択を確認し、復元処理を完了します。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、コンピュータが自動的に再起動し、**復元は完了しました**画面が表示されます。

5. **OK**をクリックします。

   復元の結果に満足がいかない場合、別の復元ポイントを使って前の手順を繰り返したり、復元を元に戻すことができます。

復元を元に戻すには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → システムツール**とポイントしてから、**システムの復元**をクリックします。
2. **以前の復元を取り消す**を選んで、**次へ**をクリックします。
3. **次へ**をクリックして復元を元に戻すことを確認します。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、コンピュータが自動的に再起動し、**取り消し完了**画面が表示されます。

4. **OK**をクリックします。

ドライバのロールバック

Windows XPデバイスのドライバのロールバックは、デバイスドライバを以前にインストールしたバージョンと置き換えることができます。新しいデバイスドライバをインストールしたらシステムが不安定になった場合、ドライバのロールバックを使って以前のドライバを再インストールします。ドライバのロールバックが以前のドライバを再インストールできない場合、システムの復元を使って新しいデバイスドライバのインストール前の状態にオペレーティングシステムを戻します。

ドライバのロールバックを使用するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックして、**マイコンピュータ**を右クリックします。
2. **プロパティ**をクリックします。
3. **ハードウェア**タブをクリックして、**デバイスマネージャ**をクリックします。
4. **デバイスマネージャ**ウィンドウで、新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックして、**プロパティ**をクリックします。
5. **ドライバ**タブをクリックして、**ドライバのロールバック**をクリックします。

ユーザーアカウントおよびユーザーの簡易切り替え

メモ: ユーザーの簡易切り替えは、HomeおよびProfessional エディションの両方のデフォルトユーザー画面ですが、Windows XP Professionalではコンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合、無効になっています。

Microsoft Windows XPには、1台のコンピュータに複数のユーザーがアクセスできる新しい機能が含まれています。HomeおよびProfessional エディションの両方で利用可能なユーザーの簡易切り替えを使って、以前のユーザーがログオフしなくても、ユーザーはデスクトップや各種アプリケーションを含む自分の設定でそのコンピュータにアクセスすることができます。新しいユーザーは、ログオンしてから元のユーザーのセッションを自分のセッションに切り替えます。新しいユーザーは、デスクトップとアプリケーションを元のユーザーのじゃまにならずに実行できます。元のユーザーが戻ったとき、そのユーザーはデスクトップとアプリケーションを元の設定に戻すことができます。個々のユーザーがコンピュータからログオフしなくても、以上のことが実行できます。

セットアップ中に、コンピュータ管理者はコンピュータで使われるすべてのアカウントを作成します。（アカウントのタイプと新しいアカウントの追加方法についての情報は、「ユーザーの追加」を参照してください。）コンピュータが起動したら、メインユーザーの**ようこそ**画面にすべてのユーザー名が表示されます。この画面から、アカウントを選んでセッションにログインします。

ユーザーの簡易切り替えの使い方

ユーザーの簡易切り替えにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックして、**ログオフ**をクリックします。
2. **Windowsのログオフ**の画面が表示されたら、**ユーザーの切り替え**または**ログオフ**をクリックします。
3. **ユーザーの切り替え**を選んだ場合、メインユーザー**ようこそ**画面が表示されます。次に、アカウント名を選んでログインします。

個人のデスクトップが表示されます。

ユーザーの簡易切り替えで起こること

ユーザーの簡易切り替えを実行すると、元のユーザーは以前のMicrosoftオペレーティングシステムでおこなわれていたのと異なり、コンピュータからログオフされません。Windows XPでは、ユーザーのログオンはアクティブのまま残りますが、新しいユーザーと置き換わります。ユーザーはログインID間を自由に切り替えることができます。

ただし、アクティブなユーザーアプリケーションはユーザー切り替え中はアクティブのまま残り、新しいユーザーが作業中はバックグランドで実行され続けます。このことにより処理が終了するまでコンピュータが遅くなることがあります。たとえば、1人のユーザーが大きなファイルをインターネットからダウンロード中に別のユーザーがコンピュータにログオンした場合、ファイルのダウンロードは完了するまでバックグランドで継続されます。

ほとんどのアプリケーションはユーザーの簡易切り替え中にバックグランドで実行され続けますが、マルチメディアアプリケーションは実行しません。マルチメディアアプリケーションは1台のシステムで異なったユーザー間で簡単に共有できないリソースを使用しますので、これらのアプリケーションはユーザー切り替えの間終了して新しいユーザーがマルチメディアを最大限に利用できるようにします。

ユーザーの簡易切り替えに対する考慮

ユーザーの簡易切り替えを使用する場合、以下のことを考慮に入れてください。

- 古いWindowsゲームによっては、ユーザーの簡易切り替えで動作しないものがあります。
- マルチメディアゲームは、ユーザーの簡易切り替えでは終了することがあります。
- DVDソフトウェアは終了し、ユーザーが戻ったときに再起動する必要があります。
- メモリ構成が低いコンピュータでは、問題が発生することがあります。コンピュータはメモリを使って、2番めのユーザーがログオンしている間に最初のユーザーのプログラムをバックグランドで実行し続けます。メモリが限られているコンピュータでは、これにより全体的なコンピュータの速度が遅くなることがあります。RAMが128 MB以下のコンピュータでは、ユーザーの簡易切り替え はデフォルトではオフになっています。

コンピュータにWindows XP Professionalがインストールされていてコンピュータドメインのメンバーである場合、ユーザーの簡易切り替えは利用できません。

ユーザーの簡易切り替えをオフにする

ユーザーの簡易切り替えをオフにするには、コンピュータ管理者のアカウントが必要です。(アカウントのタイプについては、「ユーザーの追加」を参照してください。)

ユーザーの簡易切り替えを無効にするには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロール パネル**をクリックします。
2. **コントロール パネル**ウィンドウで、**ユーザーアカウント**をクリックします。
3. **作業を選びます**で、**ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する**をクリックして、以下のうちの1つを実行します。
   - **ユーザーの簡易切り替えを使用する**チェックボックスを選んで、ユーザーの簡易切り替えを有効にします。
   - **ユーザーの簡易切り替えを使用する**チェックボックスの選択を解除して、ユーザーの簡易切り替えを無効にします。
4. **オプションの適用**をクリックします。

ユーザーの追加

コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーのみが、複数のユーザーアカウントを作成することができます。初期オペレーティングシステムセットアップを実行するユーザーがコンピュータ管理者アカウントを作成し、初期セットアップ中に任意の数のユーザーを追加することができます。セットアップ中に作成されたすべてのユーザーアカウントには、管理者権限があります。

初期オペレーティングシステムセットアップ後に、コンピュータ管理者または管理者権限のあるユーザーはユーザーアカウントを追加して作成することができます。

ユーザーを追加するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックして、**コントロール パネル**をクリックします。
2. **コントロール パネル**ウィンドウで、**ユーザーアカウント**をクリックします。
3. **作業を選びます**の**ユーザーアカウント**ウィンドウで、**新しいアカウントを作成**をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます**のボックスで、新しいユーザーの名前を入力します。**次へ**をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます**で、**コンピュータの管理者**または**制限**を作成しようとしているアカウントのタイプの横の丸をクリックします。
   - コンピュータ管理者は、すべてのコンピュータ設定を変更することができます。
   - 制限アカウントユーザーは、自分のパスワードなどの設定のみを変更できます。
6. **アカウントの作成**をクリックします。

アカウントを作成したら、すべてのアカウントがユーザーの簡易切り替えの**ようこそ**画面に表示されます。

家庭用および小企業用ネットワーク

ネットワークセットアップウィザードには、家庭または小企業のコンピュータ間でファイル、プリンタ、またはインターネット接続などのリソースの共有処理を説明するチェックリストと手順が含まれています。Windows XPでは、Microsoftは家庭用または小企業用ネットワークのセットアップ用オンラインマニュアルとオペレーティングシステムツールの使い勝手を向上させています。オペレーティングシステムの新しい機能には、PPPoE(Point-to-Point Protocol over Ethernet)とビルトインファイアウォールのサポートが含まれています。

ネットワークセットアップウィザード

ホームネットワークウィザードはWindows Meで最初に導入されました。家庭用または小企業用ネットワークを簡単にセットアップできるよう、MicrosoftはWindows XP用により強化されたネットワークセットアップウィザードを開発しました。このバージョンでは、家庭用または小企業用ネットワークのセットアップにより完全なオンラインマニュアルとサポートを提供しています。新しいウィザードが次の項で説明するパーソナルファイアウォールを自動的に有効にします(「インターネット接続ファイアウォール」を参照)。

ウィザードを使用するには、次の手順を実行します。

1. **スタート**ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → 通信**とポイントしてから、**ネットワークセットアップウィザード**をクリックします。
2. ようこそ画面が表示されたら、**次へ**をクリックします。
3. **ネットワーク作成のチェックリスト**をクリックします。

   チェックリストが家庭用または小企業用ネットワークのセットアップに必要な手順を紹介し、各手順でさまざまな情報を提供します。必要な接続と準備が完了したら、**ネットワークセットアップウィザード**に戻ります。

4. インターネット接続方法を選んで、**次へ**をクリックします。
5. インターネット接続を選んで、**次へ**をクリックします。
6. コンピュータの説明とコンピュータ名を入力してから、**次へ**をクリックします。
7. ネットワーク設定を確認し、**次へ**をクリックしてセットアップを終了します。
8. セットアップ処理が終わったら、**完了**をクリックしてウィザードを閉じます。

インターネット接続ファイアウォール

今日の常時接続モデムやDSLインターネット接続は、今までにはなかったバンド幅を家庭用に提供しますが、接続されているコンピュータや家庭内ネットワークがハッカーの攻撃目標になる可能性がでてきました。これらの攻撃にはいろいろありますが、目的はインターネットに接続されているコンピュータにアクセスすることです。ハッカーはコンピュータにアクセスすると、ハードドライブを参照してファイルを追加したり削除でき、パスワードやクレジットカード番号を取り出したり、他のシステムやウェブサイトを攻撃するようシステムを設定できます。そのため、これらの攻撃からコンピュータを保護するファイアウォールがますます必要になってきています。この必要性に対応するため、MicrosoftはWindows XPに総合ファイアウォールを組み込み、外部からのアクセスへの即時保護を提供しています。インターネット接続ファイアウォールが有効な場合、ほとんどの一般ユーザーや小規模の企業ユーザーには、適切で基本的保護が提供されます。

メモ： インターネット接続ファイアウォールを有効にしても、ウィルス検出ソフトは必要です。

ファイアウォールはネットワークセットアップウィザードを実行するときに自動的に有効になります。ネットワーク接続にファイアウォールが有効になると、**コントロールパネル**の**ネットワーク接続**に赤い背景のあるアイコンが表示されます。インターネット接続ファイアウォールは、コンピュータの各インターネット接続に適用できます。ファイアウォールは、基本ログイン機能も提供します。ログに示されるイベントすべてがハッカーの攻撃というわけではありません。インターネット接続業者がお客様のコンピュータの有無を確認（Ping）するための定期的なチェックなど、害のない様々なタイプのイベントがログに表示されることがあります。

コントロールパネルの各インターネット接続に関連する**プロパティ**ダイアログボックスを使って、ファイアウォールを設定します。ファイアウォールは、有効または無効にできます。上級ユーザーには、追加の設定オプションが利用できます。詳細オプションには、特定のTCP（Transmission Control Protocol）やUDP（User Datagram Protocol）ポートを開いたり閉じたりする機能や、ポートのリダイレクションを有効にする機能などが含まれます。ポートのリダイレクションを使うと、ファイアウォールの特定のポート（ウェブサーバポートのポート80など）へのアクセス要求をローカルネットワークの別のコンピュータに自動的に転送することができます。この機能で、家庭用ネットワークのウェブサーバがエッジファイアウォールで保護できるようになります。

目次ページに戻る